

# 研究センター年報 第6号

## 2016



宇都宮共和大学 子育て支援研究センター  
宇都宮短期大学 地域福祉開発センター

## 研究センター年報 第6号 2016

### 目 次

---

---

#### 子育て支援研究センターの取り組み

---

---

|                                                                     |                                   |
|---------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|
| <b>I. 子育て支援研究センター公開講座報告</b>                                         | 1                                 |
| 序 公開講座の概要                                                           | 1                                 |
| 開講式                                                                 | 宇都宮共和大学学長 須賀 英之 4                 |
| I-1. 第1回公開講座 子どもが将来にわたって幸せに暮らすために<br>～関係性の発達をみつめて～                  | 国際医療福祉大学<br>言語聴覚センター臨床心理士 小林 順子 5 |
| I-2. 第2回公開講座 発達障がいのある子の「いいところ」応援計画                                  | 星槎大学大学院教育学研究科准教授 阿部 利彦 25         |
| I-3. 第3回公開講座 まず、知ってほしい～みんなちがってみんないっしょ～<br>特定非営利活動法人 障がい者福祉推進ネットちえのわ | 43                                |
| <b>II. Tiny (障がいのある子どもと家族の支援) 実践報告</b>                              | 土沢 薫 61                           |
| <b>III. 地域の幼稚園・保育所との交流を取り入れた保育者養成教育実践報告</b>                         | 高柳 恭子 73                          |
| III-1. 第1回交流活動「体操や伝承遊びで体を思いっきり動かして遊ぼう」                              | 月橋 春美 74                          |
| III-2. 第2回交流活動「『子どもの森』で遊ぼう」                                         | 桂木 奈巳 78                          |
| III-3. 第3回交流活動「いろいろな遊びを楽しもう」                                        | 市川 舞 84                           |
| <b>IV. 親子遊びの会－子育てネットワークづくりプロジェクト－実践報告</b>                           | 長尾 恵子・田所 順子 91                    |

|                                       |     |
|---------------------------------------|-----|
| <b>V. 宇都宮共和大学子ども生活学部卒業研究</b>          | 99  |
| 平成26年度卒業研究題目一覧                        | 99  |
| 全国保育士養成協議会関東ブロック協議会 第28回学生研究発表会発表研究要旨 | 100 |
| 平成27年度卒業研究題目一覧                        | 104 |
| 全国保育士養成協議会関東ブロック協議会 第29回学生研究発表会発表研究要旨 | 106 |

---



---

### 資料（子育て支援研究センター）

---



---

|                           |     |
|---------------------------|-----|
| I. 子育て支援研究センター活動報告        | 113 |
| II. 専任教員の社会貢献活動           | 116 |
| III. 宇都宮共和大学子育て支援研究センター規定 | 122 |

---



---

### 地域福祉開発センターの取り組み

---



---

|                                                                             |           |
|-----------------------------------------------------------------------------|-----------|
| <b>I. 人間福祉学科の地域社会に向けた公開講座、正規授業の開放等</b>                                      | 127       |
| 1. 各種活動                                                                     |           |
| (1)介護職の接遇・マナー                                                               | 山屋恵美子 127 |
| (2)福祉施設におけるレクリエーション活動 ～手芸による生活支援～                                           | 百田 裕子 128 |
| (3)社会福祉士国家試験対策講座                                                            | 平賀 紀章 130 |
| (4)彩音祭における出展協賛事業                                                            | 平賀 紀章 131 |
| (5)長坂のサンマ祭り（チャリティー事業）                                                       | 中川 英子 131 |
| 2. 課題                                                                       | 百田 裕子 131 |
| <b>II. 地域社会の行政、商工業、教育機関及び文化団体等との交流活動</b>                                    | 133       |
| 1. 各種活動                                                                     |           |
| (1)地域社会の行政との交流活動                                                            |           |
| ①平成27年度社会福祉施設新任職員研修会（後期）                                                    | 小野 篤司 133 |
| ②平成27年度子育て支援員研修「乳幼児の食事と栄養」                                                  | 百田 裕子 134 |
| ③平成27年度短期スキルアップ講習 介護技術<br>～ボディメカニクスってこんなに凄い!!<br>きちんと理解し、活用した介護技術を身につけましょう～ | 山屋恵美子 135 |
| 2. 課題                                                                       | 百田 裕子 136 |

|                                                   |                         |     |
|---------------------------------------------------|-------------------------|-----|
| (2)教育機関等との交流活動                                    | 百田 裕子                   | 137 |
| ①宇都宮短期大学附属高校生活教養科3年「特別授業」                         |                         |     |
|                                                   | 川津 孝代・中川 英子             | 137 |
| ②小山北桜高校                                           |                         |     |
| 福祉・介護の礎としての対人援助スキル（コミュニケーション）講座                   |                         |     |
|                                                   | 益川 順子                   | 138 |
| ③宇都宮共和大学（子ども生活学部）・宇都宮短期大学（人間福祉学科）                 |                         |     |
| 「特別授業」                                            |                         |     |
| 「行事食と食材－食材に込められた意味を知っておいしく食べていただく支援」              |                         |     |
|                                                   | 百田 裕子                   | 139 |
| ④宇都宮短期大学附属高校生活教養科1年「福祉体験学習」                       |                         |     |
| 「全体講話」                                            | 天野 マキ                   | 140 |
| 「体験学習」                                            | 中川 英子・百田 裕子・堀 圭三        |     |
|                                                   | 山屋恵美子・平賀 紀章・小野 篤司・勝浦美智恵 | 140 |
| ⑤益子芳星高校 高大連携授業「子どもの発達と離乳食」                        | 百田 裕子                   | 140 |
| ⑥宇都宮短期大学附属高校普通科応用文理コース2年「福祉授業」                    |                         |     |
| 1)「美容福祉とコミュニケーション」                                | 川津 孝代・中川 英子             | 141 |
| 2)「高校生のためのスクール・ソーシャルワーク入門<br>～スクール・ソーシャルワーカーの仕事～」 | 土屋 佳子                   | 141 |
| 3)「病院で働く専門職～医療事務とMSW～」                            | 平賀 紀章                   | 141 |
| ⑦宇都宮短期大学附属中学校1年「福祉特別授業」                           |                         |     |
| 1)「福祉講話」                                          | 天野 マキ                   | 141 |
| 2)「体験実習」                                          | 中川 英子・百田 裕子・堀 圭三        |     |
|                                                   | 山屋恵美子・平賀 紀章・小野 篤司・勝浦美智恵 | 141 |
| ⑧宇都宮短期大学附属高校調理科2年「福祉特別授業」                         |                         |     |
| 1)「福祉調理実習」                                        | 百田 裕子                   | 142 |
| 2)「福祉レクリエーション」                                    | 月橋 春美                   | 142 |
| ⑨わくわく春の大学体験講座                                     |                         |     |
| 1)「車イスでダンスに挑戦」                                    | 山屋恵美子                   | 142 |
| 2)「福祉の仕事って何?」                                     | 堀 圭三・小野 篤司              | 142 |
| 3)「楽しく作っておいしく食べよう」                                | 百田 裕子                   | 142 |
| 4)「おもしろ医療事務講座」                                    | 北爪あゆみ                   | 142 |
| 5)「美容と福祉－ネイルケア体験－」                                | 川津 孝代・信夫扶美子             | 142 |

### Ⅲ. 教職員及び学生のボランティア等による地域貢献活動 143

#### 【人間福祉学科】

##### 1. 各種活動

- |                   |                   |     |
|-------------------|-------------------|-----|
| ①出前ファッションショー第1・2回 | 川津 孝代・信夫扶美子       | 143 |
| ②出前美容福祉ボランティア     | 川津 孝代・信夫扶美子・中川 英子 | 144 |
| ③学生のボランティア活動      | 堀 圭三              | 145 |
| 2. 課題             | 百田 裕子             | 146 |

#### 【音楽科】

##### 1. 各種活動

- |                             |             |     |
|-----------------------------|-------------|-----|
| 音楽療法士専攻コースによるボランティア活動報告     | 大島美知恵       | 147 |
| ①Tiny（障害幼児と親子のつどい）          | 山本久美子・大島美知恵 | 147 |
| ②栃木県済生会宇都宮病院緩和ケア病院でのミニコンサート | 山本久美子・大島美知恵 | 147 |
| ③日本赤十字社足利赤十字病院              | 山本久美子・大島美知恵 | 148 |
| ④社会福祉法人 正栄会 南の里クリスマス会       | 山本久美子・大島美知恵 | 148 |
| ⑤シェームズ クリスマス会               | 山本久美子・大島美知恵 | 149 |
| ⑥認定NPO法人 うりずんクリスマス会         | 山本久美子・大島美知恵 | 150 |
| 2. 課題                       |             | 150 |

---

#### 資料（地域福祉開発センター）

---

- |                          |     |
|--------------------------|-----|
| I. 地域貢献活動一覧表             | 153 |
| II. 専任教員の社会貢献活動          | 157 |
| III. 宇都宮短期大学地域福祉開発センター規定 | 159 |

# 子育て支援研究センターの 取り組み



# I. 子育て支援研究センター公開講座報告

## 序 公開講座の概要

1. テーマ 『一人ひとりの個性を伸ばす保育・教育を考える』
2. 期間 7月～11月の土曜日13：30～16：30（3回シリーズ）
3. 場所 宇都宮共和大学・宇都宮短期大学 長坂キャンパス 5号館
4. 対象 幼稚園教諭、保育士、小・中・高等学校教職員、一般市民、学生
5. ねらい 幼稚園教諭・保育士や子どもの教育・保育にかかわる仕事に従事している学校教職員・行政職員・一般市民を対象に、その専門的知識や技術を研究し、あわせて大学教員と交流することを目的として、連続講座を開講する。
6. 日程と講座内容

|              |                                                                  |                                                                            |
|--------------|------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 第1回<br>7月11日 | 開講式                                                              | 学長 須賀 英之                                                                   |
|              | 第1部 研修会 13：40～14：40                                              | 第2部 講演会 15：00～16：30                                                        |
|              | 子どもと音楽療法<br>宇都宮短期大学音楽科教授<br>山本久美子                                | 子どもが将来にわたって幸せに暮らすために<br>～関係性の発達をみつめて～<br>国際医療福祉大学言語聴覚センター<br>臨床心理士 小林 順子先生 |
| 第2回<br>10月3日 | 第1部 研修会 13：30～14：40                                              | 第2部 講演会 15：00～16：30                                                        |
|              | 障がいのある子どもの絵画指導<br>宇都宮共和大学子ども生活学部教授<br>中畝 治子                      | 発達障がいのある子の「いいところ」<br>応援計画<br>星槎大学大学院教育学研究科准教授<br>阿部 利彦先生                   |
| 第3回<br>11月7日 | 第1部 研修会 13：30～14：40                                              | 第2部 講演会 15：00～16：30                                                        |
|              | 障がいのある子どもたちも一緒に<br>～サイコドラマによる心理療法～<br>宇都宮共和大学子ども生活学部准教授<br>杉本 太平 | まず、知ってほしい<br>～みんながってみんないっしょ～<br>特定非営利活動法人<br>障がい者福祉推進ネットちえのわ               |
|              | 修了式                                                              | 学長 須賀 英之                                                                   |



## 7. 講師紹介

### <講演会>

阿部 利彦先生（星槎大学大学院教育学研究科准教授、星槎大学附属発達支援臨床センター長）

専門は、学校カウンセリング、特別支援教育。教育相談。早稲田大学人間科学部健康科学科卒業、東京国際大学大学院 社会学研究科修了。特別支援教育士SV。おもな著書に『新・発達が気になる子サポート入門』学研教育出版 2014、『通常学級のユニバーサルデザイン プランZERO』東洋館出版 2014、『教科で育てるソーシャルスキル40』2015など多数。

小林 順子先生（国際医療福祉大学クリニック小児精神衛生相談室）

専門は乳幼児から思春期までの子どもと親に対する心理分析的アプローチ。1992年臨床心理士取得、白鷗大学学生相談室、栃木県カウンセリングセンター、フォーウィンズ乳幼児精神保健学会事務局長、栃木県教育委員会スクールカウンセリング事業スーパーバイザー、大田原市教育委員会スクールカウンセラースーパーバイザー、栃木県教育委員会、宇都宮市教育委員会、大田原市教育委員会のいじめ対策調査委員、栃木県教育委員会生涯学習課思春期版家庭教育支援プログラム開発委員長を務める。

平成26年10月から平成27年3月まで半年間下野新聞日曜論壇に投稿。栃木県臨床心理士会副会長、スクールカウンセリング委員会理事、世界乳幼児精神保健学会会員、日本心理臨床学会会員。

### 特定非営利活動法人障がい者福祉推進ネットちえのわ

NPO法人 障がい者福祉推進ネットちえのわ（通称：ちえのわ）は、障がいある人の生き方・くらしに強い関心を持つ会員の活動の場です。ちえのわは、障がいある人の福祉・医療・教育・労働に関する幅広い分野で、文字通り「知恵」を出し合い、啓発や相談、研究や政策提言などの活動を行い、障がい者福祉の「輪」を広げ、そして障がい者の豊かな生活・「和」の社会を実現することを目指しています。障がいの有無にかかわらず、同じ社会・地域で生活できるインクルーシブな社会（排除しない社会）の構築を心から願って活動をすすめています。

主な活動は、研修会の開催（障がいある人の福祉・教育・防災・性の問題・きょうだい支援など）、スイーツタイム（ピアカウンセリング的な交流や情報交換の機会）、行政機関と連携をとり政策提言や協力、障がい理解啓発出前授業・講座（9年間継続中）です。

## <研修会>

山本久美子（宇都宮短期大学教授）

武蔵野音楽大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業、障がい児・者の通所施設、乳幼児の母子グループ、重症心身障がい児病棟、小学校特別支援学級などにおいて音楽療法を行う。日本音楽療法学会認定音楽療法士、同評議員、山梨音楽療法研究会会長、文部科学省特別支援学校音楽指導要領改訂、及び音楽科教科書編集協力者。主な著書に『k子さんの個人音楽療法の分析から』、『音楽療法の実際』いずれも牧野出版（共著）

中畝 治子（本学教授）

東京藝術大学日本画専攻卒業、同大学院保存修復技術を修了。国宝伝真言院曼荼羅復元模写、松島瑞巖寺襖絵復元模写、その他古典絵画模写事業に多数参加する。日本画二人展、いろは会展などで作品を発表。ジャパントイムズ紙バイリンガルのページに漫画連載（12年間）。主な著書に『ひらひらきらり』（富山房インターナショナル）、『ひげのおばさん子育て日記』（フェミックス）。DVD『先天性無痛無汗症 病気の理解と支援』イラスト、『医療的ケアハンドブック』（大月書店）イラスト他、挿絵、イラスト多数。

杉本 太平（本学准教授）

東京都文京区教育センター教育相談専門員、東京教育専門学校専任講師、川越市・入間市の乳幼児健診心理相談などに従事し、現職。社会的な活動として、文教大学心理劇研究会の代表として地域における心理劇・関係状況療法の活動や埼玉県家庭教育アドバイザー研究会等に参画。また日本関係学会研修委員長として同学会研修会を主宰。子育て支援・育児相談・発達臨床・援助技術等に関する講演多数。講演内容としては、講義及び人間関係や援助者としてのスキル向上のための行為法（心理劇）を用いたワーク方式の学習。主な著書に『精神保健－子どもと家族の援助のために』樹心房（共著）

## 開講式

宇都宮共和大学学長

須賀 英之

司会 宇都宮共和大学副学長 子育て支援研究センター長 牧野カツコ

皆様こんにちは。久しぶりにお天気になりました。これから宇都宮共和大学子育て支援研究センターの平成27年度の公開講座を開講いたします。私はこの子育て支援研究センターのセンター長をしております牧野と申します、よろしく願いいたします。今年は3回のシリーズで計画いたしました。これまで4年間、5回ぐらいずつ開講しておりました。今年は発達支援というような内容で3回計画いたしましたところ、大変たくさんの方々のお申し込みをいただきまして、うれしく思っております。最初の1部は本学の教員による研修会の形をとりまして、第2部のほうで外部からの専門の先生をお招きして講演をしていただくという形にしております。このあとまた2回目3回目にもおいでいただきたいと思っております。開講式ということで、まず学長の須賀英之からご挨拶を申し上げます。

挨拶 宇都宮共和大学学長 須賀 英之

こんにちは。お忙しいなか、大勢の皆様にお集まりいただきましてありがとうございます。宇都宮共和大学学長の須賀と申します。5年目の公開講座になりましたので、このなかにはお顔馴染の方々、実習であるいは就職などでお世話になっている施設、園、保育所の先生方、卒業生などの顔も見えまして、大変うれしく思っております。今回は、「一人ひとりの個性を伸ばす教育、保育」について考えるということでございます。

今、発達障害あるいはその疑いがあるお子様が増えております。これは社会的に発達障害の認知というか理解が進んだということはあるかもしれませんが、ある面でこの複雑化した社会の1つの現象ということもあるかもしれません。しかし障害がある方も、また健常者も一緒になって明るい社会を作っていくことは大切だと思いますし、障害も1つの個性というふうに向き合えて、明るい人生を送ってほしいという願いは親御さんだけでなく先生方そして社会全体の願いではないかと思っております。私どもも、いつ障害を抱えるかどうかそれはわからないわけでありまして、常にこういうことを勉強しながら社会全体で支えていくシステムが必要ではないかというふうに思います。

3回の講座ですが、第1部は本学園の教員がお話をさせていただいて、第2部は外部の著名な先生方や地域で活動されている先生方からお話を伺い、一緒になって勉強していこうということでございます。今日は国際医療福祉大学の小林先生にお越しをいただいております。

3回修了されますと、大学としての修了証書もお渡しをいたしますので、何かとお忙しいことはあるかと思っておりますけれども、10月11日の第1土曜日、ぜひご予約をさせていただいて、お越しいただければと思います。また日頃より本学に対しまして温かいご支援とご協力をいただいております、改めて感謝を申し上げます。それでは3回、皆様にとって有意義な講座となることを願っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

## I-1. 第1回公開講座

### 『子どもが将来にわたって幸せに暮らすために ～関係性の発達をみつめて～』

国際医療福祉大学言語聴覚センター臨床心理士 小林 順子先生

司会 宇都宮共和大学准教授 土沢 薫

皆様、こんにちは。土沢と申します。小林順子先生を紹介させていただきます。小林先生は、子どもと親に対する心理分析的アプローチがご専門で、丁寧な臨床をしてくださる先生です。教育や心理に関わる役職にいくつも就いていらして、下野新聞に日曜論壇を今年の3月まで書いてくださっていました。熟達されたプロフェッショナルでいらっしゃる同時に、少女のようにとても率直で楽しくて、そういう心もお持ちの先生で、私は、ありのままに自分に自信を持って素直に生きなさい、ということを教えていただいたような気がします。今日の講演のなかでも、皆さんが日頃の自分の関わりに自信を持っている、あるいはありのままの自分を見つめ直すような素敵なお話が聞けると、楽しみにしております。

小林先生、よろしく願いいたします。

小林順子先生

皆さん、こんにちは。今、ご紹介いただきました小林です。日頃は、国際医療福祉大学クリニックにて心理臨床を行っていますが、週1回白鷗大学学生相談室、もう1日は臨床心理士仲間が開業しました栃木県カウンセリングセンターでカウンセリングを行っております。

主な対象は乳幼児から小中学生のお子さんとその保護者の方たちで、18歳までのお子さんを対象に小児科の先生たちと一緒に仕事をしていますが、相談を継続しているお子さんが成人されている方もおられますので、様々な年代の方たちとお会いしながら学ばせていただいています。

臨床心理士ですので、話しを聞く事が仕事で大勢の方たちの前で話しをさせていただくことは苦手で緊張していますが、持ち時間は4時半までです。少しでも皆さんのお役に立つことをお話できたら・・・と考えて参りました。どうぞよろしくお願いいたします。

#### 1. はじめに

人生のスタートである乳幼児期の対人関係の発達とその意味を学ぶことは大切だと考えています。近年、乳児から3歳までの心理的発達に関することが研究によりいろいろわかってまいりました。それぞれの時期に、どういうことを獲得できれば、その子が、生涯にわたっ

て幸せに過ごして行けるのか・・・人生の荒波を乗り越えてやっていけるのか・・・

レジリエンスという言葉があります。人生を送って行く上で、困難な問題や予想もしない出来事につづかった時に気落ちすることはいろいろな場面がありますが、そこから、立ち直って行く力、心の回復力というものがどういうことで力を発揮できるようになっていくのか、ということについてもお話したいと思います。

3歳までの心の発達、建物で言えば基礎工事のようなもので、あまり3歳前の記憶が無い、という方も多いのではないかと思います。無意識の部分の感受性、身体性というものに表れていきます。3歳までの心の不安や恐怖というものは、その後の人生を通して、同じような”つまずき”として体験されやすく、もともとあった敏感さに上塗りされて、そのことがとても大変な体験として残ってしまう場合があります。

3歳になって基本的信頼感が完成し、「自分は自分」ということがしっかりわかってきますと、多少のことがあっても（大丈夫）と落ち込まないことが多いですし、現実のことに立ち向かって行ける可能性が高くなると言えます。

そう考えますと3歳までの＜基本的信頼感の確立＞は、とても重要になってきます。

## 2. 関係性（間主観性）の意味

### (1)発達障害という概念

近年、発達障害という概念が広く世間に広まり、あっちでもこっちでも発達障害と診断され、投薬治療を受けているお子さんが増えてきました。

しかし、行動面で、落ち着かない、1つのことに集中ができない、指示をしても言うことをきかない、指示されると反発して、暴言、暴行がひどくなる、みんなと一緒に行動しない、というお子さんの場合でも、発達障害の疑い、という診断を受けると同時に、反応性愛着障害の疑い、という診断を同時に受けているお子さんが少なくありません。お医者さんも、お子さんが生来生まれ持った体質なのか、それとも、環境の問題なのか、ということについて、よくわからないけれども、取りあえず発達障害の診断をつけておく、という場合も多いということなのだと思います。また、発達障害と診断された裏に、パーソナリティの発達に深刻な問題が隠れている場合もあり、それが見逃されている場合もあります。

発達障害という概念は、脳研究が進んできて、脳のどの部位がどういうダメージを受けると失語症、失認症、失行症などの障害が生じるか、ということがよくわかるようになってきたことが元になっています。

その考えを子どもの状態に当てはめて、（指先が不器用）だとか（全身の動きの協調性に問題がある）とか（言葉は理解しているけれどもうまく話せなくて文章が作れないようだ）とか、そういった様々な子どもの問題に対して、（この問題は、脳機能の問題が原因だろう）との予測、仮説を立て、診断名をつけて、リハビリテーションの考えを入れ込んだ [療育]

=一人一人にあった丁寧な特別な子育て=をして行きましょう、ということになってきたわけです。

発達凹凸があるお子さんは、学校という同質の同年齢の子ども達が集団で学ぶ環境においては、いろいろな意味で目立つ存在ですので、(みんなと違う)ということネガティブに受け取ってしまうと、自尊感情が傷つき、それが強くなると劣等感、孤独感や孤立感から、対人恐怖や爆発的な怒り感情、自己否定感が強まり、引きこもりなどの社会的問題が出て来てしまうことがあります。その点から、二次障害の早期予防が叫ばれているわけなのですが、実際には、子どもは成長発達する存在ですので、成人の脳機能障害の診断のように明確に診断できる場合ばかりではない、と言えます。

その証拠に、小学生の時に文字が書けない、という主訴で来所され<書字障害>という診断を受けたお子さんの中には、特別な指導をしても良い変化が見られなかったのを中断し、好きな演劇やダンスをやらせていた・・・すると、二十歳の頃にはいつの間にか普通に文字が書けるようになっていた、というエピソードをお持ちの方がおられます。これは一体、どういうことなのでしょう？

脳神経がどの年齢でどのように発達するか、ということは、一人一人違った面もあり、わからないのだと思います。平均的な発達をしている方であれば、問題なし、ということになりますが、少しその時期が遅れて来る場合や、あることはすごく早くできるようになったけれども別なことはかなり遅くできるようになっていく、という場合もあるのではないのでしょうか？ 子どもは自然のものですから、教科書的にみんなが同じように行くとは限りません。

この年齢にはこれができるはずだと思って教えるけれどもできるようにならない。けれど、1年後、何年か後にはできるようになる。5年後、10年後かもしれないけれど、出来るようになって行く、ということは結構あるんです。

そういうことを考えると、発達障害という概念は、すごく気をつけて使わなければならない。いろいろな発達をする子ども達がいることを考えて対応していくことではないか？と思っています。

発達障害があってもなくても、周囲にいる人たちとうまくやることができさえすれば、家庭以外の所に生活範囲を広げて行くことが容易になってきますし、その子の世界は徐々に広がって行きます。

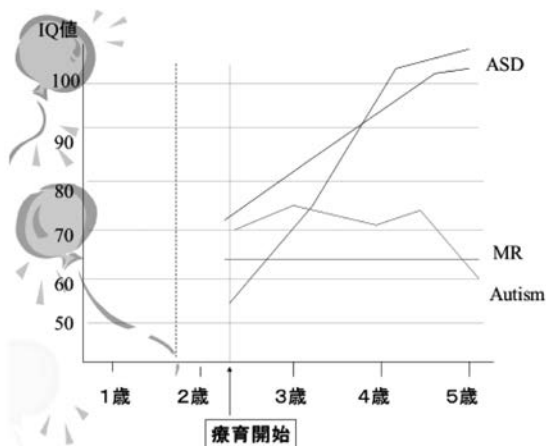


図1：療育による障害別 IQ変化の様相

私は、1歳半健診で「発達障害の疑い」でピックアップされ、療育センターにつながり、療育を受けたお子さんたちから、(本当の発達障害)と(発達障害もどき)がいることを体験しています。

早いお子さんでは、1歳半健診でピックアップされ、療育センターで2歳前半から、2歳半から療育が始まります。療育が始まってから、4歳半から5歳位までの経過を見た時、いわゆる(知的障害:MR=Mental Retardation)という診断がついた方のIQは、療育前と療育後でほとんど変わらない、という結果でした。これは、療育前と療育後では生活年齢が上がっているのに、IQは落ちずにキープしている、ということですので、MRのお子さんは、そのお子さんのペースで徐々に成長されている、ということが示されています。

2歳前半の段階で(自閉症:Autism)と診断された方は、自閉症特有の特徴を強く持つお子さんですが、その子のIQは、療育によって上がる時期も見られた反面、ある一定の段階で伸び悩む時期があり、上がった時期があるかと思うと下がる時期もある、という特徴がみられました。これは、言葉を使ったイメージ表象の段階になった時にその壁を越えることができず、IQ値が下がった、という方もおられますし、てんかん発作など別の疾病が発症してIQ値が下がった、という方もおられます。聴覚刺激より視覚優位で外界を捉えて行きやすい、という自閉症の特徴を早い時期から示していることが示されています。

一方、(広汎性発達障害:PDD=Pervasive developmental disorders:現在は、自閉症スペクトラム障害に改変:ASD=Autistic Spectrum Disorder(s))という診断がついた方のIQは、療育前と療育後で大きく変化する場合があります。IQが30位上がることはザラで、私が経験した一番大きい変化の方はIQ50代から100以上まで変化しキャッチアップして、平均的な水準まで上がって行った方もおられました。これは、療育によって、その子の身体感覚、身体イメージ、対人関係、などが変化し、それによって外界認知が変化し、イメージ表象水準の伸びが見られた、ということが示されています。

## (2)療育グループでの観点

では、どういうことを療育グループでは行っていたのでしょうか？

基本的には、身体や身体感覚を十分使って生気情動(by スターン:生き生きした情動の動き)を活性化する、ということを一対一の人間関係作りの中で徹底して行いました。

2歳児は、まだいろいろな感覚に慣れていないお子さんがいます。(タカイタカイ)をしようとしても、抱かれることを嫌がって降りてしまう子。ブランコのように身体の揺れを楽しむ遊びをしても、少しでも揺れると怖がってすぐに降りてしまう子や、逆にものすごく揺らしても全然無反応の子。くすぐり遊びをしても笑ってそれを受け入れるのではなく、サッと回避する子や、すごくくすぐっても全然笑わない子。声をかけられても気づかない子。音楽をかけると耳を塞いで回避しようとする子。粘土や土などを嫌がり、手に少しでもつくと慌てて取ろうとする子、など。

人とスキンシップしながら遊ぶことは人との関係を作る上でかかせませんが、それを、このような感覚面の過敏さ、あるいは、過鈍さが邪魔しています。

療育グループでは、このような感覚遊びを本人がイヤではないような刺激として、刺激の強さやリズム、間の取り方を工夫し、楽しい刺激として感じてもらえるようにして行きます。

体性感覚遊びと言いますが、これは、スターンという人が言っている〈中核自己感：自分の身体を感じ、自分の感覚を使って外界に関わって行く時期で、一般的には生後4ヶ月～生後7ヶ月頃〉を育てて行く、という時期です。自分の手や足を意識して意図的に使って遊ぶ。例えば、足を触られても何かを踏んづけても何も気がつかないという段階から、何かを踏んづけたら「アレ!？」と気づくようになる。何かを触ってもすぐに手を引っ込めてしまって刺激を回避しようとする、という段階から、触った感触をおもしろがって、水と泥の違いを楽しむようになる。高さの違う台から飛び降りた時に、身体に受ける衝撃の強さの違いを楽しむようになる。最初は、手遊びをしようって言っても、見ていると楽しいけれども、自分がやろうとしない。何故かというと自分の身体がどうなっているか、ということが、よくわかっていない。自分のボディイメージ、自分がどういうことをしているかに無自覚なんですね。そういう場合は、手を持ってブラブラ揺すってあげたり、足を持ってブラブラしたり。筋肉や骨の感じ・・・自分の身体の感じをしっかりと自分で感じていく。足をくすぐってあげるときにも、いっぺんにくすぐるのではなく、ギューっと強く握ってみたり、フト緩めてみたりする・・・その違いを感じ、目で見ることと統合して行って自分はこういう身体なんだ・・・というふうに分かって行く。

一般的に、このプロセスはハイハイなど自発行動が盛んになって行くとか、訳もなく、手をテーブルにバンバンぶつけたり、テーブルにつかまり立ちして足を盛んに動かしたり、という行動で達成されます。

それを一対一の決まった人間関係の中で徹底して行います。

それは、人というものに対して、きちんと注目して特定の人に気づくことで（人は誰でも良い）という段階から、（この人でないと!）という愛着形成を強めることでもあります。

その子の持っているリズムや情動調律のリズムを獲得し、母親との関係でもやってもらえるように伝えて行きます。

これらのリズムや強さ、文脈の流れがある遊びを通して、遊んでくれるなら誰でも良い、ということではなく、この遊びはこの人（例：ママ）としたいのだ、という〈特定の人への注目〉を促し、目と目をきちんとあわせて相手を良く注視すること、特定の人との絆を強めること、を経て、（その人がいない）ということが理解できるようになります。これが表象イメージ能力の芽生えとなります。

人間関係が良くなることは、表象イメージの発達に良い影響を与え、知的水準を良好に保つということに関係します。



コミュニケーションの観点から申し上げますと、困った時や要求がある時に相手の人に対して感情とサインを出すこと・・・これが重要です。発達障害のお子さんは、語用論に問題がある場合があります。語用論とはどういうことか、と言いますと、(持っている言葉を、困った状況を自分で自発的に何とか解決するために、有効に使う)ということです。

これには、主観自己感 (by スターン) の時期と言いますか、自分が感じたことを人と分かち合おうとする気持ちが強まる時期・・・一般的には生後7ヶ月から1歳半位の時期に当たります。自分が感じた楽しいや要求を人にも伝えたい、と思って、指さしなりボディランゲージなり、言葉にならない声なり、何らかの方法で伝えようとし、わかってもらいととても嬉しいと思うことです。

これはコミュニケーションの問題としてとても基本的なことですが、対人的なやり取りの中に、期待感を相手に表現できるか (例：楽しかったことを、もう1回やって、と表現できるか、等) とか (ジュースが飲みたい時に何となく冷蔵庫の方に行ってサインを出してからやってもらおうとする) そういうことが重要、ということですね。

これは、知能の高い低いには関係ありません。成績が良い子、IQが高い子でも自閉症スペクトラム障害の傾向がある、と言われたお子さんは、こういうことがうまくできないことがあります。宿題を来週月曜日までにやってきなさいと言われてなかなかやらなくてギリギリになった時、友だちに電話して聞く、ということなどができないので自分を追い込んでしまう。どうすればいいか方法を見つけれないために、他の人から「○○先生に聞きなさい。」と言われれば聞けるけれども、指示されないとその状態でどうしたらいいかわからないのでしんどくなってしまいます。そういうことが出て来ます。

この主観的自己感の時期は、情動調律 (相手と息を合わせてやり取りする) ということが大切です。これができる [釣られる関係] が発達します。釣られる関係というのは、間主観性ということになります。[釣られる関係] ができるようになってくると、他者と見えない綱引き (やり取り) ができるようになってきますので、人から言われたことに応じやすくなってきますし、こだわりが減って来ることもあります。

私の所に来ている自閉症の3歳のお子さんですが、スイッチをパチパチつけたり消すことにこだわりがあり、電気がついたり消えたりするのが見たい。「向こうに行こう」と言われても、「イヤ」といってパニックになるようなお子さんが、人との関係が変わって来ると、みんながやっていることにジッと注目したり、人を見るとニヤニヤとしたり、いつもいる人を見るだけで遊ぶ部屋に自分から行こうとする・・・そんな関係ができるようになると、他の子どもに釣られて一緒に走ったり、同じことをやってみようとしたり・・・とやり取りが出来るようになって来て、気がつくともスイッチのことには以前ほどこだわりが無くなっています。

このように [釣られる関係] ができるようになると、自閉的な所は薄らいでいく、ということがあって、対人関係というのはとても重要だと思っています。いつも遊んでいる人

が今日はいない・・・ということがわかるようになるとイメージ表象が育ち、言語理解が良くなり、自閉的な傾向が薄らいで行く、とか、集団行動で行動しやすくなります。

### (3)大切なのは、一人一人に合わせた丁寧な子育て

大切なのは、人生早期の一人一人に合わせた丁寧な子育てで、子ども時代の幸せな体験が多い人は、人生の荒波を越えて行ける力が強い、ということです。

(スライドA君) この子は自閉症の赤ちゃんです。乳児期は大人しくて手がかからない子。歩き出したら多動で一時間も止まっていない、というお子さんでした。おかあさんはどういうふうにつき合ってあげたらいいかわからなくて、とにかく、抱きしめて受け止めてあげるとニコニコしているので、受け止めて育てて行こうと決めたそうです。

幼稚園に入ると、高い所が大好きでブランコの上や電車の上にも昇り、車のボンネットの上で跳ね、修理費に30万円もかかった、ということもありました。はめ板やパズルなど課題的なことには興味がなく、感覚遊びが成人になるまで続きました。キャンプに行くと1日中、口から水をピューと吹いている。誰かが行くと逃げてしまうので、担当の人はその子が安心できるような距離を保ちながら見守っていました。

おかあさんはこの子のやっていることを必要以上に禁止せず、丁寧に大切に育てたのですが、成人になった現在は施設の中でトラクターを運転しているそうです。1つ1つ教えられて行って、普通の子が数年でやれることを20年かけてやれるようになったのかな、と思います。

(スライドB君) これは以前私が会っていた自閉症のお子さんです。言葉は全然なくて、ずっとニコニコしている穏やかな方でした。遠足やハイキングに行くと周囲がやっているようなボール遊びやフリスビーなどには関心がなく、ずっと公園内を歩いていました。知的には重い障害があると思います。

その子は現在、千葉県にある施設に入所しています。そこで絵の時間がありました。最初の1年はクレヨンを転がしているだけだったそうですが、絵の先生はその子が自分から書き始めるのを待っていました。1年位たった時に、何となく書きたそうだったので「書いていいですよ」と声をかけたところ、こういう絵(ニワトリ)を描いた。これは医食同源という本の表紙にもなりました。私はこの絵を見た時にとっても驚きました。この子がこんなに生き生きした絵を描く力があるとは想像していなかったからです。知能検査ではIQ値は低い値が出るとは思いますが、こんなにステキな絵を描くんです。知能検査って一体何を見ているんだろう、とショックを受けました。

子ども達の中には、その子が感じている世界やその子の気持ちみたいなことに寄り添いながら丁寧に育てていくことで、生き生きしたものが表現されていく、ということがあります。その子の中で感じている自分らしさとか楽しいとかそんなことに丁寧に付き合いながら育てて行くことで、子ども達もすごい力が発揮できるんだということを教えてもらっ

たと思っています。

よくタンポポの花と蘭の花という言い方がありますが、自然の中でも放っておいてもタンポポみたいに育つ花もあるし、蘭の花のように陽が強ければ日陰に入れ、水のやり方も気をつけて根腐れしないようにする花とか、手の掛け方はいろいろありますよね？自然界のものというのは一つ一つ違うので、一人一人が生き生きできるようにしていくことが我々の仕事ではないか、と思います。

不登校だ、ということになれば、学校環境がその子にとってふさわしい肥料を上げたのだろうか？と考えます。学校を植木鉢と考えると、その苗にとって、花が咲くような苗ならそれに必要な栄養肥料をあげなければならない、花が咲かないけど大きく育って葉が茂るものであるならそれにあった肥料をあげなければならない。人によって違うので、一人一人、子どもにとってどういう環境を与えていけばいいのかを丁寧にやると、間違いなくその子を良い方向に成長させることにつながるのではないか、と思います。

### 3. 乳幼児精神保健と乳幼児精神医学の視点から

#### (1)乳幼児精神保健の流れ

乳幼児精神保健は、言葉を持たない0歳から3歳の乳幼児が対象です。乳幼児精神医学からスタートしましたが、関係性の病理と捉え、個人ではなく関係性という視点から見て行きます。放置すれば後年の精神病理のリスクにつながるため、ライフサイクルにわたる予防的観点から乳幼児期は大きな意味を持っていて、統合失調症やうつなどの精神疾患も早期関係性障害との関係で理解できる面があります。

乳幼児精神保健研究は近年盛んになり、赤ちゃんと母親や周囲の人との関係からの知見がさまざま出て来ています。大人の精神療法や治療の在り方にまで影響を及ぼすようになってきて、徐々に、乳幼児からの視点と成人からの視点を統合する動きも出て来ています。

いままで、自我(ego)という概念で捉えていたものが、世界的には一人一人がつながっていく(wego)という概念に発展するようになってきました。＜他者との関係性の中にある自己＞を考えて行こう、という視点です。

1980年に世界乳幼児精神保健医学会(WAIPAD)からスタートしたばかりの新しい研究分野です。1986年のストックホルム大会からInfant Mental health Journalに合流して世界中に広がりました。1992年のシカゴ大会から世界乳幼児精神保健医学会が、世界乳幼児精神保健学会(WAIMH:World Association for Infant Mental Health)に発展しました。日本では2008年に横浜で世界乳幼児精神保健学会が開かれましたが、栃木県では、前年の2007年に大田原市にある国際医療福祉大学で全国大会が開催されました。2014年11月に福島県郡山市で世界乳幼児精神保健学会日本支部が立ち上がり、活動が始まっています。(福島県郡山市は被災地で、放射能のため子ども達が外遊びができないということで屋内遊技場(PEP-KIDS)に砂場を作ったり、日本大学工学部が水とエネルギーを自宅で作れるような住宅の

開発をして、未来の世代を担う子ども達に見学させるなど、子どもを守るための活動を市をあげて行っています。)

その他、日本ではフォーウィンズ乳幼児精神保健学会というのがあります。1996年に世界乳幼児精神保健学会フィンランド大会に参加した日本の人たちが中心になって1997年に発足しました。世界の乳幼児研究者を招いて、乳幼児の精神保健に関する最新情報を日本の現場に届けたい、という思いで日本全国で学会を開催しています。

## (2)乳幼児精神医学の基本的考え方

乳幼児は基本的に養育環境との相互作用の中で発達します。乳幼児の問題を乳幼児と養育環境の関係性の障害、と考えて、治療は関係性の改善に焦点を当てます。乳幼児の要因とその環境要因の相互作用は、母子、家庭、社会と異なるレベルで起こるので、それらの複雑な交流の早退を多角的なアプローチで見てもいい、というのが乳幼児精神医学の基本的な認識です。

子どもが発達障害というような決めつけは基本的にしません。この子がどういう感覚を使って外界を捉えているのか、何が環境との関係で、どうしてこういうことになっているのか、その本人にとっての意味は何か？ どういうふうに周囲が変わることで改善していくのか？ということを考えて行きます。

親子の関係性は、意識して出来る部分と意識してもコントロールできない部分があります。

私と話していた子どもは、他の子と聴覚の感覚が異なるようで「遠くで鳴っている救急車の音がうるさくて小林先生の声が聞こえない。」と言いました。聴覚の(図と地)が混乱してしまうようでした。これは子どもの受け止め方が特殊である例です。

こういう子の場合、親や教師が何気に強い口調で話した言葉が、叱っている、と誤って受け取られる可能性もあります。

また親の方にも受け止め方や感じ方は人それぞれあります。例えば、服をビショビショに濡らしながら水遊びをしている子どもがいるとしますね。それを見た時に(すごく楽しそうだ!)と思う母親もいれば、(こんなに濡らしてサイアク!!)と思う母親もいます。また、ぴよんぴよん跳ね回っている子どもを見た時に(わんぱくで元気そうで良い子だな)と思う人がいる一方、(こんなに躰の悪い子どもは見たことが無い!)と思う人もいます。子どもがやっていることは変わらないのに、大人の見目(大人の中にある表象イメージ)によってその子の行動は良いものになったり、悪い物になったりする可能性があります。

家庭内の子どもを中心とする相互交流の背景には、それぞれの表象の世界の交流と発達が起きていて、行動の厳密な実証を窓にして表象世界を解明していかなければなりません。

表象世界を扱うということは、(こういう子どもだったらいいのに)(こうなって欲しい

のに)というのは、誰でも持っていてみんな違います。こういう子どももだったらいいのに…と  
思っているのは自分なんだ、私なんだと言うような内省を促して行く方法を取ります。  
そうでないと、子どもの本当の本音の気持ちが理解できない。自分の色眼鏡で子どものこ  
とを見てしまって、ああだ、こうだ、と言うことになってしまいます。大人側の表象世界、  
イメージ表象というのに対しての内省も大事に考えて行きます。

乳幼児期の問題がどのように個人のその後の発達に影響していくかは、ライフサイクル  
にわたって見て行くとか、異なる文化社会の環境の中での発達の多様性を理解するとか、  
精神病のリスクを見るとか、世代間伝達の問題もここに入りますが、多様な視点があると思  
います。

発達障害のことで言いますと、障害受容とか障害告知がこの問題に絡んで来ると思いま  
す。この子は発達障害ですよ、と言われると、親は驚いて(なんか普通じゃないのかしら…?)  
ということに急になります。でも、昨日の我が子と今日の我が子が突然変わるわけがあり  
ません。同じ子どもなのに、発達障害と言われると親の中にある我が子のイメージが急に  
変わってしまいます。そういうことが子どもとの関係を悪いものにすることもあるし、逆に、  
父親が過剰な期待をかけている、という時に使えば、ある程度あきらめて現実を見てくれる、  
ということもあり、子どもとの関係が良いものになって行くということもあります。

脳の成熟の仕方には、従来知られているよりはるかに幅の広い個体差があるし、育てに  
くい赤ちゃんや周囲の適応に時間がかかる赤ちゃんは、普通の生活からの刺激が不安を招  
いてしまって、お母さんもそれに合わせて緊張して悪循環が生じて、赤ちゃんは葛藤的な  
接近や回避行動を示すようになって、発達の偏りや発達障害の状態像が作られて行く、と  
いうこともあります。

生まれつきの資質や遺伝型と環境との相互作用から表現型が作られる、だから、子ども  
の個体差についてすごくお話しているわけです。

#### 4. 愛着行動

ここからハーロウの実験のビデオをお見せします。針金で型取りした母サルの人形に哺  
乳瓶がつけられていて、子ザルはここから普段ミルクを飲んでいました。もう一方に、タ  
オルを巻いただけの母サル人形を作っておいて、並べてあります。これから玩具の怪獣みた  
いな動く人形を使って子ザルを驚かします。子ザルが恐怖を与えられた時に、どういった  
行動を取るか・・良くご覧ください。

(ビデオが流れる。)

(子ザルは、驚いて、タオルで巻いた母サル人形に飛びついてしがみつく。数秒後、タオル  
の母サル人形に抱きついたまま振り返り、玩具の怪獣を確かめて見る。)

普段は、針金の母サル人形からミルクをもらっています。でも恐ろしいことがあった時  
には、哺乳してくれている針金の人形の方ではなく、タオル地で作られた母サル人形の方

に飛びついて行きました。しっかりしがみついて安心した後に、振り返って、恐ろしいものの正体を確かめようとしています。

本当に怖い時にはスキンシップを求めて行きます。子ザルにとって、安心させてもらえるお母さんの役割は、授乳がメインなのではなく、全身で暖かく抱いてもらって、受け入れてもらえるということだということがわかります。安心した後には、恐ろしいものの正体を知ろうと、自ら、怖いものに挑戦していくことも見られます。

それでは、スキンシップが得られず不安なままの状態ではどうなのでしょう？ タオルの母サル人形がない環境で、怖い怪獣人形に触れさせられた子サルは、怪獣人形に背を向けて壁の方を向き、ロッキング（身体を左右に揺らす異常行動）を続けました。怪獣人形の正体を知ろうというような行動は見られず、ずっと、ロッキングを続けています。これは自分の中の不安を落ち着かせるための情動行動で、時間が経つにつれて、全体的に元気がなくなって、うつ的になって、感覚的なものに没入して行き、自閉的（外界から引きこもる）になって行きます。

愛着行動は、安心感ではなくて＜安全感＞です。私たちは、自分の命が危ない！となった時に脳の中の扁桃体というところからでストレスホルモンがバツと出ます。それによって、身体全体を活性化していつでも恐ろしい状況から逃げられるようにスイッチが入ります。心拍を上げ、のどが乾き、胃が縮まり食欲は無くなります。そういうことは全部内臓感覚として入ってきますので、それを緩めるために皮膚からの刺激、触覚刺激による回復がすごく大事です。リラックスして、沈静化して、落ち着くように身体を回復させようとします。小学校低学年の頃までに自律神経系のシステムがだいたい出来上がってしまうので、その時に不安を我慢するとか恐怖を我慢すると、トラウマというよりは身体感覚として（もうすぐヤバイ！）ってという感じが身体に入っていく。それを緩めるためには、安心できる皮膚刺激、触覚刺激は絶対必要です。

## 5. 間主観性について

### (1) コミュニケーション的音楽性

ステファン・マーロックという音楽療法家が、声かけを介して、お母さんと赤ちゃんは情緒のやり取りを発達させる、ということを行いました。そのやり取りは、抑揚、リズム、タイミング、強さが重要で、シンクロしたものであって、呼吸を合わせておしゃべりしているように行われると言っています。反復性とか相互性の中で、乳児は母親のイメージを作って時間的文脈さえも発達させる、と言っています。どういうことかというと、お母さんが赤ちゃんに話しかけるリズム、声のトーン、間の取り方など（母「ああ・うん・？」）→子「ああ〜」→母「うん、ああ〜だね？」などのやり取りは、お母さんによって一人一人違いますが、それには一定の文脈があり、盛り上がってみたり、盛り上がったかと思うと、だんだん静まってお互いに疲れてやり取りをはずしたりする・・・そういう事の中で、

お母さんが関わって来たら、こうなってこうなって、こうなるという一連のやり取りのパターンを学んで行きます。赤ちゃんの中で母親に対する1つのイメージとして定着し、時間的流れさえも発達させている、ということです。

## (2)第一次間主観性

パリ第4大学の教授のマヤ・グラティエという人が、「生後2ヶ月位から母親と赤ちゃんの言葉かけによる関係性によって、人間関係の基礎ができる」と言っています。話しかけるリズムや調子、強さ、タイミング、間の取り方などが国によって違いまして、欧米の母親は多弁で良く赤ちゃんに対して話しかけます。フランス人のお母さんは、音楽的な言語コミュニケーションがすごく活発です。インドのお母さんたちの声かけには、独特の抑揚とリズムがあります。アジア人は比較的あまり言葉かけをしない。むしろスキンシップをしながら言葉かけをすることが多いなど、声かけの仕方には国民性があり、それに伴い感情の発達にも国民性が表れているので、すでに生後2ヶ月で、国民性が世代間伝達されている、と言っています。母子間の相互的やり取りがうまく行っている場合、母親に対する所属感（Sense of belonging）が発達し、同一化の感覚（ママに近づいて行きたい、ママみたいになりたい、という感覚）さえも発達させる、と話しています。

## (3)第二次間主観性

第二次間主観性は生後7ヶ月位から表れて来る、と言われていています。これは他者と自分の感覚を分かち合おうとする発達で「見て見て！」と言って、母親に盛んに指さしして見てもらいたがったり、いつもママを振り返りながら自分の活動に集中して行く、という時期です。指さしは1歳半健診でチェックされる項目ですね。

この時期は、二人以上の人との間に無意識に「感覚の共振れ」が起こって、自分だけの主観だけで感じている世界ではなく、「我々」という複数の主観の共同化による高次の主観同士の関係、というものに発達して行きます。これ、言わなくてもわかるよ、とか、察する、というような、響き合いの感覚ですが、この時期が、発達の中では重要です。相手を感じていることを自分もフト感じていく、響き合いがうまく行くと、社会性の成長発達がうまく行きます。言葉の声かけによるやり取りの第一次間主観性。生後2ヶ月から6ヶ月の前言語段階の赤ちゃんとお母さんの情緒的コミュニケーションの相互関係を土台に、今度は、物や外界の物を介した相互関係に発達していくわけです。

## (4)間主観性についての具体例(1)

(ビデオ1：4ヶ月の赤ちゃんとお母さんのビデオ) 今、生後4ヶ月の赤ちゃんのビデオを撮らせていただいています、その中の一人のビデオを紹介します。この子は4ヶ月の男児で、ご両親にとって始めてお子さんです。

この子はカメラ目線になっていますが、4ヶ月でも状況がよくわかっています。お母さんに「言葉で声かけしてください」とお願いしていますが、この赤ちゃんのようにあまりママと二人だけで対面して声かけだけされてもあまり多くはしゃべってくれません。でもジッとママに注目して、抱っこなどスキンシップをしながらですと、比較的声も良く出て話してくれます。

赤ちゃんとお母さんの相互的やり取りが阻害されるとどうなるか、今度は、別のビデオを見ていただこうと思います。これは能面実験（Still face実験）と言われているもので、赤ちゃんがお母さんに話しかけても、答えない、応じない、表情を変えない、ということを行います。母親が赤ちゃんからの働きかけに応じない時にどんな反応になるか、よく、ご覧ください。

（ビデオ2：Still face実験）

ナレーションA：「新生児は視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚の刺激を受けます。これらの最初の仕事は、これらの新しい体験を上手にあやつることです。マサチューセッツ大学のトリニック教授は70年代の初期に研究を始めました。当時は、幼児の学習が重要視されていましたが、教授は画期的な方法を打ち出したのです。」

ナレーションB：「私は研究を始めるにあたって、いわゆる保育園で仕事をしました。何と言っても私は専門家ですから、この方法を行えば、子どもは順調に伸びます。こうして私が見たのは、入園した乳幼児が別の側面を見せることです。その日、保母さんたちは、赤ん坊に合わせて、それぞれ違ったりズムを解釈しなければならないのです。」

ナレーションA：「教授は、まず感情が発達する、と考えます。常に興奮しては、赤ん坊は内側の世界に気づくことができません。感情を調節するのは、親子の間で交わされる感情的会話です。同時に、親も子どもが非常に多くの刺激を処理できることを知ります。母親が自分のそばへやって来る。これはすべて、外からの刺激です。赤ん坊の注意を引きますが、同時に、赤ん坊はその刺激にいちいち対応しなければならないのです。まず、刺激を弱めるために、一度は顔をそむけ、平静を取り戻します。それから再び、母親と向かい合うわけですが、母親は手の動きで関わり、赤ん坊はまた一休みで、母親との関係を解きます。赤ん坊が笑うと、2人の関係が戻り、同調し合っています。笑えば母親が関わるのを知っているのです。まさに母親と赤ん坊の見事なダンスを見ているようですね。数百名の研究の結果、教授はこのダンスが正常な相互作用のほとんどに見られる特色であると確信しました。この無言の会話は、お互いの期待と信頼の絆



の始まりです。もし絆が妨害されたらどうなるでしょう。今度の実験では、母親は赤ん坊の心に反応しないようにします。赤ん坊は母親を見て笑います。顔全体で笑っています。ですが期待したものが返ってこないことを知るのです。赤ん坊は相互作用で見たように、顔をそむけ、関わりを拒否、何か変だな、と言っています。こんなはずじゃない。ちょっと落ち着かない。気分が悪い、というようなこと、驚きながら、自らを慰める行為です。再度挑戦しますが、母親はやっぱり笑いません。ここで赤ん坊は、初めてよだれを流します。こういった兆候は肉体的にコントロールする力を失っているためです。舌を出して、次はしゃっくりを始めます。体全体の調子が狂っているのです。長期にわたって感情の交流を失った場合、何が起きるでしょう。教授はうつ状態の母親と赤ん坊にも似た行動を発見しました。うつ状態の母親の乳幼児は、今のような相互関係を経験し、母親と関わりを持たない型を表します。」

(ビデオ音声 終わり)

今見ていただいた赤ちゃん、母親からの応答性が途絶えると、とても不安そうな表情になりました。一度、母親から目をそらし、話しかけることを止め、回避しました。そして一度落ち着いてから再度関わろうとし、赤ちゃんが主体的に刺激の強さとか弱さをコントロールしようとしていました。

母親が応答しなくなって、自分で何かしようと努力して関わろうとするのですが、それでも、母親からの期待するような応答性が返って来ないことがわかると、しゃっくりを始め、よだれを垂らし、身体の反射が狂って身体メカニズムが調子悪くなったのがわかります。周囲から、自分が期待するような反応が無くなった時に、あっという間に腹痛や食欲不振などそういった内臓感覚に異常が出て来ることがわかっていただけたかと思います。

先ほど、子ザルのハーロウの実験の映像を見ていただいて、最初は親子関係の中で安心できる関係、安全感を対人関係の中で獲得しなければいけない、ということはお話しましたが、それが発達するにしたがって、学童期は友人関係になってきます。思春期に入りますと同性の友人関係に発達して来ますし、成人期初期は異性との関係に発達します。そして、彼氏、彼女との関係になって、次の世代の家族を作る関係に発達、発展して行きます。思春期に性的な問題がうまく行かない、という場合には、ベースに愛着の問題がある場合が多いです。

相互的関係がうまく行かなくなると、そのストレスは身体化が出て来て、歪んだ関係になって行く、という所を見ていただきました。

## 6. 1歳時点での愛着

先ほど見ていただいた4ヶ月の赤ちゃんが、生後8ヶ月と1歳の時の様子を映します。8ヶ月時点で、遊んでいる時にママが隠れます。それまで楽しそうに遊んでいたのですが、遊びを急に止めて、自発的活動が萎縮し、外界への探索行動が萎縮します。ママどこかな、と探すのですが、自分自身の心的エネルギーが（シューン）と急に萎縮して、遊ばなくなります。ママが再登場すると、いるだけで、また元気に遊び出す、というところがきれいに出ているかな、と思うので見ていただきます。

（ビデオ3：8ヶ月の赤ちゃんと母親の映像）

母親が急に隠れると、泣かないですけど、急に遊ばなくなりましたよね。遊びが展開せず、玩具を触ったりしていましたが、すぐにやめてしまいました。泣かないで、（困ったなあ..）みたいな感じで、変な顔をして、頭を触ったりしています。（どうしたらいいかなあ..）（なんか変だなあ..）みたいな感じでしょうか？

この時、本人にはママがいなくなったことは意識化されていない、と思います。ママという対象がいなくなった、というよりは、いなくなったことのイメージは漠然としたもので、この世全体の空気が薄くなった、というか、ドヨンしたものになった、というような（急に変な感じになった）という受け止め方だと思います。

これは＜解離＞と言いますが、急に、別世界に飛んで行ってしまった、というような変化で、赤ちゃんの中では文脈が繋がっていないのだと思います。

今度は、この赤ちゃんが1歳になった時の映像を映します。愛着のボタンを見るための「ストレンジ・シチュエーションテスト（Strange Situation Test）」です。最初、赤ちゃんはお母さんと遊んでいます。そこに知らない人が入って来て、お母さんは知らない人と話します。安心感、安全感があった所に、異物が入って来るわけです。その後、お母さんが退出し、赤ちゃんは知らない人と二人になります。この赤ちゃんは泣いて母親を追って行こうとします。知らない人が赤ちゃんを慰めますが赤ちゃんは泣き止みません。母親が入室するとピタリと泣き止みます。

次に、母親も知らない人も退室し、赤ちゃんは一人きりになります。泣いて後追いしますが、知らない人が先に入室し、赤ちゃんを泣き止ませようとしませんが、赤ちゃんは余計怒って大泣きし、知らない人を避けようとし、赤ちゃんは怒って泣きながら威嚇します。母親が入室すると、母親の方に行き、知らない人に一発威嚇した声を発して、母親に抱かれて泣き止みます。

この赤ちゃんの愛着は＜安定型愛着＞です。イヤなことがあってもすぐに信頼できる人との関係で、情緒を回復させ、元に戻ることができました。日本では、安定型愛着が3分の2、不安定型愛着が3分の1の割合であることも研究報告されています。

これ以外には、＜不安定型愛着＞というのがあります、これには3パターンあります。

(1)両価型：これは、母親に抱かれたがるものの、抱かれても泣き止まず、余計大泣きして、大暴れします。

どうやっても泣き止まず、次の遊びに入ることができません。

抱いてほしいのか、ほしくないのかもわかりにくく、母親は慰めることができないので、イライラして、放り投げたくなることがあります。

(2)回避型：母親が退室しても後追いせず、知らない人と遊ぶことができます。

母親が入室しても、自ら近づいて行こうとせず、全く気にしない、というタイプです。

(3)混乱型：母親が退室したことで、不安そうにするものの、泣くなどの感情の発露ができず、ロッキングを始めるとか床に寝転がってゴロゴロし始めるなどの意味がわかりにくい行動を取ります。

\* (2)も(3)も泣かないので、一見、平気のように見えますが、唾液の中にあるストレスホルモンが過剰分泌されており、値は高い値を示しています。

安定型の赤ちゃんは、すぐに気持ちを回復させ自分の遊びに入っていくことができますが、不安定型の赤ちゃんは、ストレスが解放できず、尾を引き、自分の遊びに入っていないことがわかっています。

## 7. 自己感の形成

赤ちゃんの時から自分の感覚やそういう物を使ったいろいろな人間関係の積み重なり、これは1歳半位までに形成され、一生フル稼働して行く、と言ったのが、ダニエル・スターンという人です。

スターンは4つの自己感のステージを提示しました。

(1)新生自己感 ホメオスタシス（生理的な意味で、体調を一定程度安定した状態に置く時期）。

生氣情動（生き生きした感情の動き）が重要。

(2)中核自己感 身体を持った自己。ボディイメージ、身体感覚の統合。

(3)主観自己感 他の人と自分の感情を分かち合おうとすること。

共同注意／情動調律。

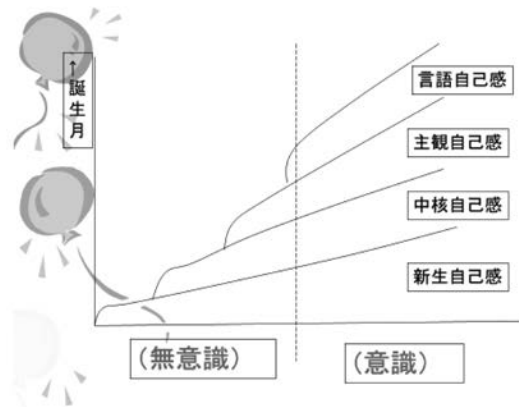


図2：自己感の発達 by ダニエル・スターン

(4)言語自己感 (1)~(3)までの段階の上に、それらを表象として機能させ、言語による抽象化ができるようになる。

想像力、言語。

言葉が出て、いろいろなことが分かって来る前にすでに、相当いろいろな発達が背景にある、ということを理解していただければ幸いです。

これは一生フル稼働する、と言われていきますから、我々の中にも、意識しようとするまいと、このような対人関係の基礎的な部分が相当形成されていて、それをベースに日常生活を送っている、ということです。

## 8. 分離個体化過程

1歳半から2歳半までの所は、再接近期 (by マーガレット・マラー) と呼ばれる時期で、最後の心的自立を目指す重要な時期です。

この時期は、第一次反抗期 (いわゆる、イヤイヤ期) に当たります。

自分で何でもできるようになった。自分でやりたい。でも、思うようにできない時、親に手を出された時、など、気に入らないと強い感情を出し、相手に攻撃心を向けます。感情の波が激しくなって、攻撃的になる一方で、周囲に対して警戒的にもなる部分もあります。自立したかと思うと突然赤ちゃんに逆戻りすることもあり、非常に手が焼ける時期です。

この時期は、母親は目の前にいなくてもどこかにはいる、ということが多少わかるようになってきていて、それほどずっと一緒になくても我慢できるようになってきていますが、長い時間は無理で、まだ母親がずっと (いないけれどもいてくれる) という対象恒常性は確立していません。しょっちゅう預けたり戻したりを繰り返してしまうと、母親と他者の間で、自分の親が分からなくなってしまうことも起こります。感受性はとても敏感な時期で、赤ちゃんとう自立した幼児の間をクルクル変わり、まるで心理的に新たに誕生しようとしているかのような苦しい時期でもあります。

イギリスのビデオで、ロバートソンフィルムというものがあります。ここには、1歳7ヶ月から2歳5ヶ月までの子ども達が、母親との分離体験をどのように乗り越えて行ったか、ということが描かれています。その中の1つですが、1歳7ヶ月の男の子が二人目の赤ちゃんの出産のため託児所に10日間預けられた映像があります。その託児所は、虐待などを受けたお子さんが多く収容されている所だったので、周りの子ども達も随分受け入れられた体験が少ない子ども達だったため、非常に乱雑な情緒を持つ子どもが収容されていました。10日間の間、騒々しく、自分のものも無理に取られ、情緒的な保母さんとの関係も十分に補償されなかったその子は、10日後、母親が迎えに来た時に、他の人を信用しなくなりなつかず、母親に甘えることができなくなっていました。いわゆる境界型人格、状態に固着し、

パーソナリティ障害に陥った、という事例があります。

3歳近くなれば、自分は自分、少しイヤなことがあっても何とかなる、というようにコントロールできるように成長します。

日本の例でも、家で虐待を受けていた子が、養護施設などに行くとIQが15ぐらい上がるということが報告されています。

外界に対する基本的信頼関係が育つことが、その後の人生において、いかに重要であるか、ということをは是非皆さんにわかっていたいただきたい、と思ってお話いたしました。

時間オーバーして申しわけありません。ご清聴ありがとうございました。

司会           ありがとうございました。第2弾も期待したいところです。時間を過ぎていきますので、どうしてもこれは聞きたいという方、いらっしゃいますか。

質問           こんにちは。保育園の園長をしております。ご相談ですが、保護者との愛着関係ができていないと思う園児を何名かお預かりしています。保育園のなかでじっとしてられない、部屋から飛び出してしまう、攻撃的である、体がくねくねして座っていることも苦手、先生の注意を引きたいんです。かまってもらいたくて、先生に対して攻撃的だったりする。そういう子たちを見ていると、保護者との、特にお母様との関係がうまくいってないってうか、お母さんがお子さんのことをもっと、私たち保育者から見ると子どもをもっと見てほしい、子どもと目を合わせてお話してほしい、もっとスキンシップ取ってほしいと思うお子さんが非常に多いです。担任保育士が一生懸命個別に対応していますが、保護者の方に、特にお母さんにどう伝えたらいいのか、私も月の園便りや関わりのなかでお子さんに対してどういうスキンシップを取ってほしいとか、こういうお子さんが増えてるからこういう楽しい時間を一緒に過ごしてほしいとかいろいろなメッセージを送っていますが、お母さんに直接言うっていうのは、お母さん自身の子育てを否定することにつながる気がしてしまいます。何か言ったときに、そういうお母さんに限ってシャッターをすぐ下ろされてしまうので、余計その子との関係がうまくいなくなってしまう経過を私たちが作ってしまうのではないかとあって、不安で前に進めません。そういう保護者の方に対して私たちがどういう関わりをしていったらいいのかお尋ねしたいので、お願いします。

小林先生       ありがとうございます。保育園のなかで色々なことが起きていると私も思っていますし、保育園の先生と一緒にやっていきたい、考えていきたいって思います。様子が目に浮かぶし、よくわかります。

私たちは子どもが好きだからこういう仕事をしています。そうすると子ども側から見てしまいます。お母さんにこうしてください、ああしてくださいって言っても、お母さんがそうしたいって思わなければ、うるさい先生とか、保育園の先生が私にいつもこんなこと言っているということになります。先生は私の状況なんかなにもわかんなくせに子どもと遊べて。だから、「はいはい、わかりました」って言って全然変わらないということになります。子ども側から見たお母さんじゃなくて、お母さんから見て今この子との関係どうですか？とか、おうちのなかでどういうことが大変ですか？って。そうすると、昨日も全然歯ブラシしないで、20分もゴタゴタしたんですよ、みたいな話が出て来るとかもわからないし、お父さんの話が出てくるかもしれないし、「ちょっとわかる」みたいなところがあるんです。まず、「どうですか？」って、漠然とした聞き方ですけど。

この子どもは問題だと思っているのは私たちで、私たちから見たこの子と親から見た子どもが同じかどうか、違っているかもしれないんです。違ってたって構いません。お母さんにとってこの子はどういう子だと思っていて、どんなことを感じながら子育てしているのか、お母さん側の秘密があるので、お母さんも気付いてないと思います。話しているうちに泣いちゃうかもしれないし、もっとひどいことで離婚したいですなんて言われるかもしれないし、この子がいなければ、私どんなに幸せだろうって言う人だっています。そういうお母さんにどんな些細なことでも言っても大丈夫よってというような安心安全、言うのはちょっと恥ずかしいし、言いたくないっていうこともあるんですけど、そういうことが言えるような関係になっていくなかでちょっとずつ自分が子どもとの関係をどうしていくかって考えていくように変わるってことがある気がするんですね。まずは何を言っても大丈夫、子育ては、かわいいだけじゃ済まない、自分のなかの憎しみなんかを引き出されてくることもあって、こんなこと人に言っちゃいけないと思っていることでさえ言っていっていいのがあったときに、いろいろな思いが出て来ると思うんです。そういうの受け止めてもらえる、乳幼児精神保健学会の会長が、私たちは子どもに振り回される親を抱える壁、子宮壁になりましょうって。

安心安全の空間みたいなことを言っていくことができればいいと思います。それは担任の先生よりはちょっと離れてる園長先生のような、子ども側からちょっと離れた人のほうが話しやすい。ちょっとニュートラルなおばあちゃん先生とかいたら、そっちのほうがいいと思うんです。これから、一緒に考えていけたらいいです。

質問            ありがとうございます。

司会            皆さん、まだまだお伺いしたいと思いますが、残念ながら今日は時間がありません。次の機会をぜひ、お願いいたします。

今日は子どもと子どもを支える親御さんやご家族、私たちや今日の皆さん、みんな小林先生のような存在に支えられて育ちあえるんじゃないかっていうそんな思いを感じさせていただけるお話でした。ありがとうございました。

## I-2. 第2回公開講座 『発達障がいのある子の「いいところ」応援計画』

星槎大学大学院教育学研究科准教授 阿部 利彦先生

司会 子育て支援研究センター長 牧野カツコ

今日、お招きしましたのは星槎大学大学院教育学研究科の准教授でいらっしゃる阿部利彦先生です。特別支援では今、大活躍でいらっしゃいます。お手元にご著書のパンフレットを配らせていただきました。障がいのあるお子さんの教育に関わっている方には、とても良い本だと思います。今日のタイトルにもしましたが、『発達障がいのある子の「いいところ」応援計画』というご著書がございます。これは大変素晴らしいご本です。

星槎大学と、私ども宇都宮共和大学子ども生活学部は連携大学となりました。星槎大学は通信制の大学ですが、私どもの学部の学生も通信教育の科目を履修することで、特別支援の教員免許、小学校の教員免許が取れるよう到来年度からスタートすることになりました。そのご縁もあり、阿部先生をお招きしました。

先生は早稲田大学人間科学部人間健康科学科（※当時の名称です）をご卒業になられて、東京国際大学大学院社会学研究科を修了して、教育関係のセンター、教育委員会などの仕事をなさって、発達障がいの教育に関わられるようになられました。今は星槎大学で、学校カウンセリングや教育相談、学校コンサルテーションを幅広く取り扱っていらっしゃいます。大学院では現職の先生方のご指導をしていらっしゃるということでございます。

それでは阿部先生、よろしくお願いいたします。

阿部利彦先生

皆さん、こんにちは。星槎大学の阿部でございます。今日は、お忙しいところ、発達障がいのお子さんのためにお集まりいただきましてありがとうございます。私は、現場で相談の仕事をしてきたので、発達に課題を持つお子さんたちの支援者になっていただき、先生になって応援していただけるというのは、とてもありがたいなと思っています。私がいつも考えているのは、「子どもが師」ということで、子どもからたくさん学んで、僕らが色々な人生の幅を広げて、支援者、あるいは先生として、学べたらいいなと思っています。これは私の本のキャラクターですが、カエル先生っていいです。先生ですが、子どもの姿にしてみました。子どもたちを師と想っているいろいろな出会いながら、勉強していききたいな、学んでいききたいなと思っています。今日はそういうなかで、子どもたちからいろいろ教えてもらったことを皆さんと一緒に共有できたらいいなと思っています。

今日の予定ですが、LDやADHD、ASDについて勉強したいと思っています。それから、現場に出たときに、発達障がいや発達が気になる子の周りの状況というのを学生の皆さん



には押さえておいていただけると支援に役に立つ、あるいは、先生になられたとき、現場に出たときのヒントになると思いますので、その話をさせていただきます。それから今日のメイン、3番目は『いいところ応援計画』ということで、子どもたちの支援について、視点をその子たちの強み、良さ、持ち味にポイントを置いて、考えていきたいと思います。学校ではどんな支援をしているのかなということをお話しして、最後に、外部の方、保護者の方の支援について若干触れて、まとめというかたちにしていきたいと思っています。

## 1. 発達障がいとはどのような障がいか？

### (1)発達障がい疑われる人たち

最初にクイズですが、スティーブ・ジョブズとビル・ゲイツとマーク・ザッカーバーグ。この3人の共通点は何でしょう。

男性というのも共通点ですよ。コンピューター関係というのも共通点です。ほかにどんな共通点があるか。アメリカ人、有名人、IT関係。でも、察しがいい皆さんならご存じのとおり、自閉スペクトラム症を持っています。アメリカの3大アスペルガーがこの3人です。シリコンバレーやNASAで働いている方の4割から5割はASDを持っていると言われています。ASD、LD、ADHDは、遠い存在である、かわいそうな人で支援してあげないといけないという視点だけではなく、われわれとスペクトラムでつながっている部分がある。彼らが歴史を作っているわけですから、エジソンもそうですが、そういう人たちがわれわれを支援してくれているかもしれないという視点も持ちたいと思っています。

急な予定の変更があると困るという人、いますか。私も結構苦手です。順番やものを置く場所にこだわるという方もいらっしゃるかもしれません。得意なことと苦手なことがあるという自覚がある方もいるかもしれない。場の空気を読むのが苦手だという方もいらっしゃるかもしれません。マニアックな趣味を持っているという方もいるかもしれません。実はASDの方と僕らは遠い存在ではなくて、結構共通する部分がある。われわれにも、若干、そういう特性は入っているかもしれないと思っていただくと、遠い存在ではないと感じていただけたらと思います。

スピルバーグとトム・クルーズとキアヌ・リーブス、3人の共通点は何でしょう。共通点はLD、学習障害です。

LDのお子さんは、よく聞き間違いをします。相手にわかりやすくお話するのが苦手です。お話が苦手だという方、普段、使わない言葉を読み間違える。漢字の細かい部分を書き間違える。暗算があまり得意ではない。LDのお子さんたちが困っていることの一部ですが、僕らにもそういうところがないだろうかと考えていただきたいな、われわれとの結び付きのなかで考えてほしいなと思います。

発達障がいの特徴を振り返っておくと、外見ではわかりにくい障害です。以前は詳しくわかっていなかった。坂本龍馬もADHDだったのではないかとされています。エジソン

やアインシュタインも発達障がいの特徴があったと言われてます。健常者との明確な境界線を引くことは困難です。健常の人、定型発達の人と発達障がいの人を線引きするのは、基準があるようで曖昧です。だから、特にLDの方は「見えない障害」と言われています。そういうのが見過ごされていると、思春期になって自己肯定感が下がったり、自暴自棄になったり、引きこもりになったり、いろいろな特性が影響して二次障害につながるということも押さえておいて欲しいと思います。

スピルバーグさんは、つい最近カミングアウトしました。今、66歳ですから、60歳の時にLDと診断された。スピルバーグさんが子どものころは、LDという概念がなかったので、読み書きは苦手だったそうですが、ほかの力はあるので教科書が読めないというのは努力不足だと周りの人たちから言われて、とてもつらかったと語っています。今は映画の企画があると、スピルバーグってサインするだけで企画が通っちゃうという状態になっていますが、そこに至るところで、いいところ応援計画的な要素はあるんです。スピルバーグさん、お友達がなかったので、子どものころは1人でお話を想像して過ごしていた。ファンタジーや物語を作ることで、自分なりに楽しみを見つけていた。それが、今の映画づくりにつながっている。昔、書字の苦手さがあったけれども、ファンタジーを作ったりしたことが、今のキャリアにつながっていると思います。

ちなみに彼は、「学習障害というのは、思ったよりも一般的なことだ」と言って、カミングアウトしている。多くの発達障がいのある人たちに向けて、「君は1人じゃないよ。案外近くに、あるいは先生のなかにもいるかもしれないよ。だから応援しているよ」というメッセージをスピルバーグさんはカミングアウトして伝えてくれます。

クイズです。通常学級で何らかの特別な配慮が必要な子どもは、今、何%ぐらいいるでしょう。お隣同士で、相談してみてください。

今、小中学生の6.5%に何らかの課題があるといわれています。埼玉県で独自に調査したら10%という数字が出ました。1クラスに2人ないしは3人は何らかの配慮を要するお子さんがいるということで、幼稚園、保育園でもそれ以上の比率で、何らかの支援を必要とするお子さんたちがいて、皆さんはどこかで出会っていると思われます。

## (2)発達障がいの特性

### ①LD (Learning Disorders)

発達障がいの特性を整理しておきましょう。今日は3つほど絞り込んでお話をします。私が出会った不登校の女の子、LD (学習障害) のお子さんでした。みんなが普通にできることができないといって悩んでいた。この子は、読むことが苦手でした。音読させられるとうまく読めない。当てられるかもしれない、うまくいかないかもしれないと、学校のことを考えると頭痛くなったり、おなか痛くなったりして、学校に行けなくなったというお子さんです。実は彼女にはLDという障がいがあった。

LDにもいろいろあります。聞くことが苦手な子、話すことが苦手な子、書くことが苦手な子、計算することが苦手な子。ほかの能力はいいんだけど、ある部分だけにつまづきがあるというのがLDです。LDというのは、全般的な知的な遅れではなくて、ある部分だけのつまづき、どれかの習得と使用に著しい困難を示すのがLDのお子さんたちです。

Learning Disordersにはいろいろあるので複数形になっています。LDのお子さんたちは、怠けている子、マイペースな子、要領が悪い子、意欲がない子などと誤解されて、非常に自己肯定感が下がっていきます。幼稚園、保育園では学習のアセスメントができないので、就学前に見つけるのはかなり困難だと言われています。だから、ちょっと支援が遅れやすいのが、LDの子どもたちです。いろいろな見え方があるんです。ばらばらに見える子、一部が見えない子、たとえばディスレクシア、読むのが苦手な子の状態でも、いろいろいます。もしLDがあると、学校ってすごくつらいところです。学校というのは、読んだり、書いたり、計算したり、質問されたり、もちろん遊ぶ時間もあるし、体育の時間もあるけど、子どもたちにとっては、学校は苦手なことのオンパレードです。LDの子どもたちは、日々苦手なことにチャレンジしている子どもたち。学校に行くのは当たり前ではなくて、今日も当てられて、うまく答えられないかもしれない。友達に笑われるかもしれない。どうしよう。どきどきしながら、毎日気合を入れて、学校に立ち向かっていくというのがLDの子どもたちです。

われわれはLDの子どもたちに何ができるんでしょう。それは学ぶ楽しさを伝えるということです。難しいことかもしれませんが、僕にもできた、私にもわかった。そういうことが積み上がると徐々に自信が付いてきます。だからこの子たちの学びのスタイルに合わせて、いろいろ学習方法を支援していくというのが今の特別支援教育の流れです。茂木健一郎先生は「勉強するというのは、新しい自分になることだよ」と言っていました。新しい自分に変身していく、パワーアップしていく子どもたちを支援するのが、われわれの使命なのかなと思っています。幼稚園、保育園は勉強ではなくていいんです。遊びを通じて、遊びのレパートリーが広がったり、作品を作ったり、何かで自信をつけてあげる。作り上げられた、あるいはうまくできたということが、LD的なお子さんたちの支援になっていきます。

## ②ADHD (attention deficit hyperactivity disorder)

ADHDは注意・欠如多動症といわれています。注意の課題とか、多動とか衝動性というのが問題で、LDタイプの子はおとなしくて、現場ではADHDのほうが、並べなかったり、1つのことに集中できななかったり、忘れっぽかったり、あるいは高いところ上っちゃったり、お食事中にふらふらしちゃったりって、皆さんにご迷惑を掛けているかもしれません。でも、僕らだって気が散りやすいこともあるし、うっかりミスをすることももあるかもしれない。私は必要なものをなくしてしまう。大事なもののほどすごく一生懸命しまっちゃって、何ヵ月かすると忘れちゃうってことがある。ADHDのお子さん、すごくおしゃべりが好きです、

口の多動と言われる。勝ち負けが絡むと、非常に心が乱れちゃうのがADHDのお子さんです。ADHDのお子さんたちだけじゃなくて、われわれにもこういう特性があるんじゃないかなって感じていただければと思います。

ADHDは、診断が遅れたり支援が遅れると、わがままとか、しつけが悪い、愛情不足、目立ちたがり、言い訳ばかりする子というふうに誤解されやすいですけども、そういうお子さんたちの支援を工夫していくのが、大事なことだと思っています。

ADHDのおさんは、子どもらしいお子さんが多いです。多動や衝動性というふうにマイナスに見るんじゃなくて、ポジティブに見ると元気印、エネルギー満載の子です。この溢れるパワーを大事にしてあげたい。ムードメーカーになったり、お世話好きですから、僕らの手伝いをしてくれたり、いろいろな工夫をしてくれたり、ひらめきの人でもあります。われわれが考えのつかなかったような斬新なアイデアを見つけてくれるというのも、いいところとして押さえないなと思います。もし応援するのであれば、その溢れるパワーを、ときには制御しなきゃいけない、集団生活のなかで、そのパワーを制御するってことを覚えてくれると、彼らは学校生活や園の生活が過ごしやすくなる。最後までやり遂げたり、忘れずに何か物事を達成するということの応援をするためには、自己制御を覚えてほしいなと思っています。自己コントロールできるソーシャルスキルだったり、感情のコントロールの仕方を育めるように応援していくっていう作戦と一緒に考えていきたいなと思っています。

### ③ASD ((Autistic Spectrum Disorders)

ASDは、コミュニケーションに課題があったり、限定された行動パターン、ドラマでSMAPの中居さんがやったATARUをイメージするかもしれません。たとえば、お父さんの車をディズニールンドで見つけるとか、ホイールキャップの形で見つるとか、トイレの水の流れる音を聞いてTOTOとかINAXとか当てられるような特別な能力を持っている。そういう力を、こだわりと取るか、それとも、力と取るかで変わってきます。ASD、自閉症スペクトラムの人たちは、研究者として有名な人がいらっしゃいますし、ノーベル賞受賞者のなかにもASDタイプの方がいます。クラゲばかり研究している、クラゲ大好き、これをおかしいって取るか、「すごいね、1つのことにそうやって興味があるんだね」って捉えるかで、その人の人生は変わってくるかもしれません。融通が利かないとか、自分勝手、変な子、何を考えているかわからない子と捉えちゃうと、その子の可能性を摘んじゃうので、もったいない。だから、皆さんの力でそれぞれの特性を生かすような応援ができればいいなと思っています。

ただし、ASDのおさんの場合は、人付き合いに課題が見えることがあるので、いじめの対象にもなりやすいんです。自閉のお子さんたちの支援を考えるときに、「SST」というのがあります。ソーシャルスキルトレーニング、友達や人と付き合う方法を学んでいくことで、その人たちの力が発揮できやすい環境が作られていきます。

### (3)周りの子どもたち

友達との付き合い方がうまくないのは、発達障がいのある子どもたちだけでしょうか。パニックを起こす子がいたとき、その子だけ見ると、確かに特性があるように見えるけど、実はその子を刺激する周りの子の存在が見えてくることがあります。その子だけにシングルフォーカスしていると見えないけど、わざとパニックに落とし入れたり、その子をからかって、反応が面白い、かかわって行って、わざとやるって子どもたちも周りに出てくるので、そういうお子さんたちの支援も考えていきたいなと思います。

たとえば、子どもが発達障がいだとします。自閉のお子さんは、予定変更が苦手なので、今日はお外遊びの予定だったけど雨が降ったので中止だよ、外で遊べないからお部屋で遊ぼうね。そういうときに、やだやだ、お外で遊びたいってパニックになったりする子どもがいる。そういうときに、皆さんはその子を落ち着かせようとします。でも、保育や学校の現場では、せっかく皆さんが落ち着かせたところに、余計なことを言う子が出てくるんです。刺激する子が登場するんです。「いつまでやっているの?」「赤ちゃんみたい」「いいかげんにしたら?」余計なことを言うので、その子がまた怒り出しちゃう。発達障がいの子の対応は書いてあるけど、伏兵がいるってことを押さえておかないと、対応が難しいことがあります。

今の子どもたちは、先生に、自分だけ大切にされたい傾向があるんです。やきもち焼くんです。特に幼稚園、保育園ではそういう子が多い。「なんでほかの子のこと可愛がるの」「僕だけ世話してよ」。そういう子たちは、楽しいこと、ラクなことが好きで、めんどくさいことはやりたくない。発達障がいの子たちだけじゃなくて、今の子どもたちの多くは、気持ち切り替えることが苦手な傾向の子が増えています。

発達障がいについて勉強した皆さんは、特定の児童生徒に丁寧な個別の配慮をするかもしれません。この個別の配慮を見て、なかには、「あいつだけずるい」「あいつだけ楽しんで」「どうしてあの子だけ特別なの?」「ひいきじゃん」って声が出てくることある。これから現場に行ってみるとわかると思いますが、わざと発達障がいの子を刺激する子ども、トラブルを期待する子どもや集団が出てくることがあるので、周りの子を変えるということも大事になってきます。

### (4)ちくつと言葉からふわつと言葉へ

園や学級の経営で、クラス全体がピリピリしてたり、死ねとか、うぜえとか、ぶっ殺すとか、そういう言葉が飛び交ってる園、あるいは小学校だと、マイナスの刺激が増えて、発達障がいの子も問題行動が起きやすくなる。刺激が溢れていて、落ち着いて過ごせない状況になるかもしれないので、周りの子を育てていくということが非常に重要になってきます。

小学校の例ですが、クラスで使われる言葉が、いつもちくちく痛い。「ちくつと言葉」と

言います。くそデブとか、ざまみろとか、しょぼいぞ、バカ、そういう言葉が飛び交っている学級集団だと、ピリピリして先生方も困っちゃうし、発達障がいの子も刺戟されやすい。そこで、「ふわっと言葉」、すごいね、気にするな、ありがとう、待ってあげるよ。そういったふわっと言葉を、増やしてほしいなと思ってます。今の子どもたちは、ふわっと言葉の貯金がすごく少ない、ボキャブラリーが少ないんです。ですから、ぜひ先生方が言葉を磨いて、たくさん、子どもたちにふわっと言葉を投げかけられるように、技を磨いてほしいなと思います。ふわっと言葉の貯金を、今からたくさん、友達の褒め方、あるいは先輩の褒め方を盗んで、褒め方のレパートリーを広げてほしいと思います。それが、必ず支援で役に立ちます。

何やってんだ、おまえたちのせいだからな、せっかく楽しみにしてたのに。そうじゃなくて、僕らのクラス、私たちのクラスでは、大丈夫だよ、気にしないでね、次があるよ、よかったね、ありがとう。そういう元気になる言葉がたくさん聞かれるように支援していくことも、こんなことが特別支援に役にたつのかって思われるかもしれないですけども、大事なことです。

ふわっと言葉は、ポジティブなストロークと言われていて、貯金されるんです。子どもたちの心に溜まっていきます。褒められれば褒められるほど、心のなかにマルが溜まっていきます。そのために、いろんな褒め方の技を吸収して広げてほしいなと思います。クラスがやわらかくなっていく、ふんわりしてくると、どの子も心がゆったりするので、発達障がいの子どもの問題行動が出にくくなるということも言われていますので、その視点も持っていただくとありがたいなと思っています。

発達障がいのある子たちだけにシングルフォーカスにならないっていうことも、ぜひお願いしたいと思います。学級環境との相互作用って言いますが、その子だけを取り出して、薬を飲ませたり病院連れてったり支援するだけじゃなくて、周りを育てることで、その子が落ち着いて過ごせる環境を作ることも非常に大事です。専門家、特別な支援の専門家も大事ですが、現場にいらっしゃる皆さん、それから、今、現場に行かれる園や学校で支援される皆さんのお力は非常に大事になってきます。『通常学級のユニバーサルデザインプランZero』、興味があったらご覧いただければなというふうに思います。

#### (5)声かけのポイント

声かけのときのポイントを、簡単に話しておきます。1つ目ですが、気を付けたい言葉かけというのがあります。発達障がいの子に関わったときに、「なんでそういうことする?」「どうしてそうするの?」「今何するべきときなの?」「何回言ったらわかる?」という問いかけは、わかりにくいです。「何回言われたらわかるの?」「13回」って答えた子もいます。なんでそういうことするの?理由を聞かれたと思って理由を言うと、屁理屈言うんじゃないと怒られちゃう。

実は、われわれは問いかけふうの責めをしているんです。それだと、発達障がいの子たちはわかりにくいんです。学校の先生や、園の先生がついつい使っちゃう言葉、しっかり、ちゃんと、きっちり頑張れ。しっかりしなさい、ちゃんとしなさい、きちんとしなさい。でも、しっかりってどういうことを期待されてるのか、先生が期待したことが読めない、場の空気が読めないわけですから、わかりにくいのが発達障がいの子。なんでわからないの？しっかりしなさいって言うてるじゃないかって言っても、先生が、何を、どういう行動を期待してるのかわかりにくいんです。だからぜひ、「いったん鉛筆を置いて、顔を上げて先生のほうを見てください」って具体的に指示をしていただけると、救われる子どもがいます。

どうか脅かさないでください。「ごはん、食べられなくなっちゃうよ」、「遊びに行く時間なしよ」、「このままだとおいてくよ。」脅されると、発達障がいの子のほとんどはパニックを起こします。混乱します。ADHDタイプのお子さんだと、もう給食なんていらねえってなります。励ますっていうことは非常に大事になってきます。「これ片付けたらお外遊びたっぷりできるから、今、先生手伝うから片付けちゃおうね。」というように、これをやるとくと、どういうメリットがあるか。君にとってどういうプラスになるか、そうやって励ましていただくと、ちゃんと頑張るよ、私やるよっていうふうに、必ずなります。やってほしいことがたくさんあると矢継ぎ早に言ってしまいますが、指示を刻むということも大事です。これからやることの予定を、カードで示したり、黒板に書くということも大事。そして、指示が通っているか、行動を見て確認する。説明したあと、わかった？って聞く。そうすると発達障がいの子どものほとんどは、わかったって言います。でも、やらせるとできない。なぜ、わかっていないのにわかったと言うかということ、説明を聞いていなかったらと怒られるのがいやだから、防衛反応としてわかったと言うんです。でも、本当はわかってない。だから、やってごらんって個別に支援してあげたほうが、トラブルが少なくてすみます。わかりましたか？って、あんまり確認しないでほしいなと思っています。

大事なのが、「和顔愛語」の精神、大事なことは、やっぱり褒めるとき、しかるとき表情のメリハリ。和顔っていうのは、なごやかな表情で、愛を、ポジティブなメッセージを伝える、これが和顔愛語ですけど、これは道元さんの言葉です。表情が大事だよ、声のトーンが大事だよって道元さんは教えてくれます。褒めるとき、しかるとき表情のメリハリ、それから、声のトーン。しかるときは、低めに駄目だよ、褒めるときは、すごいね、という声のトーンを工夫するだけで伝わりやすくなることがあります。「教師は役者たれ」、なんていうんですけど、皆さんの技を磨いていただけるとありがたいなと思います。

## 2. いいところ応援計画

### (1)疑似体験にトライ

いいところ応援計画の話をしていきたいと思います。自閉症のディスレキシア、読み書

き障害、今45、6歳の方がいるんですけど、彼がこんなこと言ってたんです。苦手な読み書きを必死に頑張れば、こんなこともできないのか、1年生でもできるぞ、って子どもの頃、ばかにされた。得意なことを頑張ると、好きなことしかやらないって責められた。学校には傷つけられた思い出しかない。頑張っても、こんなこともできないと言われちゃうし、好きなことを頑張ると、好きなことばかりやっているとされる。

そういうことで傷ついている人たちがたくさんいます。これから皆さんが、学びにつまづきがある子や課題がある子に出会ったとき、親としてそういうお子さんと関わってるとき、なんでこんなこともできないんだろう？わざとやっているんじゃないか？ときには、私をバカにしているんじゃないか？こんなに一生懸命やっているのにつもうかもしれない。そんなときにはぜひ、トム・クルーズのことを思い出してほしいなと思います。トム・クルーズは、小さいころ一生懸命、文字を読んだけど、読み終わったあとにはほとんど何も記憶に残らない。自分に失望して、不安を常に感じる、ストレスを感じていた、字が読めない自分を恥じていた、と言っています。自分ができないことに傷つく子どもたちです。なんでできないんだ、なんでうまくいかないんだって、絶えず悩むのが発達障がいの子もたちです。どうか、そういう子どもたちに追い打ちをかけないでほしいなと思います。

疑似体験をしたいと思います。これができなくても発達障がいっていうことではありませんので、安心してチャレンジしてみてください。私がいやらしい先生の役で声かけをしますので、怒らないで付き合いいただきたいなと思います。

では、こちらをご覧くださいね。答えがわかったら静かに手を挙げてください。わかったら、読めたら、手を挙げてください。ではいきます。読めたら手を挙げてください。あ、だんだん上がってきましたよ、読めてないのあなただけです、集中集中、気合気合、ほら、一生懸命やりなさい、努力、根性、気合、もっと気合い入れて、ほら、集中集中。

はい、ありがとうございます、集中しても見えないですよ。気合い入れても見えないですよ。何か映っているかという、色が濃いほうではなく、白いほうを見ると見えてきます。実は、支援ツールを出すと見えるようになります。気合や根性では、いくらやっても見えませんが、補助線を入れるだけで、はっきり見えるようになります。「ココロ」という文字が見えてきましたね。3分前の皆さんではないので、補助線がなくなっても見えるようになります。1回支援を受けると、気合や根性ではクリアできなくても、わかったというときから、もう新しいあなたになっています。

ではもう1つ、何が隠れているか、おわかりになったら、手を挙げてみてください。はい、わかったら手を挙げてください。さっき見えただから、これも見えて当然ですよ。はい集中、頑張る、頑張れ、一生懸命見てください。挙がってきた、挙がってきた、どんどん挙がってきた。おいてかれちゃうよ。

はい、ありがとうございます。動物が映っています。101匹わんちゃんのダルメシアンが映っています。支援ツールを出すと、こんな感じです。これも、1回見えるようになると、



隠しても見えるようになる。

ちょっと難しすぎたので、ちょっと簡単なゲームにしたいと思います。これから見せる漢字を見て覚えてください。簡単なので、誰でも書けます。しばらくしたら消えますので、ここの漢字、すごく大きいですが、書いてみてください。では、お見せします。一定時間見せますので、じっと見て、覚えてください。皆さんがよく使う漢字です。では、いきます。簡単ですね。書けたら手を挙げてください。

すごいですね。結構、皆さん優秀ですね。困っている方もいるので、お隣同士で答え合わせしてみてください。

いかがだったでしょうか。次は簡単な図形です。図形が出てきますので、じっと見て覚えてください。しばらくしたら隠れますので、思い出して書いてみてください。四角だけですから簡単です。すごいですね。素晴らしい。答え合わせしときますね。

次はレイトン教授みたいなのをやりたいと思うんです。これはLDのお子さんに関係があるんです。LDのお子さんは、似た文字を読み間違ったり書き間違ったりする。「あ」と「お」で混乱したり、「か」と「や」で混乱したりします。向きが違ってても似たような形で混乱する子もいます。LDのお子さんが間違えやすいひらがなは変換されています。たとえば、これから上に文字が出てきます。それを読んで、「あ」と書いてあったら「お」に変換して文章を読んでください。これから、この法則に従って文字が変換された文章が出てきます。それを、答えを書いてください。もう1回言います。これ以外のひらがなはそのまま読んでください。「さ」が出てきたら「き」に変換、というようにしてやってみてください。最初だけ一緒にやりますね。「ぬ」だったら「ね」に読みかえて答えをここに書いてください。答えを書き終わったら手を挙げてください。

いかがでしょう。では、書いたものをいっせいのせで、読んでいただきたいと思います。ご協力、よろしく願いいたします。いっせいのせ。

一同：「ねこうしといぬのなかで、いちばんおおきいどうぶつはなあに？」

ほかのこと書いた方、いらっしゃいますか。ねこうしといぬのなかで、いちばんおおきいどうぶつはなあに？はバツですよ。

一同：「ええ？」

答えはうしです。変換された文章を読んで、答えを書いてください。指示聞いてない。答えはって書いてある。これ、意地悪ですよ。

読むだけで大変なんです。LDの子、問題文を読むだけで一苦労。指示がわからなくなったり答えまでたどりつけない。やっと読めても答えにたどりつかない。これがLDのお子さんたちの日々の勘違いだったり、うまくいかなかったりということなんです。

やってみてどうですか。周りの人には見えているのに、自分だけ見えない。隣の人はできてるのに、自分だけできない。なんで僕だけわからないんだろう。私だけできないんだろう、というのが発達障がいの子どもの毎日の様子。頑張ってるんだけど、結果に結

びつかない。なかには、頑張っていることに気付いてもらえない。誤解を生むような言動をしてしまう子どもたちもいます。そういう子どもたちの日々の努力、われわれからするとささやかなんだけど、彼らにとっては非常に大きな成長、変化を見つけることができるように、われわれが視点、心の余裕、ストライクゾーンを広げてくっていうことを、皆さんにご協力いただきたいなと思っています。

## (2)ほめて育てる

不登校になってしまった発達障がいの子が、願いの木っていうところに、花に託して書いたメッセージ。「自分が努力していることが誰かに伝わりますように。」自分が頑張っているということをお父さん、お母さんや先生に理解してほしい。願いがかないますようにと書いています。発達障がいの支援をするときに忘れちゃいけないのは、3年生でできて当たり前、5歳でできて当たり前という考えを、脇に置いてください。子どもたちを受け入れる心の幅を少しだけ広げてください。子どもの見方を変えると、子どもの味方になれる。子どもの応援団になれると思います。今日、いらっしゃっている皆さんは、子どもの味方だと思います。これからも、いろいろな視野で、お子さんたちを支援してほしいなと思います。その子の良さ、持ち味を見つけていくってことをお願いしたいなと思っています。

トム・クルーズは、読むことが苦手、ディスレクシアなので、どうやって演技をするかというと、台本を音声データに入れて耳から聞いて覚える。1個ずつ読んでいくとストーリーが理解できなかつたり、演技プランができないけれど、聞きながらイメージしていくと、いろいろなことが湧いてくる。視覚認知に課題はあるけど、聴覚情報の処理は得意なんです。その人の強さや持ち味を発見して、それを取っかかりに支援できないか、これがいいところ応援計画です。その子、その人の強みや良さ、持ち味を見つけて、それを突破口にして応援していくというのがいいところ応援計画です。

茂木先生が、才能がある人は、どこか極めて弱い部分を同時に持ち合わせてることが多いんですよなんて教えてくれたんです。ぜひ、その子たちの持ち味、良さを、弱い部分だけじゃなくて、持ち味を発見する視点っていうのを持っていたらありがたいなと思います。

これから出会う、あるいはすでに出会ってるお子さんたちの、いいところを探してください。ほかの子と比べてではなくて、その子のなかに、色々な良さがあります。それを見つけれられる皆さんの純粋なまなざしがあると心強い。そして、発見した良さや持ち味を、必ず本人にフィードバックしてください。どうせ俺は、私は、駄目だから、私はばかだからって言う子に、違うよ、君には、こんな良さがあるんだよ、先生はわかったよって。あるいは、お父さん、お母さんは、あなたの良さ知ってるよって、本人にフィードバックして、自分の力にしてほしい、気付いてほしいのです。そのあとで、徐々にその力を肉付けてパワー

アップする、これが、いいところ増やしです。その子の良さを、バージョンアップさせていくと、すぐに広がっていきます。弱いところやできないところを訓練すると、なかなか積み上がらない。でも、良さから入っていくと、支援者もうれしいし、本人が一番うれしいんです。その子たちの弱いところをほっておくのではなく、まず、その子たちの自己肯定感を高める、その子たちの力を付けたかったら、その子の良さをバージョンアップさせていく。そうすると、いいところが増えてくるので、また、褒めてあげられる。気付きを促すことで、良い循環をなるべくたくさん膨らましていくというのが、いいところ応援計画です。

その上で、強みや良さが理解できたところで、今度は自分の弱さ、欠点、課題について、一緒に立ち向かっていこうよというふうにつなげていく。日本人はあまり褒めない。「あなた、こういうところ頑張っているよね」「こういうふう成長したよ」って、なかなか褒めてくれません。ぜひ、恥ずかしがらないで、子どもたちを褒めてあげてください。幼稚園、保育園の時代に褒めてもらえると、すっと入ります。大きくなればなるほどひねくれちゃう。小さいうちに褒めていただけると、助かるなと思います。

見方を変えるとという視点も大事です。落ち着きがない子は、活発、エネルギー、パワーがあるというように視点を変える。「リフレーミング」といいますが、見方を変えることによって、活発だからスポーツに向いている。でも、サッカーや野球だと人に合わせないといけないから難しいだろう、水泳だったらいいかもしれない。水泳選手のマイケル・フェルプスはADHDという診断を受けています。彼のお母さんは、うちの子は多動だけど、見方を変えると、エネルギーでパワーがある。だから、この子に向いているスポーツをさせてあげたいなって、考えたんです。それが水泳。彼は前人未到の水の怪物と言われる、すごいスーパー選手になりました。

うるさい子は「元気印」「明るい」というふうに見方を変えられる。「おとなしい」は「人の話をよく聞く」。「あきらめが早い」というのは、切り替えが早い。「集中力が続かない」は「色々な発想が浮かぶ」。「心配性」は「確実にできる」。「しつこい」は「粘り強い」というふうに捉えることができるかもしれません。この子はうるさい子、しつこい子と、固定的に見るのではなく、見方を変える、ストライクゾーンを広げる、子どもの味方になる視点を持つことで、何か支援のヒントが見つかることがあります。

学習障害、ラーニングディスオーダーといいますが、見方を変えてみると、ラーニングディファレンシスと変えることができます。学習障害ではなくて、学び方の違う子。障害があるのではなく、定型発達一般的な学び方と違う子なんです。だからその、ラーニングディファレンシスに合わせて、多様な学びのチャンスを提供する。これが特別支援の視点です。障害と認定するだけではなく、その子の学び方を見つける。たとえば、見るのは苦手だけど聞くのは得意だから、聴覚情報に支援のポイントを置いてみよう。そういうふうに見方を変えることで、ヒントが見つかると思います。

### 3. 学校現場での応援計画

#### (1)教育のユニバーサルデザイン

学校現場での応援計画について、いくつかご紹介いたします。特別なことをする前に、気を付けたいということがあります。算数障害のタケシ君、 $5 \times 2$ の答えを要求されて、黒板に10と書きました。私はタケシ君の応援で見に行ったから、良かったな、先生に褒められる、家に帰って、お母さん、今日ね、 $5 \times 2$ 、うまくできたよって報告できるなと思ってた。でも、先生が聞きました。先生：「皆さん、今の答えどうですか？」クラスの子どもたち：「あっています。」それからがびっくりした。先生：「よく見てた？ゼロの書き方が間違っていたね。答えが合っただけでは駄目なの！」完璧に答えなきヤダメなんですね。校長室に私がうなだれて行ったら、校長先生：「どうでしょう、きっちりした先生でしょう。」いやあ、きっちりしすぎだろうって。

運動会シーズン、練習で多動のマモル君は、背が小さいので、一番前に並びました。先生がこう言いました。「ほんとにできるの？一番前で大丈夫？恥かくわよ。」子ども：「やっぱり、場所変わりたい。」先生：「まったく、わがままね。」どっちなんだよ！っていいたい。

スイミーというお話、皆さん、勉強したかもしれません。真っ黒なスイミーです。真っ白とか真っ赤というのを先生は教えたかったのですが、質問の仕方が不適切でした。「皆さん、まっの付く言葉、知っていますか」って。「まっ」という促音は、とても捉えにくいのです。海の場面ですし、真面目なお子さんが、「はい、まぐろ」って答えたんです。皆さんがもし教員だったら、黒板に視覚的に書いて、工夫してくれたと思いますが、この先生は、くじけずに叫び続けた。「違う、まっ！まっ！」って。そしたら、多動の子が、「まっとは何ですか？」ってずうっと言い続けていた。

口の多動な子がいたときに、こういうトラブルが起こらないように工夫していくのも特別支援です。大きい声で威圧するのが特別支援ではありません。通常学級で、一人ひとりの特性に合わせた支援ができることよいのですが、実際にはたくさんの子がいるので、みんなに共通する手立て、教育のユニバーサルデザインの視点を考えていきたいと思います。

どんな支援をしているか、簡単にご紹介します。まず、教室での対応の工夫ですが、子どもを変える前に環境を整えるということです。たとえば、TEACCH (“Treatment and Education of Autistic and related Communication handicapped Children”)の視点で言うと、「構造化」ということになります。2つ目が、「聞く学習から見る学習へ」、視覚的な支援です。それから「考える学習から体験する学習」です。

ここでも見方を変えるということが大事になってきます。当たり前だったこと、教育の常識をちょっと見直す視点、ほかの子がやっているから、ほかの子ができてから、学校の決まりだから、学校の伝統だからではなくて、その点を見直していただけるとありがたいと思います。どういう視点で環境を整えるか、教室環境、クラス環境のユニバーサルデザインといいますが、ルールのある空間で、皆が気持ちよく生活するための環境を作る。

それから、暗黙のルール、目に見えないルールは、発達障がいの子は苦手なので、具体化したり、見える化していただきたいと思います。できれば、その子たちの良さが発揮されやすいような教室環境にできるといいなと思います。

具体的にどうするかというと、座席の位置に配慮する。落ち着きがない子は前のほうに座らせる、あるいは教室の刺激を制限して、余計な刺激を減らすこと。教室のなかに色々な刺激があると、落ち着きがなくなる子が多いので、教室をきちんと片付けておく。それから、見通しを持たせるというのを、ぜひ押さえておいてほしいと思います。発達障がいのお子さんたちは、見通しが持てないと混乱するので、見通しを持たせる支援を、園や学校で取り組んでください。学校の決まりとか、学習規律とか、生活目標についても、できて当たり前と思わないで、一緒に考えていくということが必要だと思っています。

発達障がいのお子さんたちの中には、姿勢保持が困難な子がいます。「低緊張」といいますが、姿勢が崩れやすいのです。そのため、机やいすの高さが大事になってきます。その子に合ったものを用意することで、集中して作業に取り組み、話を聞く姿勢ができます。また、体作りは非常に大事なことです。体を鍛えたり、遊びを通じて姿勢保持、バランスを育むということも、大事になってきます。その時、「良い姿勢を保ちなさい、ちゃんとしなさい」といった、しっかり、きっちり、ちゃんとを要求することは駄目です。どうしたらよいかわからないので、「ピン、ピタ、ゲー」と教えています。背筋をピン、足を床にピタッと付ける、机とおなかの間はゲー1つ離す、それが良い姿勢だよ、「ピン、ピタ、ゲー」と言ったら、良い姿勢をしてねと教えることが大事です。サッを入れている先生もいて、「ピン、ピタ、サッ、ゲー。」発達障がいのお子子どもたちは、そういうフレーズ、キャッチーな言葉だとずっと入ってきます。このようなポイントを支援の際に押さえていただけると、非常に役立ちます。

あとは、メリハリです。活動の始まりと終わり、最近はノーチャイムの学校が増えてきました。壁がないオープンスクールも増えてきましたが、枠を設定したり、時間のメリハリを設定するというのは大事です。発達障がいのお子さんたちに教えていただきたいことは、おしまいってということ。やりたいけども、そこでいったんおしまいって、切り替える、片付ける、この気持ちの切り替えを支援していく。メリハリを支援することが、発達障がいのお子さんのサポートで大事なことです。

## (2)学校の先生に望むこと

学校の先生のポイントについても、簡単にお話させていただきます。皆さんが現場に出たとき、保護者と信頼関係を作ったり協力体制を作るために、絶対に使ってはいけない言葉というのがあります。「小さいころ、手をかけてあげましたか」「おうちできちんとしつけてください」「3年生なのに、あるいは、年長でも、年長さんなのに、こんなこともできないんですよ。教師生活で初めてです」などです。「教師生活25年で、こんな子は初めてです」

「お宅の子だけ、特別扱いできません」「将来が心配ですよ」などがありました。心配だけさせておいて支援はしてくれない。そんな先生本当にいるの？と思われるかもしれませんが、います。私は絶対、言わないと今は思っているかもしれませんが、つつい言ってしまうことがあるかもしれません。ぜひ、発達障がいには愛情不足のせいではない、しっかり押さえておいてください。

関わるポイントです。1つ目は、保護者にこうあるべきというのを言ってはいけません。親だからしっかりしなさい、あなたの子でしょと言わない。保護者の方は頑張っています。頑張っているのに、もっと頑張れと言ったり、きっちり、しっかりを要求しても、お母さんたちがしんどくなります。正論で責めないでほしいなと思います。皆さんが保護者の方と信頼関係を作るためには、皆さんが、その子の長所、良さ、持ち味、成長を見つける姿勢を持って、その成長を保護者の方にフィードバックして勇気付けることで、さらに協力体制が深まっていきます。あるいは、専門機関と協力しながら、私たちの園では、私は、こういう点に気を付けて、何々さん、何々君の応援をしていきたいと思います、とだけいただくとありがたいなと思います。

#### 4. さいごに

家で甘やかしているから、厳しくしないから、学校で暴れたりするわけではありません。発達障がいの子には、医療的な支援が必要です。学校や園で厳しくして、家でも厳しくとなったら、その子は褒められる時間、リラックスする時間がなくなります。いつも喋らない、いつも怒られてしまって心が潰れます。家は安心できる場所、エネルギーを充電する場所として、役割分担をすることは、押さえておいていただきたいと思います。

私が出会った保護者の方、小さいころ子どもと一緒に心中しようと思った方がたくさんいらっしゃいます。日々、ぎりぎりのところでやっているかもしれない。だから、皆さんからすると、もっとちゃんとやればいいのと思うかもしれないけれど、お父さんお母さんにとっては、ぎりぎり頑張っているんです。そういう人たちを責めるのではなくて、一緒に育んでいきましょう。これが「インクルーシブ教育」、「共生教育」だと思います。保護者の方に、自分のいいところを探してください、自信持ってくださいねってお願いしています。

保護者の方が書いてくれた自分のいいところ。「息子が大好きなところ。」「諦めずに前に進めるところかな。」「知らないアニメの話やゲームの話でも一生懸命に聞いている。」「ほかの子どもと比較しない。」「立ち直りが早い。」「子どものことに一生懸命になれる。」「小さいことにはよくよしないようにしてる。」「あいさつができる。」「毎晩、寝る前に読み聞かせをしている。」「友達がいる。」のも大事です。「好奇心が旺盛で頑張るところ。」「どんなに忙しくても子どもの行事は絶対欠かさず行くところ。」「恥ずかしくない大人になろうと日々努力している。」

お父さん、お母さんも、自分のいいところを探しながら、子どもたちに向き合おうとしている。ぜひそういう保護者の方の支援、子どもさんのいいところ探し、お父さん、お母さんのいいところ探し、皆さんのお力を貸していただけるとありがたいと思います。もちろん、先生方、支援者の皆さんもいいところがいっぱいあります。

保護者の方で、こういうのがありました。お母さんですが、「キャッチボールもテニスも自転車修理も、網戸張替えも襖張替えもできる。本当はお父さんにやってほしいんだけどね。」先生方のいいところ探し。「特別支援教育について、頑張ってる勉強しているところ。」当たり前ではないんです。特別支援についてみんなが勉強してるわけではなくて、興味を持って関心を持って学んでくれる人は少ないです。だから、教師になったら、園の先生になったら特別支援の勉強して当たり前ではなく、興味を持ってくださっている方々に感謝したいし、今日いらしてる皆さんに感謝したいなと思います。

こんな先生がいました。「発達障がいの子とも関わっていくうちに、ものの見方が変わるようになったこと、ストライクゾーンが広がったこと」、「子どもから学んで、教師として人生の幅が広がった」、そうやって先生方が力を付けていただいているというのは、ありがたいことだなと思っています。

お母様、お父様方は日ごろから子どものために頑張ってくださいと思うし、学生の皆さん、これからももしかしたら、子どもたちのためにそういう支援の仕事や先生として活躍していくのかもしれない。自分を大事にすることも忘れないでください。先生で残業が多かったりストレスが溜まって病気になる方、たくさんいらっしゃいます。リフレッシュして、自分を大事にすることもプロとして忘れてはいけません。子どもを褒め支えるために、大人の皆さんがリフレッシュする、これを「余暇スキル」と言います。われわれの支援は無限のパワーが出るわけではないので、自分の余暇スキルを充実させることで、子どもたちに笑顔を向けることができると思います。ぜひリフレッシュ上手になっていただきたいなと、これは皆さんも保護者の皆さんもそうです。

時間になりました。ありがとうございました。(拍手)

司会 阿部先生、ありがとうございました。時間を残してくださいましたので、ご質問を受けたいと思います。

質問A どうもありがとうございました。子どもが発達障がいで小学校5年生になりました。最近、困ってるのが、赤ちゃん言葉を使うようになったり、ズボンに手を入れるようになったり、不意打ちで私に抱き付いてきたりします。仕事もしているので余裕がないし、その表れなのかなっていう気もするんですが、何か急な衝動性もあって、先生の本を読んで、心のストライクゾーンを広げたいんですけども、ちょっとつらい感じになって、どう接していいか悩んでい

ます。この機会に何か、向き合えるいいアドバイスをいただければと思いました。

**阿部先生** ご質問ありがとうございます。発達障がいがあるからといって、お母さんに、小学校高学年で、抱き付いたり、赤ちゃん言葉を言ったり、股間を触ったりというのは不適切な行動で、外でやったら障害があるからでは済まないと思います。たぶん、ストレスが溜まってる。だったら、適切なストレスの発散法を学習させないといけません。それはお母さんがやるんじゃなくて、たとえば、宇都宮だったらTODDS（宇都宮大学）のメンバーになると、ソーシャルスキルのグループ指導やリファーマを教えてくれるし、情報も入ります。問題行動を消すんじゃなくて、適切なストレス発散法を獲得させることで、そういう問題行動が減っていくわけです。

養護教諭の先生の胸を揉んじゃうとか、好きな女の先生にチューしちゃうとか、小学生だからしょうがないわね、みたいにスクールカウンセラーの人も理解して、スキンシップ、スキンシップって言ってるんだけど、中学校ではそうはいかないんです。なんで小学校でよくて中学校では駄目なんだとか言われる。でも、常識で考えると、小学校やその前がおかしいので、そうしないと犯罪にもつながっていきますので、障害があるなしにかかわらず、その行動があることでその人の人生に不利益となる行動は消していく。そのために、それに置き換わるような適切なストレス発散法とかソーシャルスキル指導を獲得させていくっていう支援が必要です。思春期になると、お薦めは、お母さんがやるんじゃなくて、男性だと若い、大学のそういう特別支援の勉強してるような特別支援ボランティアやメンタルフレンドがいるので、そういう方に男性性の獲得を協力してもらおう。憧れる男性をモデルにするので、若い男の先生に出会うと、そこから、ああ、赤ちゃん言葉って格好悪いよな、みたいになってきますので。女性もそうです。女の子も憧れの女性となるモデル、家族以外の人と出会うっていうことは非常に大事です。

**質問B** ありがとうございます。今、幼稚園年長の娘がいます。就学相談をしていますが、こんな厄介な子どもが入ってくるとか、この親面倒くさいとか、嫌だなんていうふうに思われたくないです。どうにかたちで学校の先生方や校長先生とご相談していったらスムーズに入学できるかなという悩みが今あります。

**阿部先生** お母さん1人で動かれちゃうと、向こうに勝手につっ走っていると思われるかもしれないので、専門家、教育センターの相談員と一緒に動かれるといいと思います。たとえば学校の校長先生にアポイント取って、コーディネーターとお母さんと教育センターの相談員とで話し合いの場を持つのが1番効率的かな



と思います。ただし、話し合っていた校長が、人事異動で翌年いなくなるということもあるので、コーディネーターかほかの教員にも、話し合いに入っておいていただけると無難かなと思います。

質問B      ありがとうございました。

司会          まだまだお尋ねしたいことがおありと思いますが、時間も過ぎましたので、終わらせていただきたいと思います。阿部先生、具体的なお話をありがとうございました。それぞれ皆様の職場やご家庭に帰られて、今日のお話が活かされますように祈っております。

                ありがとうございました。

## I-3. 第3回公開講座

### 『まず、知ってほしい～みんなちがってみんないっしょ～』

#### 特定非営利活動法人 障がい者福祉推進ネットちえのわのみなさま

司会 宇都宮共和大学准教授 土沢薫

皆様、こんにちは。子ども生活学部の土沢と申します。ちえのわさんについてご紹介させていただきます。ちえのわさんは、子ども発達センターができる前に、よりよい療育をしていただきたいということで、障がいのあるお子さんたちをお持ちの親御さんたちが集まって、話し合いの場を持ったところからスタートしたと伺っています。今は、宇都宮市にとどまらず県内、県外など広く活躍なさっています。自分たちの子どもだけではなく、一般の方々に向けても障がいのあるお子さんたちのことを知ってほしいということで、活動を展開なさっています。ご自身が様々な経験をされていますので、生きた言葉や、生きた思いが皆様に伝わるのではないかと思います。どうぞよろしく願いいたします。

障がい者福祉推進ネットちえのわメンバーのみなさま

#### 1. 障がいとは？

皆さん、こんにちは。今、過分なご紹介をいただきましたちえのわです。早速、本題に入りたいと思います。

私たちの名物ともいえる出し物ですが、私たちが道を歩いているとき、信号がありますね。そのときの様子をやってみたいと思います。私たちは信号を見て、信号の色に合わせて、青は進む、黄色は注意、赤では止まります。そのとき私たちの体と脳のあいだでどんなことが起きているか、オーバーに実演してみたいと思います。

これは目ですね。目と足ですね。ここが皆さんの体だと思ってください。その隣から、向こうの端までが脳のなかだと思ってください。このはてなマークのところは判断するところです。目で見たことは、どんどん、どんどん奥のほうに伝わっていき、奥で判断して命令がまた体のほうに戻ってきます。では、道を歩いているとします。横断歩道があつて、信号が青から黄色になりました。

女性A 「信号、黄色。」

女性B 「黄色。」

女性C 「黄色。」

女性D 「黄色。」

女性E 「黄色。」

女性F 「黄色。」

女性G 「黄色。黄色ということは、次は赤になるから止まらなきゃ。止まれ。」

女性F 「止まれ。」

女性E 「止まれ。」

女性D 「止まれ。」

女性C 「止まれ。」

女性B 「止まれ。」

女性A 「止まれ。」

拍手ありがとうございます。赤信号のときに止まることが出来るのは、このようなやりとりが素早く頭と体のあいだで行われているからです。途中のどこかが、つながらなくなってしまったらどうなるか。やってみます。道を歩いています。横断歩道で信号が、青から黄色になりました。

女性A 「信号、黄色。」

女性B 「黄色。」

女性C 「黄色。」

女性D 「黄色。」

手が離れているので、目で見えた黄色という情報が奥まで伝わりません。奥まで伝わらないと判断できないので、体に足を止める命令が戻ってきません。そうすると、信号は赤になっても止まりません。危ないですね。

私たちの脳と体のあいだで、情報の伝達がいつも素早く行われているということを、実演してみました。

次をご覧ください。これは私たちの体です。頭のなかに脳があり、目や鼻や口や手足と赤い糸でつながっています。赤い糸は神経です。目で見えたこと、耳で聞いたことは、神経を伝わって脳に届きます。脳からその情報を基にして手や足にいろいろな命令が出ます。

次の絵を見てください。これは脳の役割分担を示しています。まず脳のとっぺんのあたりは、熱さや寒さを処理しています。後ろのほうは目で見えたことを処理しています。両脇は耳で聞いたことを処理しています。前のほうは手足を動かしたり、ものを考えたり、言葉を話したりという大事なことを担当しています。

もし、この脳のどこかに、うまく働かないところがあるとどうなるでしょうか。たとえば、「ああ」という声は出せるとします。でも言葉を担当しているところがうまく働かないと、その「ああ」という声は言葉になりません。手足を動かすところがうまく働かないと、手足、指を使った細かい作業が苦手だったり、目で文字を見ることができても、その文字が読めなかったり、そういう不自由なことや不都合が起きます。生活のなかの不自由や不都合が、障がいということになります。

今、障がいという言葉を出しましたが、皆さんは障がいと聞いてどんな状態をイメージしますか。スクリーンには、肢体不自由、視覚障がい、聴覚障がいなどの障がいが出ています。肢体不自由というのは、手足に障がいがあって車いすに乗っていたりします。視覚

障がいには目に障がいがある盲導犬などを連れています。聴覚障がいの方は耳に障がいがある、手話や筆談をします。これらはどこが不自由なのか、目で見てすぐにわかるので、目に見える障がいとまとめてみました。でも、障がいには、どこに不自由や不便があるのか、見ただけではわかりにくい障がいがあります。知的障がい、発達障がい、精神障がいなどです。自閉症もこちらのグループです。見ただけでどこが不自由だったり、どんな不便があるのかというのがわかりにくいので、目に見えない障がいとまとめてみました。

目に見えない障がいのなかで、知的障がいと自閉症について、詳しくお話しさせていただきます。

知的障がいというのは、知的な発達が遅れる障がいです。知的な発達というのは、ものを覚えたり、考えたり、理解したり、判断したり、読み書き・計算をする、そういう発達が同じ年の人よりも遅れている、ゆっくり成長していくという障がいです。知的障がいになってしまう原因ですが、脳が病気になったり、傷ついたりしてしまったためと言われていて、お母さんのおなかのなかにいるときだったり、生まれるとき、生まれたあとだったり、人によって様々です。ここは大事なところなので強調させていただきたいのですが、知的障がいがあっても何もできないわけではありません。丁寧にゆっくり、ゆっくり学ぶことで、覚えていくことができます。ゆっくり成長できます。

自閉症も目に見えない障がいですが、こちらは脳がうまく働かないことが原因の生まれつきの障がいです。自閉症の特徴としては、人と上手に付き合えない、コミュニケーションがうまくとれない、想像力が乏しくてこだわりがある、感覚が特に鋭かったり、逆に鈍かったりする、苦手な音や味がある、体に触られるのを嫌うなどの特徴があります。このような特徴をお話すると、日常生活のなかの困った場面に結びつきやすいと思われるかもしれませんが、いい特徴もあります。記憶力がいいです。目で見たものをまるで写真で撮ったように記憶して、その記憶したものを正確に絵に描いてみたり、一度耳から聞いた音を正確に覚えて、楽器の演奏などで、すぐに再現できる。優れた才能に結びつくような特徴もあります。

## 2. 不自由を体験する

皆さんに、これから不自由体験をしていただきます。机の上に軍手があります。何のために使うかというと、手の不自由な方の気持ちに寄り添っていただくための軍手です。手の不自由な方の気持ちになるといっても、同じようにはできないので、軍手をしていただくことで感覚が鈍くなる、その感覚を味わっていただきたいと思います。もう1つ、手が不自由で目の不自由な方の気持ちに寄り添っていただきます。その2つを今日はしていただきたいと思います。

軍手、折り紙、アンケート用紙の裏側、筆記用具を使いますので、その4点をご用意ください。これから目に見える障がい、不自由体験をしていただきます。まず、手袋を片方

だけしてください。右手でも左手でも結構です。片方だけです。いつもとどれだけ感覚が違うか、感じていただきたいと思います。まず素手で机を触れてみてください。そのあと、軍手をしたほうの手で触れてみてください。1枚の布ですが、とてもはばったような、厚く感じますよね。そのちょっとまひしたような、しびれたような感覚、それがまひのある方の、不自由な方の感覚です。

次に軍手を両手にしてみてください。手を挙げてみてください。指を組んでみてください。素手で組むのと違いますよね。1枚あるだけで、嫌ですよね。

軍手をした、まひをした感覚の手で、折り紙を折っていただきます。薄い折り紙で、作品を折っていただきます。何を折るかは申し上げませんので、頑張っつてついてきてください。どんどん、どんどん先に進みます。「ついていきたくてもいけない」、「待ってよ、待ってよ」と思うもどかしい気持ち、「したくてもできない」、「頑張りたいのに、頑張っているのにできない」、そういう気持ちを感じとってみてください。

机を使わずに空中でこのように持って、折って行ってください。まず折り紙を真ん中から三角に折ります。三角に折りましたら、両側の小さな三角を真ん中のお山に向かって、両側から折ります。右も左も折ります。どんどんスピードアップします。折らしたら、正方形の小さい四角ができました。それを180度回転いたします。そうすると折ら上げたものが下にきました。下の2枚のぺろぺろを、半分から上に折ら上げます。両方折ら上げます。折ら上げましたら、その折ら上げた紙を真ん中のあたりから、外側に角のように折らります。そうしましたら、下の2枚の1枚を重ねます。上に折らって重ねます。半分くらいです。その上に余ったものを二重に折ら重ねます。そして、最後に余った1枚を裏側に折らります。いかがでしょうか。

素手でしたら、どんどん、どんどん折れると思いますが、角のあたりまでいったときに、「これはかぶとだな」と思うと感覚的に早く進むと思いますが、いつもと同じようには進めないのは、軍手をしている、まひがある手です。どんどん進まれてしまう気持ち、1枚手袋があるだけで、進めないその気持ち、わかっていただけたでしょうか。

次は、両目を閉じていただいて、手も不自由で、両目も不自由な方の気持ちに近づいていただきます。私は、この不自由体験をすると、いつもヘレン・ケラーを思い出します。目も見えない、耳も聞こえない、言葉も発することができない。その三重苦を負った苦というものは、どんなものだったろう、想像を絶するものがあります。

今度は、目に見える障がいのないなかの視覚障がいの方の気持ちにも近づいていただきたい。皆さんが持っていらっしゃるアンケート用紙と筆記用具を出してください。机の上に置いていただいて結構です。私が「目を閉じてください」と言ったら、両目を閉じてみてください。その紙の上、一面に私が言った順番で絵を描いてください。

まず筆記用具を持ってください。皆さん、利き手で持たれていますが、利き手ではないほうの手に持ち替えてください。もっと不自由になります。それで両目を閉じると、不安

になります。人は周りが見えなくなると、だんだん不安になってきて、言葉を発しなくなるんだそうです。利き手でないほうに筆記用具を持ち、両目を閉じます。紙一面に大きく顔の輪郭を描いてください。輪郭を描きましたら、真ん中に鼻を描いてください。両耳、右耳、左耳です。次は口にいきます。だんだん不安になってくるでしょ。わからなくなってきましたよね。では髪の毛を描いてください。右の眉毛を描いてください。そして左の眉を描いてください。描きましたら、右の目を描いてください。そして左の目を描きます。それで顔、仕上がりましたよね。もし、描き足りない方がいらしたら、ひげとかまつげとか描き加えていただいても結構です。いいですか。描き上がったところで、両目を開いて、いつもの絵とどう違うか見比べてみてください。どうぞ。いつもですと、当たり前のようにすっと描けるものも、目を閉じてしまうとこんなにも感覚が鈍ってしまう、そんな感覚。それに増して、手も利き手でないですよ。利き手でないほうの手で描き、もっとならなく、手袋もしてまひのある状態を感じとっていただきました。

いつもと違う感覚、いかがでしたでしょうか。手袋を外してみてください。どうですか。楽になりましたね。障がいのある方はその感覚を味わうことができません。いつも、いつも手袋をしたままの状態、毎日いろんなことを1つ1つ頑張って過ごしています。皆さんの周りには、本当にたくさんの障がいを持った方がいらっしゃると思います。目の前で、スーパーに行ったときになかなかお金が出せなくて、時間がかかってしまう方、自分で表現したくてもできなくて、もどかしくて困っているんだなと思う方、年齢を重ねると、ボタンがかけにくくなったり、スマホや携帯を触っていて手が乾燥して反応しなかったり、ということありませんか。優しい気持ちで少し寄り添っていただけるとありがたいかなと思います。

### 3. 障がいについて

#### (1) しーちゃんのこと

皆さん、私は吉永と申します。3人子どもがいる母親です。写真だけ見るとごく普通の家族に見えると思いますが、上2人の子に障がいがあります。見ただけではわからないので、一般のなかで誤解や偏見を持たれます。2人は知的障がいを伴う自閉症です。この目に見えない障がいがどんな障がいかわかっていただけたらと思っています。今日は、本人たちが会場にいます。それぞれに安心グッズを持ちこみ、ヘルパーさんがついていてくださっています。ブロックで遊んでいます、そのこだわりがないとこういう場にいられないので、カチャカチャと周辺の皆さんはうるさいと思うかもしれませんが、よろしくお願ひします。

そちらのほうにDVDを見ている息子がいます。子どもたちのありのままの姿を見守っていただけたらと思っています。ちえのわのスタッフの子どもたちも、土曜日なので、仕事や学校が休みなので、一緒に手伝いにきてくれています。

知的障がいの人は、同じ年齢の人より成長が遅れていますが、何もできないわけではない、

丁寧に学ぶことで成長する。ここをキーワードにして聞いてください。知的障がいといっても重い人、軽い人、様々です。うちのお姉ちゃんはとても重い知的障がいですが、全く言葉がしゃべれません。1人で歩けますが、常に誰かが付き添っていないと行動ができません。食事もトイレも入浴も着替えも介助が必要です。1～2歳の子どもより発達が遅れています。しーちゃんと呼んでいますが、しーちゃんは生まれてすぐ息が止まり、脳がダメージを受けました。上の絵が普通の子ども、下がしーちゃんという形でちょっと見ていってください。普通の子どもは段階を追ってすくすく育ちますが、しーちゃんの育ちはとてもゆっくりで、同じ年齢の子より、どんどん遅れていって、私は不安でいっぱい毎日でした。

普通の子が歩いたり、言葉が出たりする時期、しーちゃんはやっとハイハイをはじめました。私は早く普通の子と同じになってほしいと焦って、必死で歩く訓練や言葉の訓練をさせていました。障がいがあるということを受け止められず、私が頑張っただけで育てたら、きっと普通の子どもになると信じていました。普通の子どもの成長と成長の差がさらに開いて、普通に育たないということがこんなにも悲しくつらいものだと、わが身をもって知りました。本当に泣いて暮らす毎日でした。しーちゃんに笑顔を向けていない自分がいました。お母さんの私が笑わないとしーちゃんも笑わないのです。これではいけないと、障がいを受け止めて、親子で病院や訓練に通い、楽しく過ごしていきました。障がいのある子が通う、若葉園というところに通い、しーちゃんのペースでゆっくり楽しく訓練し、成長しました。優しい保育士さんのおかげで、よく笑うようになったしーちゃんがかわいくて、私もやっと子育てが楽しくなりました。

しーちゃんは育てにくい、変わったところがたくさんあり、自閉症でもあることがわかりました。しーちゃんの自閉症の特徴もお話します。こだわりがとても強いです。こだわりとは、自分の気になることややり方から抜けられない、ずっとはまることです。しーちゃんは、こうして文字を見ることにはまります。文字は読めませんが、文字の形、並び方などで脳が刺激されます。人の動きを見ることにもはまって、側に行こうとしてじっと見て興奮して、笑ったりうなったりするので、かなり怪しいお姉さんです。しーちゃんはものに触ることが苦手で、触れないものがたくさんあります。これを触覚過敏といいます。触った感じが普通の人と違って、砂や芝生や絵の具など、ざらざら、ちくちく、ひやっとするものが、気持ち悪い、怖い、痛いと感じるようです。特に、布団のシーツは苦手で、無理やり寝かせると緊張して、逃げたり、吐いたり、失禁をしたりします。たかがシーツでこんな反応をするんです。触感で食べ物もおもちゃも服も拒否をするので、何が大丈夫か、親でもなかなかわかってあげられませんでした。おにぎりやお菓子も手を振るので要らないと思われてしまいますが、しーちゃんは食べたいけど触りたくないというのが本音です。ひと口ずつ、食べやすくすれば、口に入れるあいだだけは持って食べます。こうして工夫しながら過ごしています。皆さん、シーツが嫌で困っている人がいたら、どうしますか？

そういうときはほかの素材を試してあげてください。しーちゃんは、タオルや毛布は大丈夫なので、シーツの代わりにしています。周りの人のこうした配慮で安心ができます。

## (2) しーちゃんの不自由を体験する

さて、ここでしーちゃんの不自由だという気持ちをちょっと体験していただきます。アイマスクをして、色々なものに触ってもらいます。予測なく触ってしまうことの不安を体験してみてください。

アイマスクをしたら、手のひらを上に向けて、何かくださいという感じで待っててください。その手に私たちがいろいろなものをお乗せします。その一瞬に、何を触ってしまうかわからない。そして、触ってしまったときの感覚を、いつも自閉症の子が持っているという気持ちで皆さんもご覧になってください。では、のせていきます。一瞬の感覚を覚えてみてください。最初に触ってしまった感覚はどうでしたか。

体験者1 「髪の毛という感じがあったんですけど、それがすごいリアルなんですよ。目で見てなくて、急に来たので。いつもおもちゃで触っているものが、おもちゃではなくて、気持ち悪い感覚になりました。」

体験者2 「最初に冷たさが来たので、それだけで結構パニックというか。」

ありがとうございます。見たほうが嫌でしたね。自閉症の子が触るのが嫌だなという気持ちを体験してくださった、わかってもらえたと思います。体験してくださった方、ありがとうございます。

しーちゃんを育てるまで、触ることが嫌な人が世界中にいることを、知らなかったのです。子育ては勉強だなと思います。色々なものに触れることが、成長につながるのではないかと考えて経験を繰り返しました。砂は嫌いだけど、海は好きなんです。レジャーシート、苦手な座れませんが、大好きな先生の膝の上から、安心が得られると自信ができました。若葉園では体を使う遊びを通して物をつかんで、自分の体を支えることができるようになりました。触りたくないものでもぎゅっとつかまないと転んだり、遊具から落ちてしまうことを体で学びました。

## (3) しーちゃんの得意なこと

学校は小中高と特別支援学校に行き、しーちゃんに合った学習ができました。普通の学校は読み・書き・計算などの学習が勉強ですが、しーちゃんのように重い障がいのある子は、普段の生活のなかで、自分でできることを増やすことが学習です。自分でご飯を食べる、着替えをする、トイレに行く、運動したり遊んだり、外出や宿泊をすることも学習です。手を使う学習ができるようになり、成長しました。自閉症のこだわりや、同じことをずっと繰り返



返し行う、1つのことに執着するというのは得意なこととして生かされます。シーちゃんは同じパターンのことを繰り返す力があります。普段、ブロックを色別に並べて遊んでいますが、これを何時間でも何年でも、飽きることなく何万回も繰り返します。この特性を生かして、中学と高校で布を織る学習にチャレンジしました。覚えるまでが大変でしたが、織るパターンが決まると黙々と織り続けました。手織りでさおり織りといいます。織り機を手と足をうまく操作して織り上げます。1本1本糸を織り続けると、このように長い布になります。糸も自分で選ぶので、同じ仕上がりはない、世界で1つだけの布です。織ってる様子をご覧ください。

シーちゃんは毎日せっせと織ってたくさん反物を仕上げています。服やマフラーやバッグに作られて、市役所やお祭りなどで販売されます。作品がありますので見てください。先ほどの織り機で淡々と織っているのが作品です。触ることが苦手なシーちゃんがこんなことができるようになるなんて、いまだに信じられない思いです。こうして娘が織った物を身につけていることが私の楽しみになりました。私がかいているスカートも、ポシェットも、シュシュもそうです。ここに飾ってあるのはみんなシーちゃんの作品です。真ん中にあるのが反物です。手織りの仕事は毎日午後の3時間で、あそこにかけてある布、長さが5mありますが、7日で織ります。本人としては、ただのこだわり行動ですが、これが仕事として生かされることに出会えたことがうれしい限りです。

部品を数える仕事もしています。正確に数えて20個、袋詰めする作業です。シーちゃんが向かっているボードに20個印があります。その印に部品を全部入れると20個数えたことになります。この印に入るものならいろいろなものが数えられます。20個数えられているか確認してもらうのに職員さん呼びますが、言葉がないので、鈴のついた旗を振って職員さん呼びます。こうすると、障がいの重いシーちゃんでも間違いなく仕事ができます。本人の特性と、支援に関わる方の工夫によりできることです。シーちゃんをご披露します。同じ学年の人と一緒に成人式をお祝いしてもらいました。命の心配をして生まれて、障がいがあるとわかったときは、この子はどんな大人になるんだろうと希望が持てませんでした。今こうして、苦手なことを工夫して、得意なことを生かしてみんなに支えられて暮らしていけることを幸せに思っています。

私はシーちゃんを授かるまで、障がいのことを知らないがために、差別する気持ちや偏見がありました。シーちゃんと共に暮らすことでたくさんのことを学んで、私は子どものおかげで親にさせてもらっています。これから親亡きあと、私が亡くなったとき、どうなるんだろうと心配ですが、シーちゃんが今のように大好きな仕事を続けながら、住み慣れたこの地域で幸せに暮らしていけることを切に願っています。シーちゃんが着てる服も自分で作ったものです。

#### (4) 匠ちゃんのこと

もう1人、障がいのある子どもである匠ちゃんの話をしてします。匠ちゃんも知的障がいを伴う自閉症で、特別支援学校高等部3年生です。匠ちゃんは身の回りのことも1人でできて、文字の読み書きも簡単な計算もできます。しかし、発達が3歳から9歳ぐらい、幅があって、バランスがとっても悪いです。危険や善悪の判断がわかっていませんし、経験していないことは1人でできません。

匠ちゃんは元気に生まれて、すくすく育ちました。歩き始めたころから、おなじ年齢の子と違うなあと思うことが目立ってきました。動き回っていてじっとしていない。バイバイなどの人の真似をしない。コミュニケーションが取れない。匠ちゃんも障がいがあるかもしれないと不安が募り、しーちゃんに手をかけていたことを反省し、匠ちゃんの通院や療育を始めました。2歳で広汎性発達障がい、3歳で自閉症と診断され、とてもショックでしたが、障がいを受け止め、まず言葉が出るように必死で匠ちゃんと関わりました。言葉が出ることにつながる絵本を毎日読み聞かせしました。『いないないばあ』、『のせてのせて』、『いやだいやだ』、『しろくまちゃんのほっとけーき』など、膝に座らせて繰り返し読むことで、指差しや言葉が出てきました。そのうち本に関心を持ち、自分から読み聞かせに参加できるようになりました。好きになった本はとことん読んで、おかげで言葉が増えました。落ち着きがないということは、匠ちゃんが集団生活を送るときに問題とされました。しかし、匠ちゃんは地域の子どもたちのなかで過ごさせたいと考え、一般の保育園の障がい児保育を利用しました。問題は多かったのですが、自閉症に理解のある先生に恵まれ、地域の子どもや保護者にもありのままの匠ちゃんを受け入れていただくことができました。

就学は特別支援学校を勧められましたが、地域の小学校の特別支援学級に入学することができました。匠ちゃんは自閉症の困った特性がたくさんあります。変わった行動が目立つので、同じ学年の子どもや保護者には、匠ちゃんの苦手なことを1年生のときからずっとこのような絵で伝えてきました。匠ちゃんは大勢の人のなかにいることが苦手で、耳を塞いで怯えます。耳を塞ぐのは不安なとき、恐いと思うときです。そういうときは、「どうしたの?」と話しかけるより、そっと見守ってやってください。安心すれば、耳塞ぎはやめます。うまく会話ができません。聞かれたことを返してしまう、オウム返しになります。独り言をずっと言ってきて、うるさいです。「うるさい。」と注意するより、「静かにしてね。」と正しい行動を伝えてください。お友達と遊びません。いつも1人で好きな遊びに没頭しています。でも、みんなが遊んでいるのを意外とよく見ているので、真似をし始めたりします。そんなときは仲間に入れてやってください。パズルが1つ足りない、あるはずのものが見当たらない、思ったことと違うことがあると、パニックになります。パニックになると、大きな声で泣く、騒ぐ、自分や人を叩く、物を投げる、壊すなど激しい行動になります。こんなときは静かなところへ連れて行き、1人で落ち着かせます。必ず落ち着くので待っていてあげます。病院でどんな治療をされるか不安で大騒ぎし、注目を浴びて、家族はとっても恥ずかしい思いをします。

匠ちゃんはディズニーランドが大嫌いです。アトラクションはみんな真っ暗になり、急に大きな音がしたり、何か飛び出してきたり、乗り物が急に動いたり、その先に何かあるかわからないから恐くてたまりません。じっとしてられません。わざと動いているわけではなく、自然に体が動いてしまいます。手を叩き続けたり、くるくる回っていたり、こんな変な行動もあります。こうしていると、本人は落ち着いた気分になるようです。でもずっと続いてしまうので、ある程度になったら違うことに目を向けたり、場面を変えたりしています。行動が素早いです。自分が思ったままの行動をしてしまいます。ほかの子が遊んでいる自動車が目に入ると、すぐに自分の手にしてしまいます。一応、「貸して」と言いますが、「どうぞ」という返事の前に取ってしまいます。「匠ちゃんが勝手に取った。」「人の物を取るなんて悪い子だ。」と匠ちゃんも私もよく叱られます。社会のなかでやってはいけないことは、その場その場できちんと本人にわかるように教え続けています。順番を守ることも苦手です。じっと並んでいることができず、列から離れてふらふらします。皆さん、ここに並んでいたらどうですか？「ちゃんと並んで。」と文句言いたくなりますよね。「お先にどうぞ。」と譲ってくれる方がいます。よくお言葉に甘えていました。でも譲ってもらってばかりでは、それが当たり前になってしまって、並ぶことを覚えません。並べるように工夫をしています。まず、「順番に並ぼう。」と声をかけ、一緒に並んであげます。そして、好きな歌を歌ったり、しりとりやジャンケンをして楽しく待てる工夫をします。こんな繰り返しで少しずつ並べるようになりました。予定が変わると不安になります。変更がわかったら、それを紙に書いて、すぐ目で見えてわかる形で伝えます。視覚からの指示のほうが入りやすく、納得すると変更も受け入れることができます。匠ちゃんは音に敏感です。普通の人と聞こえ方が違うようです。大きな破裂音が大嫌いで、聞こえると耳を塞いで逃げていきます。花火、クラッカー、雷や風船の割れる音、また人の泣き声や叫び声も苦手で、我慢が限界になるとパニックになります。このため学校で困るのは運動会です。花火、ピストルの音が恐くてずっと耳を塞いで我慢をしています。玉入れ、やりたいけど、開始と終了がピストルの相図なので、いつパーンとなるか恐くて耳を押さえて怯えています。

この様子から、匠ちゃんが安心できるようにと学校も工夫してくださいました。ピストルをなくすのではなく、使うところをプログラムでわかりやすく教えてくれました。どこでピストルが使われるか、自分で印をつけたので印のないところは安心でした。そのおかげでダンスでは絶対ピストルが鳴らないとわかり、のびのび踊っています。玉入れでは目立っていましたが、ダンスではどこにいるかわかりません。

10歳ぐらいになると通常発達の子と同じことができることが増えてきました。でもピストルの音はずうっと苦手。音に敏感な子が使うイヤーマフを匠ちゃんも使ってみました。耳にあてていれば、苦手な音が恐く聞こえることがなくなりました。それから苦手な音のするところは、イヤーマフをします。映画やディズニーランド、ミュージカルなど、イヤーマフがあれば安心して出かけることができるようになりました。

## (5) 匠ちゃんの不自由を知る

これから風船を割って、音の違いを体験していただきます。イヤーマフ体験の方、前にお願ひします。イヤーマフを使わない状態で風船の音を聞いていただきます。次にイヤーマフをしていただいて、音の違いを発表していただきたいなと思っています。まず風船を2回割ります。1回目、まいります。風船嫌いな人、自分で身を守ってください。5、4、3、2、1、」

(風船の割れる音)

結構、刺激的な音でした。次はイヤーマフをしてください。風船を割ります。5、4、3、2、1、」

(風船の割れる音)

「音が軟らかくなっていて、恐さは感じなかったです。」

「こもったような音がしました。」

ナイスな発言、ありがとうございます。こもったような、音が鈍い、パーンという破裂音が鈍い音に変わりました。そんな音が変わるイヤーマフを使って暮らしています。

日々子どもたちが安心できるグッズを探し求めて、親は情報をもらいながら過ごしています。

## (6) 匠ちゃんの得意なこと

苦手なことばかりお話しましたが、自閉症だからこそその優れた特性もたくさんあります。記憶力がすごくて、目で見えたものはカメラで写真を撮るかのように記憶されます。文字、数字、英語からは記憶されやすいです。大好きな日本の電車は超特急から地下鉄、ローカル線、すべて記憶されています。本もCDもDVDも電車づくしで、言葉が出ないと心配していた幼少期に電車の本を持ってきて、たどたどしい言葉で、「す・ば・る」「お・ど・り・こ」「な・り・た・エ・ク・ス・プ・レ・ス」などといったことを覚えています。「パパ、ママ」も言わないでまず電車の名前を言ったことにびっくりしたことを覚えています。

音感も優れていて、ピアノを習っていますが、練習の仕方は独特です。先生が一度正しく弾いてくれたのをまず耳で記憶します。そして自分で楽譜も見て、楽譜も全部記憶します。そうするともう次からは楽譜も見ないで、記憶通りにピアノを弾いてしまう、そんな練習の仕方をしています。演奏を聴いてください。

(ピアノの演奏・モーツァルト作曲『トルコ行進曲』)

(一同 拍手)

6分ぐらいの曲ですが、短くしました。間違いもいっぱいあったんですが、こんなふうには弾ける特性があります。

記憶通り絵を描ける能力というのもあります。宅配便のマークも上手に描けます。すごいでしょ。手先も器用で、粘土を何も見ないであっという間にいろいろな動物に作り上

げます。1つの粘土が次々にキリンやライオン、カンガルーに変わっていきます。今年、宇都宮のアートコンクールに入賞して、審査員特別賞をいただきました。宇都宮市のアピタやベルモール、健康の森などを、作品が回るのも、もしアートコンクールというのを見かけたら、作品を見てやってください。大好きな山手線とSLの走る街というのを粘土で作りました。チラシもちょっとそこに貼ってあるので、あとで見てください。

水泳は小さいころから通っていて、大会にも出ます。でもスタートやタッチなどのルールを守れないので失格になってしまいます。何度も悔しい思いをしましたが、やっと金メダルをもらいました。スキーもスケートも卓球もします。運動神経は良いので、将来、スポーツが趣味になればいいなあとと思っています。

匠ちゃんの記憶力のよさです。山手線29駅、1周します。音感がよくて記憶力のある匠ちゃんの得意な覚え方です。皆さんも駅の名前を電車とともにたどりながら覚えていってみてください。

「東京、神田、秋葉原。御徒町、上野、鶯谷。日暮里、西日暮里、田端。駒込、巢鴨、大塚。池袋、目白、高田馬場。新大久保、新宿、代々木。原宿、渋谷、恵比寿。目黒、五反田、大崎。品川、田町、浜松町。新橋、有楽町、東京。神田、秋葉原、御徒町…」

ありがとうございます。好きなことは、記憶がいいという特性、披露させていただきました。

匠ちゃんは中学部から特別支援学校に1人で通学をしています。徒歩とバスで片道1時間、バスは乗り換えます。たくさん練習しました。1番前の席にこだわって、座っている人をどかせて座ってしまったり、大きな声でしゃべって運転手さんに注意されたり、失敗はたくさんありますが、2年間付き添いをして自立をしました。今、いろいろなところに実習に行きますが、その都度、通勤に合わせた交通機関の利用の練習をしています。1人でできるまで何度も私が付き添って練習をするので、この練習が親としてとても大変です。でも、そこをしっかりとやれば1人でできる力になるので、寄り添い、見守っています。電車で通う実習がありました。電車が大好きな匠ちゃんは、電車に乗りたくて実習頑張っていました。実習はとっても厳しかったのですが、モチベーションを上げるのは電車です。好きなことがあるってすごいなと思います。就労を目指しての学習をしています。着席して集中して作業に取り組めるようになりました。一度覚えたことは正確に仕事を進める、自閉症のいい特性を生かして匠ちゃんに合った仕事を見つけます。

パソコンはローマ字で文章も入力して、いろいろなものを調べたり動画を見たりしています。清掃の仕事の学習です。仕事の手順はすぐ覚えてできるようになりますが、課題は、一緒に働く人とコミュニケーションがうまく取れないこと。じっとしてられないので、落ち着きがない、危ない子だと思われてしまうことです。だから初めての人には、仕事ができると思ってもらえず、ぱっと見た目の判断で実習も受け入れてもらえないこともありました。一般のなかで匠ちゃんを認めてもらうことは、厳しいということを実感しました。匠ちゃんの特性を生かすためには、周りの人、障がいに対する理解が必要です。今はフー

ドサービス班、という学習をしています。学校のカフェでコーヒーや紅茶を作って接客、販売します。お客様の注文を聞いたり、お茶を作って運んだり、お金の計算をしたり、苦手な分野の仕事ですが、頑張っています。来年はお仕事でお給料をもらって、立派な社会人になることが目標です。

これは、どれみふぁクラブという音楽クラブの様子です。1人で楽器を演奏するのもいいですが、ほかの人と演奏する楽しさも経験するため、余暇活動として所属しています。鉄琴も楽譜と音を記憶して演奏します。キーボードは得意です。シーちゃんも一緒に所属していて、ヘルパーさんと一緒にトライアングルをやっています。いろいろな楽器をみんなで演奏し、とっても楽しいです。オファーがあるところに行きます。演奏を通して世界が広がっていきます。匠ちゃんのこれまでの成長はあらゆる方々の理解とサポートがあったからこそです。障がいゆえの困った特性の陰に、いろいろな力や可能性があることを匠ちゃんと関わった方々に発見し、伸ばしていただいているところです。

これは、家族の写真です。障がいのある匠ちゃんもシーちゃんも、私はどこにでも連れていきます。その場その場で体験しないと、社会のルールやマナーは覚えられません。その際、いつも一緒なのは障がいのない中学2年生の末っ子です。自分のお兄ちゃん、お姉ちゃんに障がいがあるという運命を生まれたときから背負って、育っています。一緒に外出すると、周囲の冷ややかな眼差しを感じ、「やだなあ、恥ずかしいなあ。」と思うことは、たくさんあります。私は自分が障がいを知ったことで、偏見がなくなりました。だから周りの人にも、障がいを知ってもらおう活動をしています。今日、こちらでした話を、末っ子の学校の親子活動での授業でもしました。「このことが原因でいじめられたらどうしよう」と心配でしたが、そんなことはありませんでした。かえって、「みんながお兄ちゃん、お姉ちゃんのことをわかってくれた」とみんなに知ってもらえたことは安心になりました。この活動は小中学校を中心に10年を経過しました。障がいを持つ本人と家族を応援してくださる方を1人でも多くしたいと願い、継続していきたいと思います。そんな活動の様子を最後にご覧いただき、私の話を終わりにさせていただきます。DVDをご覧ください。

(DVD映写)

#### 4. 発達障がいを正しく理解しよう

『発達障がいを正しく理解しよう』というパンフレットをご覧ください。これは発達障がいのあるお子さんについて、保護者や家族、関わりを持つ方たちが、早い段階で気づいて、正しい理解のもとに適切な対応をしてよりよい生活が送れるようにと、宇都宮市が発行したものです。作成にあたって、宇都宮市発達支援ネットワーク会議という子どもに関わる26の関係機関の集まりで協議を重ねました。関係機関のなかには、幼稚園連合会、各学校関係、子どもの家連合会、医師会、当事者団体などが入っています。私たち、ちえのわも参加しました。これからみなさんが障がいのあるお子さんやその家族と接するときの参考

にしていただけると思いますので、一緒に内容の確認をする時間を取らせていただきます。

表紙をご覧ください。家族の絵の左側に立て札があり、乳幼児期編となっています。とても基本のところであり、ここからが理解のスタートになります。大きく書かれた、「発達障がい」を正しく理解しよう」の右上に画びょうで貼りつけた斜めのメモがあります。「その子のいいところをいっぱい見つけてあげてください。発達に課題のある子どもたちも、みんな必ずよいところを持っています。よいところを見つけたら、褒めてあげてください。褒められることで、自己肯定感が育まれます。」これは、障がいのあるなしに関係なく、人としてとても大事なことだと思います。事例に登場したお子さんたちも、発達の課題はありながら、よいところがたくさんあり、家族や周囲で関わる方たちから、そのよいところを見つけてもらい、褒められながら日々生活していることと思います。吹き出しが2つあります。「発達障がいは育て方や家庭でのしつけが原因じゃないんだよ。」幼児期に我が子が順調に発達しないことに悩む親御さんは、この一言で、どんなに気持ちが楽になることでしょう。「発達障がいについて、もっと知ってみんなで支え合いましょう。」お子さんの発達障がいに気づき、私をもっと頑張らなければと自分1人で抱え込んでしまわないように、みんなで支え合える地域になるといいですね。

表紙をめくって、見開きの左のページをご覧ください。「こんなことで困っています」の代表的な例が書かれています。日常生活でじっとしてられない。暗い場所や音が苦手。急な予定変更ができない。片付けが苦手。友達関係ですぐ叩いてしまう。一緒に遊ぶことができない。基本的なルールが守れない。相手を傷つけることを言う。本人には悪気はなく、むしろ一生懸命やっているのに、日常生活や友達関係で困っている子がいます。そのなかには、発達障がいの特性を抱えている場合があります。

ページの下の方に進みます。「どんな思いをしているの？」上の絵のような状況があると、子どもは、わがまま、やる気がないなど、困った子に見られ、親は周囲からしつけや育て方の問題と言われるなど、マイナスの評価を受けることが多くなり、どんどん自信がなくなっていく。絵を見てください。お母さんは子どもを、「どうして何回言ってもわからないの？」と叱っていますが、その後ろで、周りの人たちからは、「しつけが悪い、甘やかし、育て方の問題」と冷たい言葉を浴びせられています。子どもは、お母さんから叱られた上に、周りの人から、「わがまま、やる気がない、わざとでしょ？」と責められています。そういう子どもと保護者の思いが下の枠のなかにあります。また、これらの誤解が続くと、成長してから二次的障がいを引き起こす原因になることもあるようなので注意が必要です。二次障がいとは、子どもが抱えている困難さを周囲が理解して対応しきれていないために、本来抱えている困難さとは別の、二次的な情緒や行動の問題が出てしまうものを言います。

右のページの上に進みましょう。「発達障がいってなんだろう？発達障がいの原因は、まだわかっていませんが、生まれながらの脳機能の障がいと言われています。保護者の育て方や、本人の努力不足が原因で起こるものではありません。」ここに、厚生労働省発行の発達

障がいの理解のために、から引用された図がありますね。自閉症、アスペルガー症候群、注意欠陥多動性障がい、学習障がい、障がいの特性も様々です。そして、赤いダイヤモンドの3つの文も大切なことです。発達障がいの特徴を誰もが少しは持ち合わせているかもしれません。発達障がいの人と発達障がいでない人の境界はあいまいです。早い時期からの適切な支援と周囲の理解、生活環境の整備により、地域社会で過ごしやすくなります。では、「どんなふうに関わればいいのか？」この絵では、お母さんが優しい笑顔で子どもを褒めています。褒められた子どももとても嬉しそうです。周りの方たちからも、優しい言葉、温かい応援の言葉をかけてもらっていますね。周りの大人が、その子の特性に早く気づき、適切な対応をしていくことで、「自分は認められている、大切にされている」と感じながら、安心して育っていただけます。関わり方のポイントです。自分のよいところに気づかせ、伸ばしましょう。困ったときに助けを求める力を育てましょう。できたという体験をたくさん積み重ね、自信を持たせましょう。周囲の方は、子どもの1番の理解者である保護者の気持ちに寄り添い、サポートしましょう。親の気持ちが楽になると、子どもに接するときの気持ちが変わります。前向きな気持ちで子育てできると、子どもの成長は豊かになり自立につながります。

最後のページになります。こちらは相談窓口を紹介しています。そして、家族の声も載っていますね。困っている子がいるとしたら、その子には、いろいろな心配や悩みを抱えた家族がいることに思いを寄せていただき、応援していただけたらと思います。

## 5. 弟からお兄ちゃんへ

次は、障がいのある弟がいるお兄ちゃんを書いた作文を聞いていただきます。

僕には3歳年下の弟がいます。弟の名前はコウタといいます。コウタは自閉症です。言葉がわからないし、話もできません。遊んでほしいと言えなくて、僕のことをつねったり、叩いたりします。今は幼稚園に通っていますが、来年は特別支援学校に入学します。コウタが3歳のとき、回転寿司に行きました。コウタは昼寝から起きたばかりで泣いていました。周りの人に見られながら急いで食べたけど、隣の家族のお父さんに、障がいがあるなら来ると言われてしまいました。悲しくて悔しくて、お母さんは泣いてしまいました。僕はコウタも同じ人間なのにひどいなと思いました。

コウタが泣くとストレスが溜まります。コウタの泣き声を聞いていると殴りたくなります。でも僕は、コウタを殴ろうとしても殴れません。だって、僕の弟だからです。

コウタは決まった道しか通れません。いつもと違う道を通ると大泣きします。だから出かけるときは、お父さんとお母さんと僕で、道を相談します。コウタが泣かなくてすむように、いろいろなことを考えます。ご飯を食べに行っても、同じ席に座ります。だから、いつも座る席が空いていないときは、あきらめて帰ります。僕は、お店で食べたくてもがまんします。おじいちゃんの田舎に新幹線で行ったとき、コウタは機嫌



がよくて、1人で何かしゃべっていました。すると、前の席の人に、静かにしてくださいと言われました。お母さんが自閉症なんですと言うと、何も言わなくなりました。僕はわかってくれたのかなあと思いました。

僕の友達は、みんなコウタの障がいを知っています。公園や僕の家で遊ぶとき、かわいがってくれます。おいかげっこをしてくれると、コウタは嬉しそうな声を出して逃げていきます。何をしたらコウタが喜ぶか、僕に聞いてくれる友達もいます。お母さんのバレーボールの練習について行くときも、みんな、コウタに優しくしてくれます。同じクラスではないけれど、コウタに字を教えてくれる友達や、1人でどこかに行かないように見ていてくれる友達もいます。コウタが遊んでもらうと、僕は嬉しくなります。もっともっと、コウタのことを知ってもらって、みんなで遊べたらいいなあと思います。コウタのほかにも、障がいがある人はたくさんいます。地球に住んでいるみんなにわかってほしいです。そして、みんなが優しい心を持つ地球になってほしいと思います。コウタが大人になっても、安心して生きていけたらいいなあと思います。

## 6. さいごに

最初に脳の話をしました。障がいの不自由や不便は脳の働きや伝達と深い関係があること、いろいろな障がいがあるということを知っていただけたと思います。

手袋をしたり、目をつぶって障がい体験をしていただきました。手袋をしただけで、いつも簡単にできることができなくて不便を感じます。いらいらしたり、焦ったりしたと思います。私たちは手袋を外し、目を開ければ障がいのない自分に戻れますが、障がいのある人はそうはいきません。皆さんが障がいを持った方を見かけたり、出会ったりしたときに、「もし、自分だったら、どうしてほしいかな？」と想像してみると、その方の気持ちに寄り添えるのではないのでしょうか？

しーちゃんと匠くんの話を聞きました。同じ知的障がい、自閉症という障がいがあっても、それぞれ苦手な特性が違いました。障がいがある子が、それぞれの苦手をどんな工夫をして乗り越えてきたかも聞いていただきました。今日は、「障がいてなあに？」というテーマですが、障がいてなんでしょう。私は、苦手なことや不自由なことがあって、手助けが必要なことだと思います。しーちゃんは触覚が過敏です。触りたくない気持ちに気がついて、食べる工夫をしてあげると、好きなものが食べられます。音の感じ方が人と違う匠ちゃんにとって、イヤーマフはととても助かる道具です。それ以上に、ピストルの音が鳴るところを教えてくれたことは、大きな手助けです。何が不便なのか、何が苦手なのか、どうしたら一緒にできるかと工夫したり、考えてくれる思いやりの心は何よりの手助けです。苦手なこと、できないことがあっても頑張っていること。そして、好きなこと、得意なこともいっぱいありました。楽しんでいることを知っていただけたのでしょうか。しーちゃんの織物、匠ちゃんの演奏、とっても素敵でしたね。

作文はいかがでしたか。「障がいがあるなら来るな」と、もし自分が言われたらどうでしょう。心ない言葉に、障がいを持つ本人だけでなく、家族も悲しい思いをしています。でも、コウタくんや家族を知っている人は思いやりの気持ちを持って接していました。我が家にも重度の知的障がいの中学3年生の息子がいます。小学校の1年生のときから、地域の小学校、中学校と交流をしてきました。息子のことを知ってもらいたいと思ったからです。言葉が話せない息子と、いつも楽しくゲームをしたり、給食を食べたり、今では知ることから始まる理解を実感しています。そして、感謝しています。そんな思いから、私たち、ちえのわのメンバーも、今日のような出前授業を実施してきました。市内の小中学校、高校の児童、生徒、保護者など、たくさんの方にこの授業を聞いていただいています。障がいのある子どもを育てている日常を話しながら、少しでも理解が深まればと願っています。そして、障がいを持った人に会ったときに、必要な手助けや見守りをしていただけると嬉しいです。

今日は教育に携わる先生方もたくさん参加されていると聞きました。障がいを持つ我が子の子育ては、障がいの受け入れにも時間がかかり、いつも不安でいっぱいです。この子のために、今、どうしたらいいのか、うまくいかないことにいらだったり、悲しくなったり、私も毎日がその繰り返しです。そんなときに、そっと寄り添って、一緒に考えてくれる先生がいたら、どんなに心強いでしょう。私もそんな先生方に出会い、たくさんたくさん、勇気と希望をもらってきました。そして、少しずつですが、前に進んできました。子どもの成長を考えた指導とともに、家族にも寄り添っていただけたらと思います。今日は長い時間、私たちの話を聞いてくださり、本当にありがとうございました。(拍手)

## 司会

ちえのわのみなさん、ありがとうございました。具体的でわかりやすく、親御さんたちの、愛とか勇気とか希望とか知恵、そういうものがすべて誠実に詰まっているようなお話だったなど、改めて胸を熱くしながら、伺っていました。そういうものが、子どもたちのその子らしさを育てていくんだなって改めて思いました。私たち、教育に携わる者も、自分が誠実にいたろうかと、自分自身を振り返るような、そんな内容だったと思います。質問をお受けしたいと思います。質問がおありの方、いらっしゃいますでしょうか。

## 質問

今日はありがとうございました。私の子どもも発達障がい、今、5年生で、ちっちゃいころから大変で、甥っ子も発達障がい、黄色いイヤーマフをして、学校に行っています。

山手線を暗記したり、今は漢字が好きなので、中国語を独学でやってみたり、ナンバープレートを一生懸命覚えていて、パーキングで轆かれそうになったりして、大変なんですけれど、かわいいし、目線のユニークさ、私もすごく好きで、一緒に発見しながら、親として育ててもらっている気がします。

今は学区外の支援学級まで車で送り迎えをしています。5年生、6年生になったら、自主でバスの通学をしたらどうかと言われて、その仕方に悩んでいます。目を離すと突発的に走って行ってしまいます。さきほど、お話を聞いていたら、付き添いで行かれてるそうなんですけど、何か気をつけることや、アドバイスがあれば、妹に伝えたいなと思いました。

#### ちえのわ 吉永さん

自主通学については、いろいろなエピソードがあります。私の場合、お姉ちゃんは1人でできないので送迎が必要ですが、匠くんは1人で通学できるというのが条件でスタートしました。中学進学の時も、交通機関が使える、バスで行けるというのを目標に学校を選びました。皆さんに無理だ、やめておいたほうがいいと言われてました。自閉なので、定番のことは絶対覚えるし、間違いをしないという変な確信がありました。1度、付き添いをして、学校はバスで通うと決まってからは、送迎は2年間、一切しませんでした。それぐらいの覚悟でやらないと、本人に入らないなというのがあって、頑張りました。

行政や色々な方に味方についてもらって、みんなで話し合っ、スケジュールを立てて実行しました。親や家族だけではできないので、いろいろな人に手伝ってもらって、助けてもらうことによって、子どもたちの世界も広がります。そうすることで、家族も幸せになれるし、子どもたちの力にもなると思います。1人で通えるようになるということは、将来、就職や福祉サービスを利用するときにも大切なことですし、自分で好きなところに行ける力がつくのは、とてもいいことだと思います。

失敗、いっぱいあるんです。バス会社さんや警察、通り道でトイレを借りそうなコンビニさん、いろんなどこに私も頭を下げて回りました。買い物に行きながら、あとをくつついて行ったり、ある程度、親の努力は欠かせないかなと思います。言うほど努力はしてないんですけど、そういう心構えで、私は自主通学を今も見守っているところです。

#### 司会

ありがとうございました。まだまだお話をお伺いしたいところですが、時間も過ぎてしまいました。ちえのわさん、これからもいろいろなところで、ご活躍いただけたと思いますので、またの機会を楽しみに、今日はこれで終わらせていただきます。ありがとうございました。

こんなにたくさん、いろいろ作品を持ってきてくださいました。お帰りがけに、ぜひ、ご覧ください。

## II. Tiny (障がいのある子どもと家族の支援) 実践報告

子ども生活学部 准教授 土 沢 薫

### 1. はじめに

障がいのある子どもと家族の支援を中心とする Tiny の活動は、本年で5年目を迎えた。Tiny では、障がいのある子どもとそのご家族を、楽しい遊びや温かな寄添いを通して支援している。



平成28年4月から「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(以下「障害者差別解消法」)が施行された。現在、障がい児者とその家族をとりまく社会の状況は変化の時を迎えている。栃木県においても「障害者差別解消推進条例」が策定、施行され、地域における障がい児者理解と支援の充実が期待される。そのような中で、障がいがあってもなくても、かけがえのない一人ひとりを大切にする丁寧な実践を積み重ねてきた Tiny の活動は、地域においてますます真価を発揮できると考える。

Tiny の活動の柱は二つある。一つは、障がいのある子どもやご家族への直接的な支援であり、二つ目の柱は、老若男女全ての方々を対象に障がいがあってもなくても共に楽しめる豊かな時間を体験し理解を深め合う、地域貢献および啓発的な活動である。

障がいのある子どもとご家族との直接的な関わりである「あそびの集い」では、乳幼児期から小学校低学年ぐらいまでの障がいのある子どもと、そのきょうだい児やご家族を、楽しい遊び活動を通して支援している。参加者のニーズを大切にし、保育者や音楽療法士を目指す学生の実践力の向上を見守りつつ、我々も共に育ち合いながら、地道に活動を重ねてきた。その成果が、活動内容の充実や参加学生の成長等の形で、徐々に表れてきた。

また、年に2回、春と秋の大型連休の時期に、広く一般の方々の参加も募って催し物を行っている。ゴールデンウィークには、障がいの有無を問わず年齢制限もなく大勢で楽しみ交流できる参加型の集い、秋のシルバーウィークには、「障がいがあってもなくてもみんなが楽しむ」チャリティー・コンサートを開催している。更に、大学祭においては、音楽療法ワークショップに参加協力し、音楽療法的な活動を通して共に楽しむ機会を提供している。これらスペシャルイベントの実施も定着し、これまで障がい児者と触れ合う機会のなかった方々に自然に理解を深めていただく場となっている。

以下に、平成27年4月から平成28年3月までの活動の概略を報告する。これまでの取り組みを振り返り、今後に向けての課題を検討すると共に、これからの活動展開の可能性と方向性を提示する。

## 2. 障がいのある子どもと家族のための「あそびの集い」

### (1) 活動の概要

T i n yの活動の中心に位置付けられるのが障がいのある子どもと家族のための「あそびの集い」である。月1回程度のペースで、継続的に開催している。障がいのある子どもとそのきょうだい児や親、その他子どもを取り巻く大人たちが、安心して自分らしくのびのびと過ごせる場であることを大切に、温かく楽しい雰囲気に配慮している。

当日の活動には、学生サークルT i n y隊のメンバーを中心に、ボランティアの学生たちも大勢参加し、毎回の活動を支えている。障がいのある子どもやそのきょうだい児や親と、遊びを通して関わりながら、保育者や音楽療法士になるための実践的な力を育む。直接に障がいのある子どもや親と関われる貴重な学びの場としても機能している。

### (2) 平成27年度の「あそびの集い」活動について

障がいのある子どもと家族のための「あそびの集い」について、平成27年度の実施状況を一覧表にまとめた。

| 回数<br>(通算) | 実施日           | 内容                                                 | 参加者                      |
|------------|---------------|----------------------------------------------------|--------------------------|
| 19回        | 4月19日<br>(日)  | 「春の音あそび♪ゆったりあそび♪♪」<br>ゆったりした環境で、春の音楽とからだ遊びを楽しむ     | 大人 15名<br>子ども17名<br>計32名 |
| 20回        | 5月31日<br>(日)  | 「音音おととと♪むずむずリズム！」<br>音を使って身体を動かす遊びや、季節感を感じる遊び      | 大人 13名<br>子ども17名<br>計30名 |
| 21回        | 7月12日<br>(日)  | 「絵の具でぴっちゃん・ぱったん・ペタペタポン！」<br>各自が野菜スタンプなどで絵の具作品に取り組む | 大人 12名<br>子ども11名<br>計23名 |
| 22回        | 8月9日<br>(日)   | 「音あそび♪リズムあそび♪♪」<br>季節を感じ、リズムに乗って身体を動かし演奏する         | 大人 11名<br>子ども12名<br>計23名 |
| 23回        | 10月11日<br>(日) | 「みんなで楽しくアートの時間！」<br>自由に絵を描き、それがかぼちゃに大変身！           | 大人 15名<br>子ども22名<br>計37名 |
| 24回        | 12月6日<br>(日)  | 「T i n yのクリスマスだよ♪」<br>音楽・ダンス・手遊び等クリスマスの雰囲気を味わう     | 大人 12名<br>子ども16名<br>計28名 |
| 25回        | 2月7日<br>(日)   | 「子どもだ！まつりだ！ひなまつり」<br>おひな様作りをし、おひな様と家族写真をパチリ！       | 大人 12名<br>子ども12名<br>計24名 |

表1. 平成27年度「あそびの集い」実施状況

以下では、T i n yの中心的な活動であるあそびの集いについて、平成27年度の活動の様子を具体的に報告する。

## 1) 第19回あそびの集い（平成27年4月19日（日）実施）

### ①活動内容

|                |                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>テ ー マ</p>   | <p>「春の音あそび♪ゆったりあそび♪♪」</p> <p>環境が大きく変化する新学期。日頃の緊張感から解放され、子どもたちは季節の音楽に合わせて、自分のペースでゆったりと遊ぶ。</p> <p>親は、守られた空間の中で安心して穏やかに子どもを見守り、共に遊びに興じる。</p>                                                                                                                                       |
| <p>主 な 活 動</p> | <p>音を感じる、音楽あそび、楽器演奏</p>                                                                                                                                                                                                                                                         |
| <p>当日の様子</p>   | <p>はじまりと終わりのあいさつは、音楽を使いつつも、より興味を持ちやすくなるよう、パペットを用いた。不注意傾向の子どもや多動傾向の子どもでも、パペットが自分に対して動きかけてくることに注目しやすく、働きかけに対して、自分なりの動きで応える様子が見られた。</p> <p>さまざまな障がいや発達のレベルのお子さんが参加しているが、視覚教材や歌を活用しながら、楽しく活動に引き込まれていった。</p> <p>楽器演奏では、本物の楽器に触れる喜びや自分の出す音色の響きの心地よさに浸り、とても満足し、集中して取り組んでいる様子が見られた。</p> |

### ②活動中の様子【写真1～5】

写真1～2：はじまりはパペットでご挨拶



写真3～4：自分で演奏するって楽しいね！



写真5：みんなで合奏♪



## 2) 第20回あそびの集い（平成27年5月31日（日）実施）

### ①活動内容

|                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>テーマ</p>                                       | <p>「音音おととと♪むずむずリズム！」<br/>         気候も良く、身体を動かしたくなる季節。音を使って無理なく身体を動かす遊びや、季節感を感じながら音楽の音色や歌を楽しむ。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <p>主な遊び</p>                                      | <p>楽器あそび、歌やダンス、パネルシアターなど</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| <p>準備の様子<br/>         および<br/>         当日の様子</p> | <p>当日は、「音」や「音楽」をさまざまな形で取り入れたあそびを行った。音楽を聴いて楽しむのはもちろんのこと、見て、触れて、身体全体で、様々な感覚を使って音を感じる子どもたちの様子が見られた。特に自分の得意な感覚を上手に使ったり、あそびの楽しさや場の雰囲気、援助者の働きかけによって、不得手な感覚も自然にを使って楽しんでいた。</p> <p>活動の始まりの挨拶は、本物のギターを掻き鳴らし、振動や音の響きを味わった。ひとりひとりが主役になりやり取りを行う。子どもそれぞれの個性的な反応に、他の参加者も注目しながらあいさつが進んだ。</p> <p>身体を使った遊びでは、リズムに合わせて、笑顔をはじけさせながら動く様子が見られた。</p> <p>歌の楽しさや視覚教材の面白さに惹きつけられて、思わず身体が動きだしてしまう子どもたちを笑顔で見守る親御さんたち。「Tinyでは安心して親も子どもも楽しめます」との感想が寄せられた。</p> |

②活動中の様子【写真6～11】

写真6～7：本物のギターは大きくて良く響くね



写真8：リズムに合わせて楽しく



写真9：楽しいメロディーに乗せられて



写真10：ほら見てみて～♪



写真11：音楽に合わせて動いてみよう♪





### 3) 第21回あそびの集い（平成27年7月12日（日）実施）

#### ①活動内容

|         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| テ ー マ   | 「絵の具でぴっちゃん・ぱったん・ペタペタポン！」<br>それぞれのイメージや好きな色絵の具で、野菜スタンプやローラーや手足を使ってダイナミックに絵を描く。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 主 な 遊 び | 絵の具を使ったお絵かきあそび・スタンプ遊び                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 当日の様子   | <p>活動の始まりは、いつものように音楽あそびでスタート。順番を待つのが苦手な子も、自分の番になると、学生の差し出すぬいぐるみの動きに反応しながら、とてもうれしそうな表情を見せていた。</p> <p>メイン活動の絵の具のお絵かきあそびは、野菜スタンプやローラー、自分の手足まで使って、ダイナミックに描き込んでいる様子が見られた。思いっきり自己表現した後は、満足感と自信に満ちた穏やかな表情になり、自由遊びで他児と自然に遊び出す姿も見られた。</p> <p>後半は、いつも子ども中心の生活を送っていらっしゃるお母さんやお父さんに楽器演奏をしていただき、子どもたちが鑑賞した。いつも増して子どもたちは音楽に集中し、うれしそうに誇らし気に聞き入っていた。</p> <p>学生たちは、絵の具だらけになりながら子どもたちのお絵かきをサポートしつつ、絵の具を溶かし大量に使う雑巾や布巾を準備しドライヤーで絵の具を乾燥させるなど、陰でも活動を支えた。</p> <p>「家でできない絵の具のあそびを思いっきりさせることができた」「作品は夏休みの課題提出に利用できそう！」など喜びの感想が寄せられた。</p> |

#### ②活動中の様子【写真12～17】

写真12～13：どんなふうに音を出そうかな…



写真14～15：自己表現の世界に没頭



写真16～17：絵の具の感触を感じながら



#### 4) 第22回あそびの集い（平成27年8月9日（日）実施）

##### ①活動内容

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| テーマ   | 「音遊び♪リズム遊び♪♪」<br>遊びを通して季節を感じ、リズムに乗ってテンポよく身体を動かす。                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 主な遊び  | 楽器あそび、歌や身体活動、パネルシアターなど                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 当日の様子 | 一人ひとりが楽器に触れながら挨拶し、集中する時間をもった後、音楽を有効に利用しながら、親子のスキンシップや触れ合い遊びを行い、嬉しい気持ちを味わいながら安心して身体を動かした。<br>その後は、夏休み半ばで退屈している子どもたちのために、様々な素材を利用する遊びを行った。青いハナガミをちぎって飛ばし、ビニール袋に集めて膨らませ、泡や波の飛沫に見立てて遊んだ。ブルーシートの動きやビニールの質感を利用して、波乗りや水中をイメージしながら、思う存分身体を動かして遊んだ。<br>その後は、部屋いっぱいに広がり綱を使った遊びをしたり、最後はしっかりと音楽の生演奏を楽しんだりした。 |

②活動中の様子【写真18～24】

写真18～19：見て、触れて、聞いて、感じる…



写真20～21：全身を使って触れ合い遊び



写真22～24：魚の気持ち？サーファー気分！？ 波に乗って大はしゃぎ



### 3. 障がいがあってもなくてもみんなで楽しむスペシャルイベント

#### (1) ゴールデンウィーク・スペシャルイベント「マジックと音楽と絵本のコンサート」

春の大型連休の時期に合わせて、障がいがあってもなくても赤ちゃんから年配の方まで、どなたでも安心して参加できるイベントを実施している。平成27年5月3日（日）には、ミュージシャン&マジシャンである大友剛さんをお招きし、そのパフォーマンスを98名の参加者の皆様と一緒に楽しんだ。【写真25～28】

子どもたちや親子連れ、現場の保育者からも人気の高い大友さんのパフォーマンスは魅力的で、年代や立場を問わず惹きつけられ、会場の一体感が感じられた。参加者からのリクエストに応えるコーナーでは、様々な年代の方々からの声に応じて、アニソンから懐メロまでをこなす大友さんのレパートリーの広さと会話の柔軟さ、優しい心遣い。障がいがあってもなくても、人々を感動させ、笑顔を引き出すものの本質は同じということを実感させていただいた。豊かで楽しい時間を共に過ごすことで、障がいのある方々への理解や親しみの輪が、自然な形で広がっていった。

写真25～26：大友さんの親しみやすいマジックショー



写真27～28：ピアノ&鍵盤ハーモニカを同時に弾きこなすスゴ技に皆釘づけ



#### (2) 「障がいがあってもなくてもみんなが楽しむチャリティー・コンサート」

平成27年9月20日（日）には、第3回のT i n yチャリティー・コンサートを開催した。

このコンサートは、国内外で活躍する一流の演奏家が、T i n yの活動の趣旨を理解しご協力くださり、音楽ホールで本格的な演奏が披露される。今回の出演者は、オカリナとギターのアンサンブル“ねんど”の小山京子さん、吉塚光雄さん、齋藤浩さん皆さんだった。

大型連休最終日の日曜日だったこともあり、参加者は例年より少な目だったものの、150余名のご来場者をお迎えし、心温まる素晴らしいコンサートとなった。音楽好きの大人もじっと聴き入る素晴らしい音色と、子どもも楽しくなる趣向を凝らした演出もあり、最後の合唱では思わず立ち上がって夢中で歌い出す子どももいた。なお、毎年のコンサート収益金の全額を、重症心身障害児のレスパイトケアを行う認定NPO法人うりずんと宇都宮市社会福祉協会に寄付し、障がいのあるお子さんとご家族の支援に役立てていただいている。

このような素晴らしいコンサートを一人でも多くの方に共に楽しんでいただけるよう、今後は日程の組み方やイベントの宣伝方法などについて工夫が必要であり、来年度からの課題としたい。

来場者アンケートの一部を紹介する形で、当日の様子を報告する。

(アンケートから)

- ・この活動の場が、今年もここにあって本当に良かったと思います。これからも、続けてください。
- ・去年のコンサートにも参加させていただきました。1年前を振り返り子どもの成長を感じられるよい機会になりました。1年たって随分言葉が増え、彼女なりに成長。HPはいつも見えています。子どもも「行きたい」とよく言っているので、また是非参加させてください。
- ・毎回、とてもいい時間を過ごさせていただいています。心が温かくなりました。
- ・オカリナの音色がすてきでした。子どもの好きな音色です。ぜひ続けてくださいね！
- ・温かみある澄んだ音色の演奏が、とても心地良かった。語りも絶妙で楽しく聴かせていただきました。
- ・初めて子どもと一緒にコンサートとしての演奏を聴くことができました。良い機会をありがとうございました。もっと早く知っていれば良かったです(笑)。
- ・“ねんど”の方々のやわらかい雰囲気と演奏、とてもステキで、心が和みました。
- ・とてもやさしい気持ちにさせていただきました。あたたかい心のコンサート、ありがとうございました。とても素敵な時間になりました。
- ・子どもたちの声やおしゃべりも、コンサートのじゃまにならないのは不思議だな～と思いつつ聴き入っていました。それは主催者、演者、ゲスト、みんなが同じ気持ちだからなのかなと思いました。

平成27年度のチャリティー・コンサートの活動の様子を、写真【写真29～31】および図【図1】で紹介する。

写真29：オカリナとギターの素晴らしい音色



写真30：演奏後にロビーでの触れ合い



写真31：出演者とスタッフ



#### 4. まとめ

T i n yでは、中心的活動として、障がいのある子どもとご家族への遊びを通じた支援を着実に重ねてきた。この「あそびの集い」の活動は、小さいながらも地域に定着し障がい児とそのご家族を支え、共に成長し、ボランティア参加する学生の実践力向上にもつながっている。今後の課題としては、参加者を障がいの種別や軽重を問わず幅広く受け入れることによる、プログラムの工夫や柔軟な対応の必要性と、実践するスタッフらの力量の向上が挙げられる。このことは、参加者と共に育ち合うT i n yの理念と合致するものであり、毎回の出逢いを大切にしながら、楽しく豊かに成長し合える場として活動を継続発展させていきたい。加えて、最初のころから継続的に参加を続けるご家族、遠方から時々参加するご家族、障がいの重い子どもは

図1. チャリティー・コンサート案内



調子をみながらの参加となり、それぞれの事情や子どもの状態により各回の参加者の動向が直前までつかみにくい。常に、継続参加のご家族と初参加のご家族が交じり合う形での会の進行には、双方への配慮と援助が大切になる。

また、障がいがあってもなくてもみんなが楽しむイベントの年2回の実施も、地域の方の多数の参加を得て、回を重ねてきた。活動の方向性を見失わぬよう、今後より一層の進展を図っていくことが大切になる。日頃は障がいのある子どもたちと触れ合う機会の少ない方々にも、楽しい活動を共にしながら自然と、障がい児者の日々のごく普通の生き活きとした姿に触れていただく機会となれば幸いである。障がいがあってもなくても、今ここに精一杯生きる人間同士として、それぞれが気負うことなく楽しみつつ触れ合える時と場を分かち合い、体験的理解やつながり支え合う実践を地域に広げ、今後も着実に積み重ねていきたい。

いつも活動に参加して下さる多くの皆様方に感謝と御礼を申し上げますとともに、この活動を共に支えて下さる沢山のボランティアの方々に、心から感謝いたします。

## T i n y 活動スタッフ

宇都宮共和大学子ども生活学部

|       |       |
|-------|-------|
| 教授    | 中畝 治子 |
| 准教授   | 土沢 薫  |
| 准教授   | 石本 真紀 |
| 非常勤講師 | 長尾 恵子 |

宇都宮短期大学音楽科

|           |       |
|-----------|-------|
| 教授（H27年度） | 山本久美子 |
| 非常勤講師     | 大島美智代 |

☆サークルT i n y 隊のメンバー

学生&卒業生ボランティアの皆さん

### Ⅲ. 地域の幼稚園・保育所との交流を取り入れた保育者養成教育実践報告

子ども生活学部 教授 高 柳 恭 子

保育者の養成にあたっては、授業科目の進度に応じ、それぞれの時期にふさわしい実践的な活動を取り入れていくこと、また、その実践的な活動からいかに「保育者として課題」を把握することができるかが大きな課題となる。幼稚園・保育所との交流体験は教育実習・保育実習に向けて大きな一歩となる経験である。子どもと実際に触れ合いながら活動すること自体、価値ある、楽しい体験であるが、それに留まらず、子ども理解、環境構成、活動の展開、ふさわしい援助などの視点から「保育」についての学びを深めたいと願っている。

さらに、現場の先生と直接かかわり、先生方の子どもへの接し方を学べる絶好の機会でもある。先生方の表情や物腰、目配り等といった言葉では説明できない保育者の醸し出す雰囲気を感じ取ってもらいたいと思う。

本学では、年報に記載のとおり、子育て支援研究センターの取り組みとして様々な活動が計画されている。特に、今年度は大学・地域連携プロジェクト支援事業（栃木県）として「子どもと作る森・フェアリープロジェクト」が採択となり、子どもの森での学生の環境づくりが始まった。子ども、現場の保育者と発想を広げ、共に作り上げたいと期待しているところである。

そこで、今年度は、自然の豊かな秋の活動に子どもの森での活動を取り入れていくことにした。プロジェクトチームの学生と協働して交流活動を実施していこうと計画している。

本稿では、平成27年に実施した交流保育の概略について報告したい。平成27年度の実施計画は以下の通りである。

- ・ 第1回交流保育（平成27年5月29日（金）10：30～13：00）  
「体操や伝承遊びで体を思いっきり動かして遊ぼう」
- ・ 第2回交流保育（平成27年11月27日（金）10：30～13：00）  
「『子どもの森』で遊ぼう」
- ・ 第3回交流保育（平成28年1月29日（金）10：30～13：00）  
「いろいろな遊びを楽しもう」



# Ⅲ－１．第１回交流活動 「体操や伝承遊びで体を思いっきり動かして遊ぼう」

子ども生活学部 准教授 月 橋 春 美

## 1. 活動の概要

- (1)日 時 平成27年5月29日（金） 2限目  
 (2)場 所 グラウンド ※雨天の場合は、アリーナ。  
 (3)参加者 みどり幼稚園園児 46名（年長17名、年中29名）  
 子ども生活学部2年生 36名 附属高校生活教養科3年生（観察）  
 (4)テーマ 体操や伝承遊びで体を思いっきり動かして遊ぼう  
 (5)目 的 学生：教材研究を進め、園児との触れ合いを通して子ども理解や発達理解を深める。  
 園児：学生との交流を通して、体を思いっきり動かして遊ぶ心地よさを味わう。  
 教員：園児と学生との交流の様子から、授業内容、方法、カリキュラム等を振り返る。  
 (6)担 当 遊び：月橋(保育内容 身体表現)、河田(幼児体育Ⅰ)、山口(リトミックⅡ)  
 指導計画：高柳（保育内容 健康）  
 振り返り・関わり：高柳（保育内容 健康）、土沢（発達心理学）  
 記録：市川

## (7)活動の流れ

| 時 間   | 子どもの活動                                 | 環境構成・配慮事項                                     | 学生の動き                              | 備 考 |
|-------|----------------------------------------|-----------------------------------------------|------------------------------------|-----|
| 10：00 |                                        |                                               | ・学生集合、出席確認                         |     |
| 10：30 | ①来校<br>・荷物を置く<br>・学生とペアになる<br>・排泄をすませる | ①不安を感じないように、朗らかな笑顔で迎える。                       | ①子どもを迎える<br>・子どもペアになる<br>・排泄の世話をする |     |
| 10：50 | ②今日の活動の流れを知る<br>・あいさつ                  | ②今日の活動に期待感を持つように、子どもの表情を感じながらうなずいたり、受け止めたりする。 | ②今日の活動の流れを伝える<br>学生担当：             |     |
| 11：00 | ③No.1体操をする<br>・学生とペアになる                | ③子どもと目を合わせる等笑顔で体操を楽しむ。                        | ③子どもとペアになる<br>学生担当：                | C D |
| 11：10 | ④縄を使った遊びをする                            | ④子どもの動きを感じつつ、無理な動きがないよう安全への配慮をする              | ④縄を使った遊びをする<br>学生担当：               | 縄   |

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                              |                                                   |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|
| 11:30 | <p>⑤伝承遊びを楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の遊びの紹介を聞く</li> <li>・グループに分かれる</li> </ul> <p>年中組<br/>4G（7人+学生6人）<br/>年長組<br/>2G（9人+学生6人）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ことしのボタン」、「でこぼこキュッピちゃん」、「絵かき歌」で遊ぶ</li> <li>・「はちべえさんとじゅうべえさん」をみんなで楽しむ</li> </ul> | <p>⑤子どもの意欲や主体性を大切に、一緒に遊ぶ、見守る、待つ等々なかかわり方を試みる。</p> <p>子どもの実態に応じて、それぞれの遊びの時間をグループごとに調整していく。</p> <p>伝承遊びの面白さが伝わるように、動作は大きく誇張するように動く。</p> | <p>⑤伝承遊びの紹介をする</p> <p>学生担当：<br/>ことしのボタン：A, E<br/>キュッピちゃん：D<br/>絵かき歌：C</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループで、子どもの興味関心応じて3つの伝承遊びを進める。</li> </ul> <p>学生担当：B, F</p> | <p>ホワイトボード<br/>チョーク<br/>デッキブラシ<br/>ホース<br/>CD</p> |
| 12:10 | <p>⑥終わりのあいさつをする</p> <p>⑦昼食</p> <p>⑧戸外散策</p>                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                      | <p>⑥終わりのあいさつをする</p> <p>学生担当：</p>                                                                                                                                             |                                                   |
| 13:00 | <p>⑨帰園</p>                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                      | <p>⑨子どもを見送る</p>                                                                                                                                                              |                                                   |

\* 附属高校生は園児と一緒に弁当を食べる（敷物持参）

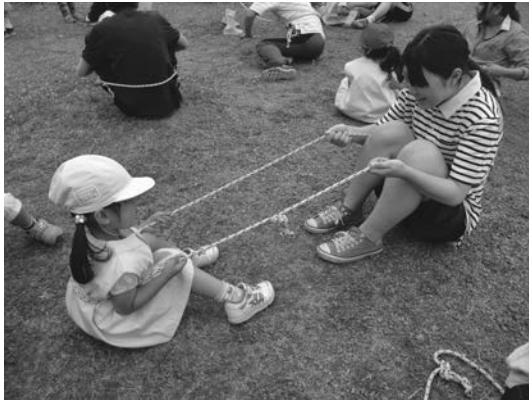
\* 学生グループ



写真① NO.1体操



写真② 縄を使った運動遊び



写真③ 縄を使った運動遊び



写真④ 縄を使った運動遊び



写真⑤ 伝承遊び（はちべいさんとじゅうべいさん）



写真⑥ 伝承遊び（絵描き歌）

## 2. 活動の過程（授業への位置づけ）

- 5/18 授業（身体表現）：NO.1体操の練習
- 5/20 授業（幼児体育Ⅰ）：縄を使った運動遊びの練習
- 5/21 授業（リトミックⅡ）：伝承遊びの練習
- 5/25 授業（身体表現）：リハーサル（NO.1体操、縄を使った運動遊び）
- 5/27 授業（幼児体育Ⅰ）：縄を使った運動遊びの練習
- 5/28 授業（リトミックⅡ）：リハーサル（伝承遊び）

## 3. 反省及び今後の課題

### <活動の内容について>

- ・学生が主体となって司会・進行できたことがよかった。
- ・今回は、子どもが大学敷地外へ活動範囲を拡大しないよう、学生が上手く誘導できた。
- ・最初からお互いの緊張感をほぐすために、自然の中で子どもの興味を引き出しつつ、身

体的な活動から展開していったことが良かった。

- ・1時間に活動がぎっしりと詰まっていた。活動数が多く少し忙しすぎるかとも思ったが、充実した時間となった。
- ・5月は、子どもは進級したばかりの時期。学生も2年生は初めて子どもとじっくり関わる機会である。そのため、このようにある程度やることや流れが決まった活動が適切ではないか。
- ・5月ではあるが、日によっては暑さが厳しくなるので水分補給や暑さ対策などの配慮が必要である。

#### <事前準備や片付けについて>

- ・各教員ともに準備がよくできていた。(事前準備:リトミックⅡ(山口)、幼児体育Ⅰ(河田)、保育内容身体表現(月橋)、振り返り:保育内容健康(高柳)、発達心理学(土沢))
- ・内容が多かったため、事前準備・リハーサルにおいては、教員間での連携が若干不十分であった。
- ・学生への事前準備の仕込みで、子どもとの関わりの留意点など、学生に意識化させることが大切である。

#### <学生の姿から教員の気付き>

- ・司会を担当した学生は、「緊張したが思っていたよりは上手くできて良かった。とても貴重な経験となった」とコメントしていた。学生たちは、始まる前は子どもたちの前に立って話しをすることにとっても不安を感じているが、実際にやってみると貴重な体験となるようである。今後は、多くの学生にこのような体験をさせたい。
- ・今回は、学生の人数よりも子どもの人数の方が多かったため、学生1人対子ども1～2人でペアを作り活動を行った。子ども2人を1人で担当した学生は、「2人の子どもの“やりたい”気持ちを十分に発揮させてあげられなかった」とコメントしていた。両方の子どもに楽しんでほしいという気持ちから、言葉がけや遊びを工夫しながら、子どもとコミュニケーションを図っている学生が多く見られた。

#### <事前準備と科目間の連携について>

- ・平成27年度の交流保育は、昨年同様年3回を予定しており、実施時期についても春、秋、冬となっている。第1回目として行われた今回は3科目間で準備を行ったが、年度初めということもあり、3科目間で連携を取ることは難しかった。内容的にも少し多かったように思われるため、来年度においては、実施時期的にも、科目間での連携が取れる内容で準備を行っていききたい。

## Ⅲ－２．第２回交流活動「『子どもの森』で遊ぼう」

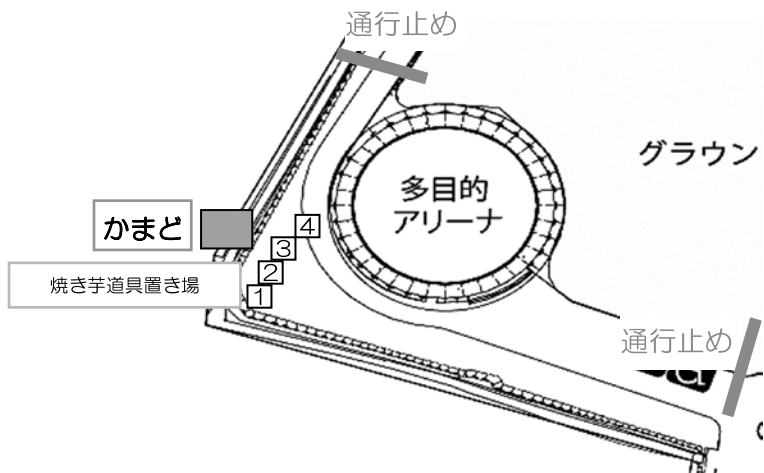
子ども生活学部 准教授 桂 木 奈 巳

### 1. 活動の概要

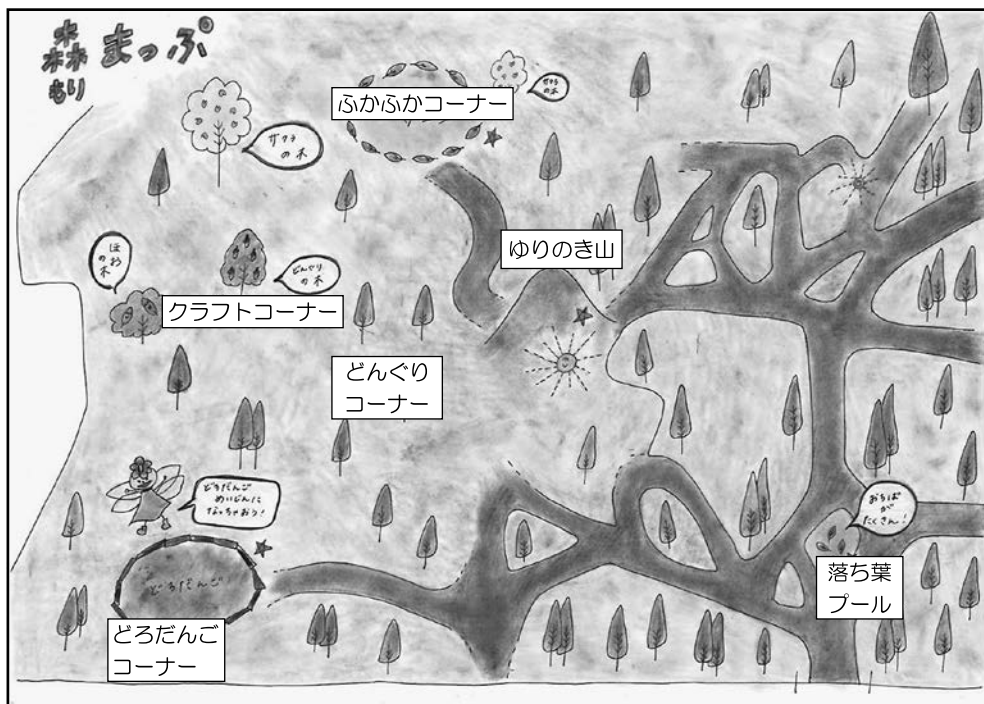
- (1)日 時 平成27年11月27日（金） 2限目
- (2)場 所 アリーナ、かまど、こどもの森
- (3)参加者 みどり幼稚園園児50名  
子ども生活学部2年生 33名、1年生48名、4年生 6名
- (4)テーマ 「子どもの森」で遊ぼう。秋の自然に親しもう
- (5)目 的 学生：教材研究を進め、園児との触れ合いを通して子ども理解や発達理解を深める。  
園児：学生との交流を通して、自然遊びや焼き芋を楽しむ。  
教員：園児と学生との交流の様子から、授業内容、方法、カリキュラム等を振り返る。
- (6)準 備 焼き芋：炭、薪、いも、アルミ、トング、ブロック類、軍手、水（消火用）など  
自然遊び：看板類、ブルーシート、クラフト材料など  
※子ども達は、園で「探検バッグ」を作成し、持参。  
※芋は、園で処理（カットしホイルでくるむ）したものを持参。
- (7)担 当 森で遊ぶ：桂木・市川（子どもと生活研究、フィールドワークⅠ）  
焼き芋：桂木（子どもと生活研究）、月橋、河田  
振り返り・関わり：高柳  
記録：蟹江、中畝  
その他：市川

(8)環境構成

集合・焼き芋



自然遊び（森）



(9)おおまかな活動の流れ

| 時間    | 子どもの活動                                                                                                                                                                                           | 学生の動き                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                       |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       |                                                                                                                                                                                                  | 2年生                                                                                                                                                                                                    | 1年生                                                                                                                   |
| 9:20  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○来校</li> <li>・荷物を置き、排泄（アリーナ）</li> <li>・挨拶をする</li> <li>10:50 ・今日の活動の流れを知る</li> <li>・焼き芋窯に集まる</li> <li>○焼き芋をする</li> <li>・芋を火に入れる。</li> <li>・森に行く</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生集合、出席確認</li> </ul>                                                                                                                                           |                                                                                                                       |
|       |                                                                                                                                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・窯の準備と森の安全確認を行う。</li> <li>・子どもを迎え、アリーナに誘導する</li> <li>・荷物を置き、排泄誘導</li> <li>・挨拶をする</li> <li>・今日の活動の流れを伝える。</li> <li>・子どもとグループになる。</li> <li>・焼き芋の窯に誘導する</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・森で自分の持ち場のセッティングと周囲の安全確認を行う。</li> <li>・そのまま森で待機する。</li> </ul>                  |
|       |                                                                                                                                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に留意しつつ、火を感じられるよう働きかける。</li> <li>・森に誘導する。車に注意する。</li> <li>・子どもに森で出来る遊びなどを紹介する。</li> </ul>                                                                     |                                                                                                                       |
| 11:20 |                                                                                                                                                                                                  | ○森で遊ぶ                                                                                                                                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・森内の各コーナーで遊ぶ。</li> <li>・遊ぶコーナーはセットしてあるが、子どもが別のものに興味を示した場合は、それを尊重する。</li> </ul> |
| 11:50 | ・やきいもを取りに行く                                                                                                                                                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・窯に子どもを誘導する。</li> <li>・芋を持ってアリーナに帰る。</li> </ul>                                                                                                                 |                                                                                                                       |
| 12:00 | ○焼き芋を食べる<br><br>(給食)                                                                                                                                                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・芋を受け取る。火傷に注意する。</li> <li>・芋を割り、中身の色やホクホク感をみせる。</li> <li>・芋の色やホクホク感、においなどを楽しみながらいただく。</li> <li>・おわかれをする（学生は3限目授業）</li> </ul>                                    |                                                                                                                       |
| 13:00 | ○帰園                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                       |

## 2. 活動の過程（授業への位置づけ）

|               |           |      |                    |
|---------------|-----------|------|--------------------|
| フィールドワーク I    | 10/9 (金)  | 1・2限 | 刈ったササの除去           |
| 1年生 (桂木・市川)   | 10/23 (金) | 1・2限 | 泥だんご場作り            |
|               | 10/31 (金) | 1・2限 | 泥だんご場までの道の整備       |
|               | 11/25 (水) | 1・2限 | 森の整備、最終点検(クラス別で実施) |
| 保育内容総論 (市川)   | 11/18 (金) | 1・2限 | 泥団子づくり             |
| 1年生           |           |      |                    |
| 子どもと生活研究 (桂木) | 11/2 (月)  | 1限   | 活動の流れの周知           |
| 2年生           | 11/9 (月)  | 1限   | 泥だんご場に土搬入、焼き芋準備    |
|               | 11/17 (火) | 4・5限 | 焼き芋練習、かまど周囲の危険確認   |
|               | 11/24 (火) | 4限   | 森の整備、遊び場作り         |

## 3. 取り組みの様子



写真 落ち葉プールで遊ぶ



写真 ゆりのき山で虫さがし



写真 どんぐりひろい



写真 ふかふかコーナーで穴を掘る





写真 葉っぱのお面づくり



写真 大きな葉っぱ！

#### 4. 反省及び今後の課題

##### <活動の内容について>

- ・準備期間に雨天が多く、森の整備に費やす時間の確保も必要だったこともあり、学生が森に親しみ遊ぶ時間を十分に確保できなかった。
- ・「ゆりちゃん」や「へび」など、子どものイメージを引き出す仕掛けが効果的だったが、子どもとペアになった学生がそれを上手くいかせない姿もあった。
- ・クラフトコーナーが、自然とかかわって遊ぶことが難しい子どもや学生の逃げ場になっていた。クラフトコーナーの持ち方を再検討したい。
- ・参加学生と子どもの人数を調整するため、学生2名に対し、子ども3名のグループにしたが、学生1名に子ども2名の方が動きやすいと学生から意見があった。

##### <学生の姿から教員の気づき>

###### 2年生の姿から

- ・森で遊べない学生が多かった（自然物の面白さを発見できない、心が動かない）。授業時間内で自然にふれる体験を確保できると良かった。
- ・焼き芋では、学生もキャンプや授業など経験を重ねるとともに、自分たちで火の番をできるようになり、任せられるようになってきた。
- ・森の整備は短時間ではあったが、よく頑張った。

###### 1年生の姿から

- ・森での整備の際、その必要性を説明しても理解できない学生もいた。しかし、実際に自分たちで整備した場で遊ぶ子どもの姿を見て、最終的にはその意義を理解したようであった。
- ・整備の際は、動き方がわからない学生が目立った。

- ・泥だんご場では、1年生に遊びのモデルになって欲しかったが、そこまで至らなかった  
ので、場が盛り上がらなかったのが残念であった。

#### その他

- ・県プロジェクトに参加する4年生のリーダーシップに助けられた。
- ・1年生の整備の際、4年生に入ってもらったが、先輩の言うことはよく聞くようであった。  
上級生からみた下級生の課題も得る事ができ、今後の指導に役立てられる。上級生が下  
級生を指導する仕組みができると、学生が活動的になってよい。
- ・森（自然）で遊べる学生を育てなければならないと感じた。
- ・森でのさまざまな環境との出会いから引き出される子どものイメージや発見に気づき、  
寄り添いながらかかわることができる学生になって欲しい（2年生の秋だとまだ難しい  
かもしれない）。
- ・2年生と1年生が関わったが、連続する学年だと学生間の関係性、連携が難しい傾向が  
あった。
- ・園では、年中行事的な位置づけとなっているようである。期待されていることでもある  
ので、焼き芋は継続していきたい。

#### <事前準備と科目間の連携について>


- ・今回、森での遊びが実現できたのは、9月より県プロジェクトに関わる学生（4年生6名、  
2年生3名）による整備や仕掛け作りがあったからであり、授業時間内で全てを行うの  
は不可能であった。
- ・交流の十分な準備には、ある程度の時数が必要であるため、複数の授業の連携が不可欠  
であると実感した。
- ・次年度は、他の授業との連携によって学生が森に親しんだり、子どもとのかかわりを考  
える時間を確保したい。

# Ⅲ-3. 第3回交流活動 「いろいろな遊びを楽しもう」

子ども生活学部 専任講師 市川 舞

## 1. 活動の概要

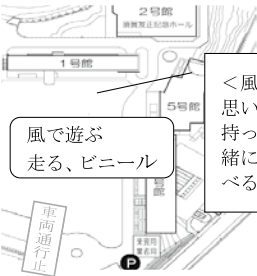
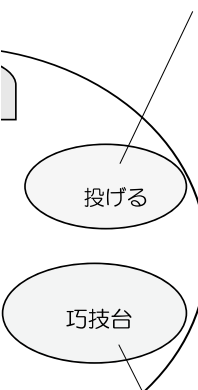
平成27年度 みどりこども園・宇都宮共和大学 第3回交流保育 指導案

| 日 時    | 2016年1月29日(金) 2限目                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 対 象    | みどりこども園62名(年長17名、年少45名)                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 保育のねらい | <p>学生と一緒に、思い切り体を動かして遊ぶことを楽しむ<br/>見立て、なりきり、つもりなどイメージをわかせながら遊ぶことを楽しむ。</p>                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 時間     | 子どもの活動                                                                                                                                                                                                               | 環境構成                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 9:10   |                                                                                                                                                                                                                      | <戸 外>                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 10:40  | <p>○来校<br/>・荷物を置く(アリーナ)<br/>・グラウンドで遊ぶ<br/>雨天中止→アリーナ内で体操</p>                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                   |
| 11:00  | <p>○冬の遊びを楽しむ<br/>・アリーナに集合し、挨拶をする<br/>・遊びの紹介を受け、今日の流れを知る<br/>・学生とペアになる<br/>・好きなコーナーで遊ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 なりきり+手品</li> <li>2 洗濯バサミ</li> <li>3 ジャンプ</li> <li>4 巧技台</li> <li>5 投げる</li> </ol> |                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 11:50  | <p>○集合・終わりのことば<br/>○荷物をもち、4F 保育実習室へ移動</p>                                                                                                                                                                            | <p>&lt;洗濯ばさみ&gt;・ファッションショー(+カラービニール)<br/>洗濯はさみをつなげたり身につけることで、イメージをわかせる会話をしながら子どものイメージを引出したり、認めたりして遊び方に戸惑う子どもも予想される。ペアの学生とゆったりかか</p>                                                                                                                                  |
| 12:10  | ○昼食(保育実習室)                                                                                                                                                                                                           | <p>&lt;手品&gt;不思議なおうち、カードなど<br/>お客さんになるだけでなく、手品に興味をもち、自分もやってみたくなる子どもがいる。やりたいけれども自信が持てない子どもの姿が予想されるので、学生と一緒に手品のしくみややり方を考えたり、試したりしながら、一緒に取り組んでいく。<br/>学生もお客さんとして参加し、楽しい雰囲気をつくる。</p>                                                                                     |
| 13:00  | ○帰園                                                                                                                                                                                                                  | <p>&lt;ジャンプ&gt; 台から飛び降りジャンプ<br/>ジャンプでタッチ<br/>フープでなりきりジャンプ<br/>何度も繰り返しジャンプする子どもがいる。思い切り体を動かす解放感や楽しさを共有する。いろいろな跳び方を認めながら、安全に配慮して遊べるようにする。また、なりきりジャンプでは、動物になりきってジャンプを楽しむことができるように、学生も一緒になりきりを楽しみながら会話をしたり、跳んでみたり雰囲気をつくっていく。ジャンプ台の上では、行列が混雑しすぎないように、並ぶ列を調整し、安全を確保する。</p> |

備考 ①保育実習室で昼食をとるときは暖房をつけておく。②宇都宮短期大学附属高校生活教養科2年生が観察

交流のねらい

学生（3年生）：教材研究および計画立案を進め、1年生に指導・助言することを通して、保育の理解を深める。  
 学生（1年生）：園児との触れ合いを通して、子どもの内面や発達を理解を深める。  
 教員：園児と学生との交流の様子から、授業内容、方法、カリキュラム等を振り返る。

| 予想される子どもの姿                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 学生の援助                                                                                                                                                                                                                                            | 学生の動き                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 備考                                                                                               |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  <p>風で遊ぶ<br/>走る、ビニール</p> <p>＜風で遊ぶ＞（雨天中止）<br/>思い切り走ったり、ビニール袋を手に持って走り風を感じて遊ぶ。学生も一緒に身体を動かして遊び、安心して遊べるよう、気持ちを合わせていく。</p> <p>・紙片+洗濯ばさみで見立て遊び、・ネット などが見立てたりなりきったりして遊ぶ姿が予想される。を支えていく。洗濯ばさみとのかかわりが少ないため、わりながら扱い方や遊び方を知らせていく。</p>                                                   | <p>＜投げる＞玉入れ、ころがしボーリング的を狙って何度も挑戦する子どもや、いろいろな投げ方を工夫する子どもがいる。子どもの取り組みを認め、投げ方のコツをつかめるようにかかわっていく。的に当たった喜びや外れた悔しさに共感し、上手くいかなくても、一緒に考えながらも一度チャレンジしようとする気持ちが出てくるようにかかわっていく。フープに投げ入れでは、袋に貯まったボールを出す様子を楽しむ子どももいる。子どもと一緒にカウントするなど期待感を盛り上げながら進められるようにする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・集合・出席確認、準備（遊びコーナーの設定）</li> <li>・子どもを迎え、アリーナに誘導する。</li> <li>・荷物を置き、排泄誘導</li> <li>・子どもとグラウンドで遊ぶ ※風で遊ぶ             <ul style="list-style-type: none"> <li>〔雨天時はアリーナ内で体操（ナンバーワン体操）〕</li> </ul> </li> <li>・アリーナに集まる<br/>司会（飯野、大森（慎）和田）</li> <li>・集合を呼びかけ、挨拶をする</li> <li>・グループごとにコーナーの紹介をする（3年生）             <ol style="list-style-type: none"> <li>1 なりきり+手品</li> <li>2 洗濯バサミ</li> <li>3 ジャンプ</li> <li>4 巧技台</li> <li>5 投げる</li> </ol> </li> <li>・子どもと1年生とペアになる。</li> <li>・1年 それぞれのコーナーで子どもと遊ぶ</li> <li>・3年 各コーナーで子どもの遊びを援助する             <ul style="list-style-type: none"> <li>★子どもの意欲・主体性を大切に、一緒に遊ぶ、見守る、待つなど様々な関わり方を試みる</li> <li>★発達過程に配慮し、子どもの実態に応じて 挑戦できるよう関わる</li> </ul> </li> <li>○集合・終わりのことば<br/>・移動を見守る<br/><br/>(学生は各自昼食)</li> <li>○学生はアリーナに再集合、片づけ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・身支度確認</li> <li>・ビニール袋</li> <li>・保育者も遊びに入っていたく</li> </ul> |
|  <p>投げる</p> <p>巧技台</p> <p>＜巧技台＞ くぐる・転がる（サーキットコース）<br/>一本橋やはしごを渡る、すべる、トンネルや蜘蛛の巣をくぐる、台車にまたがり綱を手繰り寄せて進むなど、さまざまな体の動きを楽しむ。子どもの発達に応じて、手をつないで行う、支えるなど援助しつつ、その子なりの挑戦ができるようにする。台車でゴールしたときには、一緒に喜び、頑張りを認めていく。混雑してきた際には、スタート位置や途中のポイントで学生とクイズをしたりするなど、一人一人が十分に活動できるように場を調整していく。</p> |                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                  |

③構内車両通行止め ④附属福祉授業（午後）

## 2. 活動の過程（授業への位置づけ）

(1)3年生「保育内容基礎演習Ⅰ」（科目担当：月橋、桂木、市川）

- 1／5（水） 1限 オリエンテーション（活動のねらい、グループ分け、教材の決定）
- 1／13（水） 1～2限 教材研究1 教材研究（教材の特性を理解する）
- 1／20（水） 1～2限 教材研究2 環境構成（教材の特性を活かし、子どもの発達に応じた環境構成を考える）指導計画の作成
- 1／27（水） 1限 指導計画の共有（3年生同志でつくった環境で遊んでみる、環境の再構成をする）
- 2限 リハーサル（1年生に活動を伝達する、役割分担の確認）
- 1／29（金） 1～2限 交流保育の実施、振り返り

(2)1年生「フィールドワークⅠ」（科目担当：桂木、市川）

- 1／15（金） 1限 オリエンテーション（活動のねらい）
- 1／22（金） 1～2限 いろいろな遊び体験1（凧、コマなど）
- 1／27（水） 1限 いろいろな遊び体験2（アイロンビーズのコマづくり→子どものお土産に）
- 2限 リハーサル（交流当日の展開を知る。指導計画を理解し、3年生がつくった環境で遊んでみるの特性やよさを理解し、子どもへの援助のポイントを考える。指導計画を理解する）
- 1／29（金） 1～2限 交流保育の実施、振り返り

## 3. 取り組みの様子

(1)投げるコーナー

ボーリングと玉入れのコーナーを設定した。年長児も年少児もそれぞれの発達に応じて楽しめるように、ボーリングでは、的の置き方や距離を調整し、子どもが何度も挑戦したくなる環境とした。また、玉入れでは、高さや大きさの違う的を設置し、子どもがやりたい場所を選んで玉入れに取り組めるようにした。的の袋にたまったボールを学生がひっくり返して出す場面も盛り上がるため、子どもと一緒にカウントするなど期待感が盛り上がるように雰囲気づくりを行った。

## (2)洗濯ばさみコーナー

洗濯ばさみをネットや紙片につけて見立てたり、カラービニールと共に身につけたりするなど、洗濯ばさみといろいろななかかわりができるよう環境構成した。洗濯ばさみを身につけたまま他のコーナーに遊びに行く子どもがいるなど、イメージをもってなりきって遊ぶ子どもの姿が見られた。また、洗濯ばさみを扱う経験がまだ少ない年少児も遊ぶうちに扱いに慣れ、自分のしたいやり方ができるようになっていったことも印象的だった。

## (3)手品コーナー

子どもと一緒にいることができるようにシンプルな仕掛けの手品を用意した（不思議なカード、空飛ぶティッシュ、人が消える不思議な家）。子どもの姿としては、特に年長児に、手品の仕掛けそのものに加えて、学生とのやり取りを楽しむ姿がみられた。手品を介して、気づきを言葉にして学生に伝えたり、考えが合っているか尋ねたりと、応答を楽しむ様子が見られた。

## (4)ジャンプコーナー

跳び箱からマットにジャンプ、上から吊り下がっている的にジャンプでタッチ、動物になりきってジャンプするコーナーの3つの場を設けた。跳び箱からのジャンプでは、心身を解放して思い切りジャンプすることや、マットに厚みがあるため着地時の感触が楽しいようで、何度も繰り返し並び、いろいろな跳び方に挑戦する子どもの姿が見られた。



#### (5)巧技台コーナー

巧技台を組み合わせ、遊びのコースをつくった。一本橋やはしご渡り、くもの巣くぐり、ダンボールのキャタピラ、ロープを手繰り寄せて台車を進めるコースなど、多様な体の動きを引き出せる環境とした。はじめは恐る恐る一本橋を渡っていた子どもたちも、何度も挑戦するうちに滑らかな動きでコースを回るようになった。途中、混雑した箇所では、学生がじゃんけんをするなど列を調整し、一人一人の子どもが十分に活動を楽しめるように配慮した。



### 4. 反省及び今後の課題

#### <活動の内容について>

##### ①投げる

- ・玉入れにボーリングなどオーソドックスな遊びが毎年人気のコーナーである。園にない環境に子どもは魅かれるようである。交流後に、年少児を中心に園に同様の環境を構成し、投げる動きを楽しんでいるとのことだった。

##### ②洗濯ばさみ

- ・学生が予想した以上に子どもが遊び込んでいた。顔を描いた紙皿など具体的なものよりも、紙片や新聞、ネットなど抽象的なものに子どものイメージが広がることに学生が気づいたことも大きな学びとなった。
- ・当初、遊びのコーナーがレクチャーコーナー内におさまっており、他のコーナーから見えづらかった。遊びの場を前に出すなど環境を再構成することによって子どもが興味をもって集まるようになった。環境構成によって子どもの活動への興味関心や盛り上がりには違いが生じることに気付くことができた。

##### ③手品

- ・子どもが興味をもって「やりたくなる手品」でなく、トランプなど「見せる手品」に学生が走ってしまった。そのため、子どもの興味を引き出すことが難しかった。
- ・手品の面白さが分かるのは年中児以降。科学的な手品や変化がはっきり分かる手品が今回の対象児には適切だったのではないかと感じた。

#### ④巧技台

- ・子どもの興味を強くひきつけ、多いに盛り上がった。リピーターが多く、子どもが途切れた際には、環境の再構成が必要になることに学生自ら気づいており、よい学びを得ることができた。
- ・行列ができた時は、途中でじゃんけんをして待つようにするなど調整していた。

#### ⑤ジャンプ

- ・単純な遊びだが、普段の生活の中では経験しない活動だったようで、気に入って何度も繰り返して遊ぶ子どもがいた。より大きく体を動かしたり、動きを調整できるような仕掛け（例えば着地点をつくる、ジャンプしてタッチする的をつくる）など環境にもう工夫できるとよい。

#### <学生の姿から教員の気づき>

- ・3年生は、効率性を求めるのではなく、楽しみながら、探究心をもって教材研究を行う姿勢がよかった。一つの教材にじっくり向き合うことができ、教材への理解を深めることができた。
- ・前年度の第2回交流（ダンボールの活動）の経験が効いていたのではないかと教材と向き合っ教材研究した結果が子どもの遊びの充実につながることを経験をもって理解することができたからこそ、探究的な教材研究の姿勢を持つことができたのではないかと。
- ・来校する園児が、年少児が主となることが分かり、当初考えていた教材や活動内容に変更を要したが、学生自ら教材と子どもの発達のマッチングを考え、修正しようとしていた。保育実習Ⅱを終え、それだけ子どもへの理解が深まった様子だった。
- ・子どもとの活動を展開するのに懸命になるあまり、子どものがんばりや楽しさへの共感的態度が欠けがちな学生の姿もあった。励ましの言葉をかけるだけでなく、保育者の声や顔の表情など「雰囲気づくり」も保育の環境として大切である。

#### <事前準備と科目間の連携について>

- ・学年間の連携による取り組みであったが、他学年がともに活動することにより、双方にほどよい緊張感が生まれた。
- ・今年の3年生は、活動への取り組みが意欲的だった。<3年生の手伝いをしながら子どもとかかわる段階（1年次冬）>→<決まった活動の展開の中でペアの子どもとじっくり関わる段階（2年次春）>→<1つの教材（ダンボール）とじっくり向き合っ環境をつくる段階（2年次秋）>という交流保育への参加や学びのステップがよかったのではないかと。
- ・3年生は1年生に教える、伝える、相談に乗るなど、上級生の立場を意識して意欲的に



取り組んでいた。1年生は、3年生から学ぼうとする姿勢や環境構成の手伝いなど率先して動こうとする姿が見られた。

- ・学生の傾向として、チームで協同して仕事をするのが苦手である。自分の考えを伝えたり、他者のアイデアを取り入れたり、助言を受け入れたり、互いを調整することに課題がある。保育者の適性にもかかわってくるので、グループで協力して活動する経験を重ねることが必要である。
- ・1年生はフィールドワークⅠの授業を活用し、子どもとのかかわりに焦点を当てて十分に準備、実践、考察ができた。
- ・1年生は、子どもへのプレゼントとしてアイロンビーズのコマをつくった。コマづくりを楽しみながら、これから行う交流保育への期待感を高めた。
- ・1年生は、子どもとの関わりに手ごたえを感じたようだった。次年度は保育内容の授業が多くなる。今回の経験を、保育内容を考察するきっかけとしていきたい。
- ・3年生の振り返りでは、教材や環境への気づき、子どもの経験内容への言及など、保育内容をとらえようとする姿勢もみられた。次年度の幼稚園本実習に向けて「保育内容基礎演習Ⅱ」や「保育指導法Ⅱ」の授業で教材研究や指導計画の立案に取り組む意欲を引き出していきたい。

(プロジェクトメンバー)

教授 高柳 恭子  
教授 駒場 利男  
准教授 月橋 春美  
講師 市川 舞

教授 日吉佳代子  
教授 中畝 治子  
准教授 土沢 薫

教授 河田 隆  
准教授 山口 晶子  
准教授 桂木 奈己

## IV. 親子遊びの会—子育てネットワークづくりプロジェクト— 実践報告

子ども生活学部 非常勤講師 長尾 恵子

子ども生活学部 非常勤講師 田所 順子

### 1. はじめに

少子化の急速な進行、核家族化、また地域社会の人間関係の希薄化等の理由により、育児に不安を持つ母親の増加や子育ての孤立化、子どもへの虐待（厚生労働白書 2003）などが大きな社会問題となっている。こうした状況の中、子育てを社会全体で支援することが求められている。

そして、地域において児童館や保育所、幼稚園や地域子育て支援センターなどの施設を中心とした子育て支援活動は活発に行われている。

また、近年、保育士養成校である4年制大学や短期大学の施設を拠点として活動をしている例も増えてきている。大学の専門性をいかすとともに、関与する学生の保育者養成としての学習効果が期待できる。

宇都宮共和大学子ども生活学部において、平成24年度（2012年）より地域の乳幼児を持つ家庭を対象とし、子どもたちの健やかな成長・発達を促進する機会を提供することを目的とする「子育てネットワークプロジェクト」から親子遊びの会が立ち上がった。対象者が主体的に参加できることを目的とし、親子遊び、円滑な親子関係、親子同士のつながりを促せるような援助のあり方について学生と教員が学ぶ場とした。立ち上げ当初は会の企画・担当に参加する保護者が行っていたが、地域性もあるのか会を重ねるうちに担当してくださる方が続かず、大学側の企画に変わっていった。しかし、その分ボランティアとして参加している学生が積極的にアイデアを出して企画・担当をすることもでき、貴重な経験の場となっていった。

### 2. 親子遊びの会2016年度の活動の実際

#### (1) 参加対象者

親子遊びの参加対象は、宇都宮市及びその周辺に在住する乳幼児とその保護者である。昨年度からの参加者は連絡先（メールアドレス）を登録しているため、メールにて参加を呼びかけた。新規者は参加者等の口コミ等で参加している。

#### (2) スタッフ（学生ボランティアと教員）

学生は子ども生活学部1年生のボランティア

参加教員は、地域の幼稚園・保育所の親子活動や指導者研修の講師として依頼されるこ

とが多い教員、子育て支援活動の経験、幼稚園教諭、保育士などの現場経験の長い教員がメンバーとなっている。

### (3) 実施場所

宇都宮共和大学5号館4階「保育実習室」で行う。第2回と第3回は、グラウンドを使用した。

### (4) 実施期間

2015年5月～2016年2月（計5回）、開催時間は全て10時～12時で、9時30分から開場した。また、今年度より年間計画「季節の遊び・行事を取り入れる」として、企画した。実施スケジュールは以下である。

表1. 子育てネットワークづくりプロジェクト（2015. 5～2016. 2）

| 回<br>(通算)    | 開催日               | 活動内容                             | 参加者          | 学生ボランティア | 教員 |
|--------------|-------------------|----------------------------------|--------------|----------|----|
| 第1回<br>(13回) | 2015年<br>5月16日(土) | 講義:「食育」(保護者)<br>工作:野菜スタンプ・鯉のぼり作り | 60名<br>(22組) | 26名      | 5名 |
| 第2回<br>(14回) | 2015年<br>7月4日(土)  | シャボン玉で遊ぼう                        | 57名<br>(20組) | 12名      | 4名 |
| 第3回<br>(15回) | 2015年<br>9月19日(土) | ミニ運動会<br>工作:旗・応援グッズ              | 57名<br>(21組) | 9名       | 5名 |
| 第4回<br>(16回) | 2015年<br>12月5日(土) | 音楽劇「おかしなサンタクロース」<br>工作:クリスマスリース  | 44名<br>(17組) | 12名      | 2名 |
| 第5回<br>(17回) | 2016年<br>2月13日(土) | ミニ発表会&ひな祭り<br>工作:お雛様             | 28名<br>(10組) | 5名       | 4名 |

### (5) 各回の共通の展開

開催前日の昼休み、保育実習室の環境構成（マット敷き、おもちゃ等）を行う。

当日は9時にスタッフは集合し打ち合わせをし、参加者を迎える準備をする。

「親子遊びの会」活動の流れ

- ①親子で名札をつけ、自由に遊んでもらう（約30分）
- ②10時頃、皆でおもちゃ等片付け
- ③はじめのあいさつ、活動の流れを説明
- ④教員・学生による手遊び、読み聞かせなど
- ⑤設定遊び（テーマに合わせた活動）
- ⑥保護者アンケート記入、子どもの自由遊び（並行）
- ⑦終わりのあいさつ、次回予告

－参加者が帰られた後－

⑧片付け（マットの片づけ、清掃）

⑨学生アンケート記入

⑩学生と教員による反省会

### 3. 第1回から5回の活動の展開

(1) 第1回（平成24年より通算13回） 2015年5月16日（土）9時30分～12時

講義「食育」（保護者） 野菜スタンプのこいのぼり（学生と子ども）

#### ①展開の様子

前日の昼休みに学生ボランティア、教員が保育実習室に集まり、環境設定を行う。

ボランティアをする1年生は「子どもと関わるのは初体験」という学生が多いため、当日の身だしなみ、言葉遣いからプリントを配布し指導する。

当日は9時保育実習室にスタッフ集合。今日の活動の流れと、ボランティアの仕事内容を説明する。

9時30分、食育の講師がいらっしゃり、今日の流れを簡単に説明。

順次親子が来場、思い思いにおもちゃで遊ぶ。なかなか子どもに関われない学生には教員が声掛けをし、子どもとの中継ぎをする。

講義中子どもは親と離れ、学生と一緒に野菜スタンプをする。出来上がった物をドライヤーで乾かす。その後は学生と自由遊び。

#### ②アンケート結果

アンケート結果から参加保護者のほとんどが30代（図.1）である。親子遊びの会が始まってから2年目ということもあり、リピーターが大半を占めていた。今回の活動はなかなか自宅ではできないので、楽しんでもらえたようだ。自由記載では「食育」について書かれているものが多かった。以下に示す。

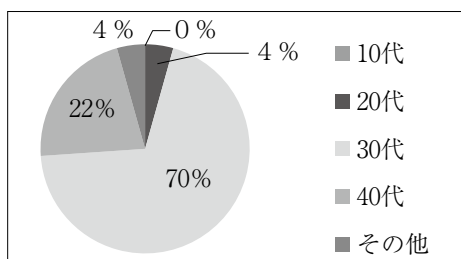


図1. 参加保護者の年齢の割合

食べさせ方がわかった／食事の大切さを改めて感じた／食事のバランスを考え直す機会となった／神経質にならずゆったり子育てしたい

#### ③反省

ボランティアは大学の授業の都合上、1年生が中心となってしまふ。乳幼児との触れ合いは初めてという学生がほとんどであるが、親子遊びの会のボランティアに参加しようとするだけあり、子どもたちと関わろうとする意欲は見ることが出来た。

しかし、経験の少ない学生たちには活動のイメージが付きにくいのだろうか、スタンプ

等の援助が思うように進まず時間がかかってしまった。事前準備として、前日の昼休み以外に学生指導の時間を設ける必要性を感じた。

#### ④アンケートの結果と考察

野菜スタンプは自宅であまり行わない遊びなのか、保護者からは好評であった。学生の感想を以下に示す。

会に参加して、子どもと関わるのが楽しいとわかった／子どもから遊びを誘ってもらった／新聞プールで子どもたちと同じように遊べた／体当たりで遊べた

学生からはまず子どもと関わったことへの満足感から、会へ参加したことへの楽しさがうかがえた。この時点では支援側の視点ではなく、子どもと関わった自分が中心となっている。

### (2) 第2回 2015年7月4日(土) 9時30分～12時

シャボン玉で遊ぼう

#### ①展開の様子

学生ボランティアを募集する段階で「シャボン玉遊び」の教材研究を提案する。開催前週の1時間を教材研究にあてた。

約10名の学生が参加し、シャボン玉液の作り方、飛ばし方(ストロー、モール、団扇の柄の部分、ハンガー、画用紙等)を工夫した。この体験により配慮事項や遊びの広がり、子どもたちへの関わり方などを話し合うことが出来た。前日、保育実習室の環境設定を行う。

写真. グラウンドにてシャボン玉遊び



当日は9時保育実習室にスタッフ集合。今日の活動の流れと、ボランティアの仕事内容を説明する。グラウンドにシャボン玉の各コーナー(スト

ロー、モール、団扇の柄の部分、ハンガー、画用紙)をお店屋さんという設定で作り、指示するのではなく子どもたちが主体的に遊べるよう援助した。

終了後の保護者のアンケートからは、会の企画を、今日のような家庭ではなかなかできないような遊びを期待していることがわかった。

#### ②反省

シャボン玉遊びの経験がない学生が予想外に多かった。事前に教材研究することにより、シャボン玉の特性や遊び方の工夫を知ることが出来た。また、当日子どもたちとの関わりから、自分たちが楽しむと子どもたちも楽しく遊べることを少し理解できた。

#### ③アンケート結果と考察

学生からは継続して参加することにより、子どもとの関わりがスムーズに行えたことが

うかがえた。また、1つの教材からシャボン玉遊びだけではなくジュース屋さんになるなど、様々な遊びに展開していくことが当日の子どもの様子を見て理解できたようだ。学生の感想を以下に示す。

子どもたちにはどんな物があるか教材研究するのが楽しくなり作りたくなった（シャボン玉の教材研究をしたから）／視点が変わり、子どもが見えるようになってきた。

前日の準備以外に教材研究の時間を設けることにより、学生の様子を知ることが出来た。予想以上に学生たちの経験が乏しく、ストローでシャボン玉をふくらませることが出来ない学生もいた。液の配分やその日の天気（湿度）により、シャボン玉の出来具合が違って来ることがわかったようだ。子どもの遊びは学びにつながることで少し理解できたようだ。

### (3) 第3回 2015年9月19日（土）9時30分～12時

#### ミニ運動会

##### ①展開の様子

今回も開催前週1時間を使い企画の打ち合わせを行う。子どもたちが運動会に主体的に参加できるよう企画する。前日、保育実習室の環境設定を行う。

当日は9時保育実習室にスタッフ集合。今日の活動の流れと係の分担を確認。男子学生はその後グラウンドの環境設定を行う。参加親子は来訪した順に旗・応援グッズを作る。子どもたちと種目を決め、グラウンドにて子どもたちの意見を取り入れながら主体的に参加できるよう援助する。

##### ②反省

学生たちは戸惑いながらも、子どもたちが「やりたい」という気持ちに答えられるようになってきた。開会式や閉会式を子どもたちに行ってもらい、その一人ひとりの発言に耳を傾け、認めることの大切さを学べたようだ。

##### ③アンケート結果と考察

保護者からは幅広い年齢で形にとらわれないミニ運動会であったが、楽しんでもらえたことがわかった。感想を以下に示す。

みんなが一緒に一体となって作りあげていく感じがすごく良かった／子どもたちが積極的にお手伝いをする姿を見て、息子にいろいろチャレンジさせてみようと思った

学生からは、練習のない運動会でも、子どもたちの日々の経験から気づいて積極的に参加し活動につながることを学べたようだ。そのためには子どもの「やりたい」という気持ちを引き出せるような声掛けが必要なことに気が始めた。学生の感想を以下に示す。

子どもたちと一緒に運動会の準備が出来て楽しかった／とにかくいっぱい声掛けした／子どもたちが製作物を作りやすいように声掛けしたら、どんどん参加してくれた／保育者はどうしたら子どもが楽しめるか理解し考えるスキルが必要なことがわかった

運動会という形（プログラム）の中で、子どもたちに「やらせる」のではなく「やりたい」という気持ちを引き出すことの大切さがわかるようになってきた。そして保育活動には意図や願いがあることが見え始めてきた。

#### (4) 第4回 2015年12月5日（土）9時30分～12時

みんなでクリスマス 音楽劇「おかしなサンタクロース」

##### ①展開の様子

脚本が出来上がってから時間を取り、参加出来る学生で劇の練習を行う。衣装（得意な学生が作成）、小物等も学生たちが準備する。開催前日保育実習室の環境整備を行う。学生たちはその後も劇の練習を自主的に行う。

当日、来訪した親子から順にリース作りをし、学生は進んで援助する。音楽劇は学生が主体となって行う。

##### ②反省

前回のミニ運動会の関わりを得て、学生たちは「子どもたちに自作の劇を見せたい」という意欲的な声が上がった。しかし脚本がなかなか進まず、教員の少しの提案から子どもたちと対話型の劇を作り上げた。

##### ③アンケート結果と考察

保護者からは学生の新鮮な劇遊びを楽しんでもらえたようだ。学生からは自主的に活動し、練習を行ったことへの満足感が抽出できた。また継続して参加している学生は、4月からの子どもの成長も感じていた。学生の感想を以下に示す。

自分が企画したことが実現できた／劇中のクイズでは予測出来ない反応や行動があった／BGMでピアノを弾いていたら子どもが横で踊ったり一緒に弾いたりした

子どもの反応を見ながら柔軟に対応する保育者の視点が育ち始めてきた。保育は子どもと一緒に楽しむことが大切であることがわかり始めた。

#### (5) 第5回 2016年2月13日（土）9時30分～12時

ミニ発表会 お雛さま作り

##### ①展開の様子

今回もどのように発表会を進めるか、工作ではどのようなお雛さま作りをするかを事前打ち合わせで話し合う。学生自ら教材研究をはじめ意見交換をすることで、発表会では前

回頑張った劇（音楽劇「おかしなサンタクロース」）の続編を行おうと考え、その中に授業等で学んだマジックやあやとりを組み込むことを考えた。工作においては、『もこもこ雛カップ』と『顔出しパネル』を考えた。しかし、前日の準備の段階で春休み中ということもあり学生ボランティア当初の予定より集まらず、劇は中止にすることにした。急遽学生個人で自分の得意なことを発表する形に変えた。10時から工作の準備・保育実習室の環境設定を行う。

当日、来訪した親子から順にお雛様を学生と一緒に作り、作り終わった子は『顔出しパネル』で遊んでいる。

## ②反省

前回の音楽劇で学生は自信を持ち、更に続きで劇を行いたいと考えていたが、春休み中ということもあり予定通り人数が集まらず、計画通り進まなかった。しかし、少ない人数の中で何が出来るかを教員と考えていくうちに、自分たちが得意とするものを子どもたちと一緒に発表していくことに変えることに気付けた。

## ③アンケート結果と考察

保護者からは、参加者が少なかったので工作をゆったりと行うことが出来、また他者の発表を見ることにより遊びの幅が広がったことがうかがえた。学生からは初めは子どもと関われる喜びを感じていたが、回を重ね参加することにより関わり方の違いから子どもの反応が変わることなどが理解できてきたようだ。以下に学生の感想を示す。

1 回目は子どもとの関わり方がわからなかったが、回を重ねるごとに子どもの様子を見ながら関われた／活動など自分が楽しいことが子どもも楽しんでくれることがわかった／関わっていくなかで言葉遣いや行動など間違いに気付けた／関わっていくなかで、援助するところとしないところを見極める力が必要なのがわかった／関わるなかで増える疑問を解決できる知識を増やしたい

## 4. まとめと課題

親子遊びの会に参加しどのような効果が得られたか、今年度は保護者・学生にアンケートを実施した結果、保護者たちは子どもの遊び場が狭まっているなかで、家庭ではなかなか体験出来ない活動を求めていることがわかった。また、大学を拠点とした活動として、専門性を求めていることも抽出できた。学生とのかかわりにおいては、保育技術や知識の経験が浅いことからいろいろな問題が発生しがちであるが、保育者の卵ということで温かく見てくださっていることと、普段接することが少ないお兄さんやお姉さんが遊んでくれるという期待から大学という特色を活かすことが出来ている。

学生からは初めはボランティアの一環として参加している様子がうかがえたが、回を重ねることにより、子どもとの関わり方、声掛けの方法、主体性を持つ援助方法を学んでき



ている。そして、会終了後学生と教員との反省会を行うことにより、学生としての学びや教員側の指導方法を再確認することが出来た。

この1年間の積み重ねてきた学びをもとにさらに実践的に学び、今後の授業や実習につながるようにしていきたい。

宇都宮共大学の親子遊びの会は2012年12月から始まり、4年目を迎えようとしている。発足当初は「子育てネットワークづくり」を基本としていたため参加保護者が主体となって会を企画し運営することとなっていたが、回を重ねることに大学側が主体となって企画をする会に変化していった。今年度からはさらに大学の専門性を活かしながら、活動内容の研究(教材研究)、学生指導に力を入れた。学生たちは毎回乳幼児のための活動内容の工夫、教材作りを積極的に行うことで、年間を通して大きな成果が見られた。子どもたちの活動内容や教材への対応についても今後考察を深める予定である。教材の工夫、創造については稿を改めて報告したい。

今後はさらに、時代や地域性を活かしながら、学生、保護者とともに宇都宮共和大学子育て支援研究センターの親子遊びの会を発展させ、定着させていきたい。

## 引用文献・参考文献

- (1) 加藤邦子他, 2013, 「親子遊びの会－子育てネットワークづくりプロジェクト－」, 宇都宮共和大学研究センター年報 第3号, pp183-190
- (2) 加藤邦子, 2014, 「平成25年度「子育てネットワークプロジェクト」」, 宇都宮共和大学研究センター年報 第4号, pp143-148
- (3) 星野美穂子・富永由佳, 2013, 「育児に対する感情と子育て支援に求めるニーズと関係－未就学児の母親を対象として－」, 聖徳大学幼児教育専門学校研究紀要, pp33-39
- (4) 厚生労働省, 2003, 「第2章 子どもを取り巻く現状・課題」, 『厚生労働省白書』, pp19-25

## 付記

宇都宮共和大学子育て支援研究センターの「親子遊びの会」の2016年度のプロジェクトメンバーは下記のとおりである。本稿はメンバー全員の協力により作成されたものである。また、本年度親子遊びの会に参加して下さった保護者の方々と子ども達、ボランティアとして参加した学生、調査にご協力くださいました皆様に厚く感謝いたします。

## 親子遊びの会プロジェクトメンバー（2016年度）

(代表) 教授 河田 隆、センター長・教授 牧野カツコ、准教授 杉本 太平  
子育て支援研究センター客員研究員(非常勤講師) 田所 順子、長尾 恵子  
子ども生活学部ボランティア学生

# V. 宇都宮共和大学子ども生活学部卒業研究

## 平成26年度卒業研究題目一覧

- ・スウェーデンの育児休業制度について
  - ・なぜ児童館が減ってきたのか？
  - ・日本の子どもたちの遊びの変化を理解し遊びの大切さを知ってもらう
  - ・児童相談所へ一時保護される子の家庭状況に対する考察
  - ・少年非行に対するイメージ
  - ・幼児期の発達
  - ・キャンプ活動の参加動機
  - ・子どもと音楽を楽しむために
  - ・子どものための打楽器アンサンブル
  - ・楽曲の様々な歌い方の比較
  - ・ダンスをすることの楽しさ
  - ・ままごと遊びから見えてくる子どもの育ち
  - ・女性が働きやすい環境とは
  - ・子どもを持つ家庭のレジャー行動について
  - ・高齢出産のリスクについての検討
  - ・女性の恋愛に対する理想と現実
  - ・母親支援から見た虐待防止における現状と課題
  - ・子どもの貧困に対する地域からの支援
  - ・保育者から見た意図的な自由保育についての良い点と課題
  - ・第一子乳児を育てる母親の育児不安
  - ・日本と諸外国の保育事情
  - ・絵から発見できる絵本製作
  - ・乳児院における職員の役割と専門性について
  - ・親子間に豊かな影響をもたらす絵本製作
  - ・子どもの好奇心を育む玩具とは
  - ・絵本の絵の持つ意味
  - ・遊び場が子どもの成長発達に及ぼす影響
  - ・食物アレルギーをもつ子どもへの配慮
  - ・離乳食と親子関係
  - ・子どもの“かわいらしさ”を考える
  - ・虐待の早期発見に向けて
  - ・障害のある人とのふれあい体験が個人に及ぼす影響
  - ・親子で親しむ自然と虫
  - ・幼児が自然に親しむための写真絵本作り
  - ・子どもと健康
  - ・子どもと手作り弁当
  - ・ソーシャルメディア
- |     |     |
|-----|-----|
| 高嶋  | 莉沙  |
| 奈良  | 毬瑳  |
| 櫻井  | 貴啓  |
| 弦巻  | 一平  |
| 本橋  | 亜美  |
| 秋山  | 覚   |
| 川面  | 遥   |
| 飯塚  | 美貴  |
| 日向野 | 紗綾  |
| 森   | 未咲  |
| 小室  | 詩織  |
| 増渕  | 晴香  |
| 田代  | 祥子  |
| 那須  | 智慧海 |
| 檜山  | 桃子  |
| 村上  | 里奈  |
| 手塚  | 優奈  |
| 山口  | 葉   |
| 植松  | 沙弥香 |
| 江田  | 未奈  |
| 坂本  | 康平  |
| 加藤  | 志帆  |
| 竹澤  | 美沙希 |
| 福田  | 千紘  |
| 岡野  | 直子  |
| 柴田  | 美幸  |
| 関谷  | 葉   |
| 金子  | 美星  |
| 石田  | 恵梨  |
| 石下  | 真由  |
| 小出  | 薫   |
| 矢部  | 志織  |
| 石川  | 英彰  |
| 大島  | 祥大  |
| 柴原  | 千奈都 |
| 名取  | 由妃  |
| 前橋  | 南月  |

# 全国保育士養成協議会関東ブロック協議会 第28回学生研究発表会発表研究 発表要旨

平成27年2月27日（金） 会場：聖徳大学

保育者から見た意図的な自由保育についての良い点と課題

植松沙弥香

(宇都宮共和大学 子ども生活学部 子ども生活学科 4年)

## 1.はじめに

筆者がこの課題を取り上げた理由は、実習先での出来事がきっかけであった。筆者が実習をしたある保育所は活動を一齐に行う保育形態だった。その実習中、Aくんがいつものように一人でモノレール遊びをしていた。その様子を数名の子どもが、仲間に入りたそうにして遠くから見ているのを見つけた。筆者は、モノレールの線路を広げて、様子を見ていた子どもたちも遊べるくらいの空間を作った。少し経つと子どもたちが「入れて!」と言って遊びに加わってきた。すると、普段他の子どもと遊ぶ姿を見ないAくんが友達とコミュニケーションを取りながら遊ぶ姿を見ることができた。その出来事が副園長の目に留まり、「自由保育を行ってみたいかも」という誘いがあったので指導計画を立案し提案したが、片付けが面倒と言う理由でその提案を行えなかった。実習中、子ども独自の発想で遊ぶ姿はあまり見られなかった。そこで「自由保育とは何か」ということに興味を持ち、独自に自由保育を定義し、研究のテーマにしたのである。

## 2.研究目的

自由で自発的な遊びを大切にしながら子どもが自分で考えて判断して行動し、そこに意図的な保育者の思いを込めて、一緒に活動を創っていく保育を「意図的な自由保育」と定義した。そして、「意図的な自由保育」の方法と良い点・課題を見つけることにした。

## 3.研究方法

遊びの場面における子どもへのかかわりを研究の焦点とする。

- (1)幼稚園における保育観察を3園で実施し、時間、環境、子どもの様子、保育者のかかわり、考察に分けて観察記録を分析する。
- (2)援助活動の背景にある、保育者の願いや意図を明らかにするため、保育者へのインタビューを実施し、保育者の意図を観察用紙に組み込む。

## 4.結果

- (1)観察記録の例として縦割り保育を行う幼稚園より一部抜粋して下記に掲載。  
この場面は朝の受け入れの時間帯である。

| 子どもの様子                                                                                                                                                             | 保育者のかかわり                                                                                                                                                 | 保育者の意図                                                                                                                                                                            |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・登園した4歳児と5歳児4人がカウンターの前に集まっている。</li> <li>・4歳児のAちゃんが食べ物の玩具を持ってきて「何する？」と友だちに聞く。</li> <li>・5歳児のBくんが「お寿司屋さんやりたい。」という。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>⑩大きい積み木を使ってカウンターのように作る。</li> <li>⑩子どもたちの様子を伺う。</li> <li>②⑥「じゃあ先生テーブル用意するね」と言ってカウンターのすぐ近くにテーブルと椅子を用意する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・雨が降っていたので、子どもたちが室内でごっこ遊びが自然に発生するように準備していた。</li> <li>・子どもたちからアイデアが出ないときは助言しようと思ったが、今回は5歳児が以前に経験しているお寿司屋さんごっこが挙がったのでそのアイデアを採用した。</li> </ul> |
| .....                                                                                                                                                              | .....                                                                                                                                                    | .....                                                                                                                                                                             |

## (2)分析

このように事実を抜き出した観察記録の結果に沿って考察を行うことで保育者の行動と態度を46種類見つけることができた。また、その保育者の行動と態度は、「a.自発性の原理、b.興味の原理、c.経験の原理、d.個性尊重の原理、e.社会化の原理、f.発達の原理、g.間接性の原理(環境を通しての保育)」の保育の方法としての原理の七つに分類できた。

| 分類        | 保育者の行動と態度の種類番号                                                                                            |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| a. 自発性の原理 | 1.認める⑥<br>2.一緒に遊ぶ⑦<br>3.提案する③<br>4.応援する⑳<br>5.受容する④⑤                                                      |
| b.興味の原理   | 1.興味を引き出す⑬<br>2.褒める⑮<br>3.意見を取り入れる⑱<br>4.環境を残す㉔<br>5.意欲を高める㉑<br>6.興味を持つ㉕                                  |
| c.経験の原理   | 1.一緒に遊ぶ②<br>2.モノを介したかかわり⑧<br>3.手本を示す㉓<br>4.生活を遊びにする㉘<br>5.環境設定の道具を渡す⑬<br>6.不安解消の声掛け㉘                      |
| d.個性尊重の原理 | 1.認める⑥<br>2.賛同する⑦<br>3.話を聞く⑫<br>4.頼む⑭<br>5.発想に感心したことを伝える㉑                                                 |
| e.社会化の原理  | 1.隠れた意図③<br>2.賛同する⑦<br>3.頼む⑭<br>4.注意する⑮<br>5.説明する⑰<br>6.予定を伝える㉑<br>7.約束する㉑<br>8.生活を遊びにする㉘<br>9.状況の説明をする④④ |
| f.発達の原理   | 1.指示した後の見守り①<br>2.尋ねる⑤<br>3.意図的に尋ねる⑪<br>4.話を聞く⑫<br>5.助言する㉑<br>6.遊びを手伝う㉑<br>7.発想に感心したことを伝える㉑<br>8.言葉を引き出す㉑ |

|           |                                                                                                                                                       |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| g. 間接性の原理 | 1.モノを介したかかわり⑧<br>2.安全配慮として見守る㉑<br>3.環境整備をする㉔<br>4.場の雰囲気を作る㉑<br>5.場の輪を広げる⑪<br>6.環境を残す㉔<br>7.モノの安全配慮をする⑮<br>8.環境を変える⑮<br>9.環境の基盤を作る④④<br>10.環境設定の道具を渡す⑬ |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 5.考察

保育者の行動と態度を分類した7項目を考察すると、保育者が常に子どもに育ってほしい願い、つまり保育者の「意図」があることが明らかになった。a.自発性の原理は「子どもの自発性を育てること」、b.興味の原理は「興味を持って活動意欲を高めること」、c.経験の原理は「子ども自身の力で成し遂げられる経験を培うこと」、d.個性尊重の原理は「子どもの個性が育つこと」、e.社会化の原理は「協調性や規律性など社会性が育つこと」、f.発達の原理では「子ども一人ひとりに応じた発達ができること」g.間接性の原理（環境を通しての保育）では「子どもが十分に遊びを発揮できること」が意図であった。

## 6.結論

まず、「意図的な自由保育」について改めて定義し、具体的にまとめてから「意図的な自由保育」の良い点をまとめると、①常に子ども中心に考えて保育をする、②子どもの主体性が育つ、③子ども一人ひとりに合わせた保育方法、④一人ひとりを伸ばしながら集団で育っていく、⑤3点が明らかになった。

そして「意図的な自由保育」を実行するときの課題は、ただ単に子どもの自由な行動に任せただけの保育になると悪い意味で適当な保育になってしまう可能性があることが明らかになった。つまり、保育者の隠れた意図を踏まえて（子どもの自発性や主体性を尊重し、きちんと子どもたちを理解して子どもを伸ばす）子ども中心の自由保育を行うことが課題となる。

〔第28回 学生研究発表会発表要旨集〕より許可を得て転載

# 全国保育士養成協議会関東ブロック協議会 第28回学生研究発表会発表研究 発表要旨

平成27年2月27日（金） 会場：聖徳大学

親子で自然に親しむための環境教育プログラムの試行

石川英彰・大島祥大

（宇都宮共和大学 子ども生活学部 子ども生活学科 4年）

## 1. はじめに

幼児期に自然とふれ合うことは、子どもの心身の発達に良い影響を与える上、豊かな感性を育んだり、命の大切さを学ぶ等、その効果は高いとされている<sup>1)</sup>。そのため、保育現場においても、自然遊びは積極的に取り入れられている。

さらに、子どもの頃の自然体験の有無が、青年以降の人間関係能力や共生感等に影響すると報告され、自然とのふれ合いの大切さが強調されているが、一方で、子どもの自然遊びは年々減少の傾向にある<sup>1)</sup>。

本学の周辺は豊かな自然に恵まれているが、この地元の子どもたちでも真の意味で自然にふれているとはいえない。そこで、筆者らは、自然遊びが出来る場を提供し、その中で自然の魅力や大切さを学べる内容のプログラムを考案し実践することを試みた。

## 2. アンケート調査の実施

### (1) 調査の概要

自然の中で活動をする際には、「虫」の存在が障害となり、自然の良さを見いだせない場合がある。そこで、活動内容の参考にする目的で、虫に対する嗜好に関する調査を行った。質問紙法によるアンケート調査で、内容は虫が「好き」から「嫌い」までの5段階評価、およびその回答理由と、「好き」あるいは「嫌い」な種等である。調査対象は宇都宮共和大学子ども生活学部学生計99名及び子育て中の保護者83名である。

### (2) 結果

アンケートの結果より、学生全体の「嫌い」「やや嫌い」の総計は54.6%と多く、「好き」「やや好き」の総計は19.2%であった。学生が「嫌い」「やや嫌い」と回答した理由を見ると、「気持ち悪い」が最も多く、次いで「怖い（恐い）」、「有毒」と続いた。反対に「好き」「やや好き」と回答した理由には「楽しい・面白い」「きれい・かっこいい」との内容が挙げられていたが、その数は少ない。

保護者の「嫌い」「やや嫌い」の総計は35.0%であり、「好き」「やや好き」の総計は27.7%であった。保

護者の「嫌い」とする回答理由は、学生とほぼ同じであったが、反対に「好き」「やや好き」と回答した理由には、「魅力的」、「楽しい」との意見が多かった。保護者と学生を比較すると、ひとつは保護者の方が生活経験を多く積んでいて、自分の子どもとの遊びを通して虫と関わる機会が多いことが推測され、本来は虫が苦手だったとしても、慣れや経験により、虫に対する抵抗が減少したものと思われる。他方、現在の大学生に比べ、保護者は幼少時に自然に親しんだ経験を多く持っているためと考えられる。

## 3. 「親子自然遊び」の実施

### (1) 自然遊びの会の設置

本研究を進めるにあたり、まずは実践の場を得るために、「自然遊びの会バーベナ」という親子で自然遊びを楽しむ活動をする会を設置した\*。親子を対象としたのは、保護者にも自然の素晴らしさを感じてもらえば、今後、継続的に子どもと共に自然にふれ合う機会がふえると確信するからである。

参加者は近隣に住む親子で、保育施設等に案内チラシを配布し、募集を行った。実施日とテーマ等の概要を下表に示す。実施場所は大学敷地内である。8月は野外で、10月と1月は野外と室内の両方で活動を行った。

表 実施の概要

| 回 | 実施日                | テーマと内容                                                        | 参加人数<br>(親子) |
|---|--------------------|---------------------------------------------------------------|--------------|
| 1 | 2014年8月31日<br>(土)  | 『親子で親しむ昆虫と自然』<br>ノーズ、虫の豆知識、虫探し、<br>生き物ピラミッド                   | 20名<br>2~12才 |
| 2 | 2014年10月25日<br>(土) | 『やっばり秋は自然遊び』<br>葉っぱのスタンドグラス、<br>虫の気持ちになってみよう、<br>焼き芋作り        | 24名<br>0~12才 |
| 3 | 2015年1月31日<br>(土)  | 『冬の自然を楽しもう』<br>自作絵本の読み聞かせ、食<br>う・食われる、ぼくはだれ？<br>親子探し、木の実のクラフト | 28名<br>2~12才 |

## (2) 活動プログラムと実践

### ① 野外での活動 ～虫に親しむ～

野外での活動では、主に「虫に親しむ」ことをねらいとして、いくつかのプログラムを考え、実践を行った。前述のアンケート結果にみられた、「好きな虫」を中心に、子ども達の興味関心を引き出せる活動を取り入れた。まず、『ノーズ』（ネイチャーゲーム）や『虫の豆知識』では、身近に生息する虫を取り上げた。続いて行った「虫探し」では、虫の模型を探索範囲の中に配置した。これは、前述のアンケートにおいて、「虫が嫌いな理由」に挙げられた、「気持ちの悪さ」「怖さ」を解消する目的である。虫模型はプラスチックで本物のように作られているが、見た目や触感等は、当然本物とは異なる。そのため、虫が苦手な参加者でも気軽に手に取りながら「虫模型探し」を楽しみ、次第に本物の虫に触れるようになることを意図した。

続いて、『生き物ピラミッド作り』を行った。これは、「どのような生き物にも自然界の中では役割がある」という考え方を基本に、子どもたちに「生き物のつながり」を伝える活動である。前回の活動で子どもたちが採集した生き物を生態系ピラミッドを描いた模造紙上に置き、身近な生き物同士のつながりについて視覚的に理解することをねらいとした。

これらの活動を通して、虫が苦手という子どもも、模型から次第に生きている虫に触れるという過程を経ることで、徐々に虫に慣れることができるとわかり、環境づくりの大切さが再認識された。

### ② 室内での活動 ～自然理解のための絵本製作～

周囲に自然とふれあえる環境がない場合や、天候の都合で野外での体験ができないことは多々ある。そこで、室内においても自然の大切さに触れるための活動を検討した。

通例では、室内において自然とふれ合う活動を行う場合には、木の実等の自然素材で製作を行うことが多い。しかし、自然の大切さや生き物のつながりについて伝えるには、まずは虫や植物の生き方の不思議や面白さを知ってもらい、より興味を持ってもらうことが効果的である。この点からいえば、豊富な情報が記載されている既製の写真絵本が最適であるが、「自然を大切にしよう」というメッセージ性が弱い上、内容が難しく、子ども向きではないと感じた。

そこで、「子どもたちにメッセージが伝わりやすく、楽しく読める写真絵本」の製作を試みた。

製作の準備として『虫の気持ちになってみよう』と

題し、虫模型を使用した4コマ写真物語を製作する活動を考案し、実践した。これは、子どもたちが虫や植物に対してどのような考え方や発想力を持っているかを知り、絵本の内容に反映するためである。

まず、用意した虫模型から好きなものを選んでもらい、親子でこの模型同士がどのような関わり方をするかを考え、台詞を書き出し、構図を決めてボラロイドカメラで撮影を行った。完成した物語は、筆者らが考えつけないような内容で、面白い作品ばかりであった。

これらの視点を踏まえ、子どもたちが感覚的にその世界に入り込みやすい物語形式を採用し、自作の人形を用いた絵本製作を試みた。主人公の「ぼく」が、森の中を探検する過程で自然の大切さを知るという内容である。

実際の活動の中でこの絵本を用いた読み聞かせを行ったところ、参加者に最後まで飽きる様子は見られなかった。その反応から、特に登場した人形に興味をひかれた様子が見られた。しかし、物語の長さや、表現方法、意図したメッセージが伝えられたか、という点では改善の余地があり、さらに内容の再検討を行っている段階である。

## 4. おわりに

これらの活動を体験した子どもたちは、みな楽しそうに取り組んでいたことが印象的であった。また、活動後に依頼したアンケートの内容から、保護者の大半が自然体験活動についての知識や経験がないということが分かり、このままではますます自然離れが進む懸念を抱いた。つまり、保護者に体験がなければ、子どもにその意義や楽しさは伝えられない。さらに、自然の中で活動することを思い浮かず、その楽しみ方もわからないだろう。

本活動の中で、幼虫と成虫の写真から『親子探し』をするゲームを行ったところ、特に保護者が強い興味を示したことから、子どもだけではなく、保護者も共に楽しめるようなプログラムを作り、実践することが大切だと感じた。そして、このような活動を続けることで、参加者の周囲の親子にも自然体験の重要性が拡散していくのではないかとと思われる。

※ 「親子自然遊び」は、宇都宮市の事業である「みやの環境創造提案・実践事業」の助成を受けて実施した。

1) 国立青少年教育振興機構「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」報告書、平成22年10月

(『第28回 学生研究発表会発表要旨集』より許可を得て転載)

## 平成27年度卒業研究題目一覧

- ・ 子どもの遊び体験と環境の関係性 岩崎 江莉
- ・ 「森のようちえん」の保育と保育環境の考察 田野邊 涼
- ・ 子どもの遊びと環境構成 佐藤 美佳
- ・ 絵本の読み聞かせと子どもの受け止め方 羽石安彩美
- ・ 目で見て楽しむ仕掛け絵本製作 戸田 実季
- ・ 仕掛け絵本作成 直井 美樹
- ・ 子どもの感性を育てるしかけ絵本について 和田 茉優
- ・ 制作による段ボールの有用性 石崎 裕也
- ・ 若者の車興味離れについて 堀江 龍輝
- ・ 幼児期のおやつの現状と親子のコミュニケーション 堀江 梨沙
- ・ 若ママの子育てについて 吉原 里恵
- ・ きょうだい関係の特徴について 和氣 佑佳
- ・ 若ママの育児に対する悩みや不安 難波 里江
- ・ 父親の育児への関わり方と子ども観 野尻奈津希
- ・ 親子関係からみた子どもの名前の由来について 小松 美香
- ・ 自然物を使ったおもちゃ作り 青柳 綾夏
- ・ 身近な自然に親しむ方法 齋藤 千華
- ・ 身近にいる危険生物への注意喚起 中村 航二
- ・ 子どもと楽しむ自然と食 能勢 美波
- ・ 人々が好むロック・ファッション 高梨 茜
- ・ 子どものトラブル場面の要因と保育者の援助 荒川 佳菜
- ・ 保育者の服装について 西谷瑛里加
- ・ 方言の使い分けについて 佐藤 由佳
- ・ パネルシアターを通じたより良い教材研究 瀧川 依里
- ・ 父親が家族にもたらす幸福感 伴 彩奈
- ・ 七五三の衣装制作 片庭 美咲
- ・ 室外大型遊具の色についての考察 沼生 晴可
- ・ 東京ディズニーリゾートにおける空間づくりの工夫についての研究 増山 由貴
- ・ 東京ディズニーリゾートにおけるリピート要因の研究 永山 沙紀
- ・ 子どもの運動能力低下について 赤羽 真治
- ・ お遊戯会の衣装 館野 舞
- ・ ダンスの楽しさを伝えるためには 田部井みく
- ・ 障がいのある子どもと父親の関係について 清野 咲希

- ・聴覚障がい児者とのコミュニケーションについて
- ・絵本表現の特性による子どもの反応の違いについて
- ・提示方法の違いによる子どもの教材への興味の示し方の差異
- ・日本の家庭における食事状況の現状と課題
- ・早期幼児教育の必要性について考える
- ・地域力の創造についての研究
- ・楽しいレクリエーション支援における伝達技術
- ・レクリエーションゲームにおける伝達技術について
- ・学生が考える幼児体育の必要性について
- ・離乳食を通して子どもが健やかに育つ環境づくり
- ・子どもの食物アレルギー
- ・食を通じた子どもの育ち
- ・食育につながる絵本
- ・犬は家族の一員なのか
- ・ノリが良いリズムについて
- ・胎教について
- ・食品添加物について
- ・優しさ、思いやりを子どもたちに伝えるには
- ・受動喫煙が子どもに与える影響について
- ・テレビが子どもに与える影響について
- ・日本と外国のおもちゃについて

福島みなみ  
 築田 梢  
 山岸 未来  
 青柳 彩香  
 黒川 聖華  
 福島 秀明  
 大嶋隆之介  
 神長 和泉  
 土屋 葵  
 菅野 楓  
 上野志津香  
 小谷 加奈  
 中田 胡桃  
 櫻井 文香  
 三村まつり  
 亀井 美里  
 吉澤 梨紗  
 手塚 理奈  
 五月女 碧  
 竹澤 由貴  
 森田智菜実



# 全国保育士養成協議会関東ブロック協議会 第29回学生研究発表会発表研究 発表要旨

平成28年2月26日（金） 会場：大妻女子大学

## 地域力の創造についての研究

- 高根沢町児童館における利用者の実態調査 -

福島 秀明

(宇都宮共和大学子ども生活学部子ども生活学科4年)

### I. 研究の背景・目的

子どもたち同士が地域で遊ぶ機会が減り、自分で遊びを作り出すことが困難な状況になってきている。放課後に子どもたちが年齢の異なる友達と遊び、また、遊びを通じて仲間づくりができるようにするためには、放課後における児童の健全な育成の推進がますます必要になってきている。そのためには地域の大人が、また地域社会が子どもの遊びに関わり、積極的に支援をする働きかけが必要になってきている。地域社会全体で子どもの遊び環境を整え、遊びの機会を作り出していく必要がある。

本研究では、児童館と地域社会がどのように関わり、どのような役割を果たし、また地域社会にどのような影響を与えているのかを明らかにする。また本研究では、主要な用語として「地域力」という言葉を用いる。「地域力」とは広義に「近隣社会における互助力」、狭義に「子どもと子育てにかかわる地域共同体内の人・もの・場の支援力」と定義する。研究のフィールドとして高根沢町を選定し、小型児童館へのニーズや高根沢町の子育て支援に対する問題点や課題、求められる地域力とは何か、「人」「もの」「場」の要素から明らかにする。

### II. 研究方法

児童館や地域社会に関係する文献研究から児童館の機能・役割、児童館に求められるニーズ等の調査・分析。高根沢町児童館みんなのひろばへのボランティア活動への参与観察、児童館の活動に関与する職員や家族への聞き取り調査、利用者へのアンケート調査（留置調査：6月1日～6月30日。回答：子どもを持つ親38名）を実施し、児童館に期待される「人」「もの」「場」のニーズ等の調査・分析。

### III. 結果

#### 1. 文献・先行研究から明らかになったこと

##### 児童館における「人」の機能

- (1) 子どもや保護者、児童・青少年、地域住民、ボランティア、専門職（児童館職員を含む）など、児童館に集い相互交流を図ることができる人間関係力
- (2) 児童館と地域の人的資源を結びつける関係媒介力
- (3) 児童館内で実現する温かい支援・サポートを通じた「親密性」の形成や支援力

##### 児童館における「もの」の機能

- (1) 児童館の活動と地域住民のニーズを結びつけるような「情報発信力」
- (2) 遊び活動や学習活動、相互交流活動を促進させるために必要となる遊具や教具、その他の物的資源

##### 児童館における「場」の機能

- (1) 地域の教育力や子育て共同体としての子育て支援総合コーディネート事業を展開する地域ネットワークの中核的な役割
- (2) 子どもや保護者から児童・青少年、高齢者を含めた地域住民の居場所としての役割
- (3) 地域住民や地域の様々な活動や団体、ボランティア、専門職者を含めた相互交流の場としての役割
- (4) 生涯学習・生涯スポーツなどの体験や学習の場の役割
- (5) 障がいや要支援者への福祉支援サービスを補完・サポートの機能としての役割

#### 2. フィールド調査から明らかになったこと

参与観察とインタビュー調査およびアンケート調査から明らかとなったこと。

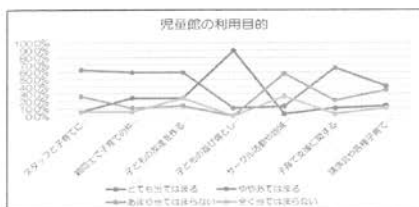


図1 児童館の利用目的

児童館の利用目的に関する調査結果(図1)から、児童館利用者は主な利用目的として、児童館の「子どもの遊び場としての機能」を期待して利用をしているということがわかった。

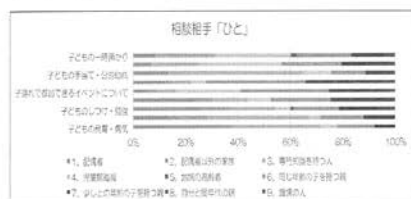


図2 児童館で相談したい項目(「もの」と「ひと」)

児童館で相談したい項目(もの)とその相談相手(人)に関する調査結果(図2)から、「子どもの手当て・公的助成について」の相談項目の割合が最も高い。半数以上の親がこの情報について、専門的知識を持つ人との相談を望んでいる事がわかった。また本調査から、保護者は「人」の要素としての他者とのコミュニケーションについてはあまり期待しておらず、子どもと同年齢の親、地域の高齢者との接触に対してもニーズは低いことが明らかとなった



図3 児童館で知りたい情報

利用者が児童館に期待する、情報に関するニーズと

しては(図3)、子どもの遊び場・施設やイベント、子育てや子育て支援についての情報を期待していることが分かった。

また、フィールド調査からは育児に関する意識について、父親の育児参加意識が低いことが父親の児童館利用の少なさに関連していることが伺えた。

#### IV. 総合的考察と提言

本研究から、児童館において「人」「もの」「場」の要素が、明確に存在し、地域力として機能していることが明らかとなった。児童館において「人」の要素とは、保護者や地域住民、ボランティア、専門職(児童館職員を含む)などの異なる「人」が、子育て支援を中心に、関係を持てる機能の事である。児童館において「もの」の要素とは、「情報」と「物的資源」である。児童館において「場」の要素とは、「家庭的存在=居場所」である。

最後に、児童館は地域の人をつなぐだけではなく、町内会や行政、ボランティア団体といった地域内の組織と子ども、親を結んでいる。児童館の活動が子どもと学校、子どもと親、子どもと地域住民をつないでおり、子どもと地域社会をつなぐ大きな懸け橋となっている。児童館は地域社会に対する働きかけを止めてはいけない。児童館が「人」「もの」「場」の地域力を活性化すれば、地域全体が活性化することにつながり、地域の子どもたちにとっても明るく、楽しい生活が保障されるのだ。

#### 【主な参考引用文献】

- (1)内閣府・厚生労働省雇用均等・児童家庭局、文部科学省、児童健全育成推進財団、国立青年の家、高根沢町・児童館みんなのひろば HPなどから統計資料及び答申等
- (2)仙田満・岡英紀「子どもの遊び環境の構造的変化に関する研究-横浜・山形における経年比較調査による、都市計画学論文集」 1993年
- (3)佐藤一子著「子どもが育つ地域社会-学校五日制と大人・子どもの共同-」東京大学出版会 2005年
- (4)松原治郎・鐘ヶ江晴彦「地域と教育」第一法規出版 1981年
- (5)矢野俊「地域教育社会学序説」東洋館出版 1981年
- (6)ハンナ・アレント著 志水速雄訳「人間の条件」ちくま学芸文庫 1994年

(【第29回 学生研究発表会発表要旨集】より許可を得て転載)

# 全国保育士養成協議会関東ブロック協議会 第29回学生研究発表会発表研究 発表要旨

平成28年2月26日（金） 会場：大妻女子大学

## 室外大型遊具の色についての考察

沼生晴可

（宇都宮共和大学子ども生活学部子ども生活学科4年）

### 研究の動機と目的

#### （1）動機

アルバイト先の経験で、お絵かきセットのペンのインクがよく減っているのがオレンジ色であることを発見した。そのことから、子どもがオレンジ色を好んで使用しているのではないかと考え、子どもが好む色について興味を持つようになった。中でも特に興味を持ったのが室外大型遊具である。日本の公園に設置されている大型遊具は、原色の色使いで、自然と調和しない印象を受ける。それは子どもにとって本当に良いことであるのか疑問をもった。

#### （2）目的

本研究は、子どもにふさわしい彩色の大型室外遊具はどのようなものかを明らかにするものである。まず、色彩と心理の関係性に着目して子どもの好む色について心理との関係を踏まえて明らかにする。次に、日本の室外大型遊具の彩色を観察し、その結果をもとに、諸外国の室外大型遊具の彩色に視野を広げ考察を行う。また実際に遊具メーカーの考えに触れ、室外大型遊具の現状について考える。最後に「衣食住」という身近なテーマから色との関係性を明らかにし、色について幅広い角度から考察を深めることを目的とする。

### 2. 研究方法

研究方法は、文献による研究と室外大型遊具の観察と遊具のカタログを収集し更に、インターネットにより遊具メーカーの見解を調査し考察を行った。

### 3. 研究結果

#### （1）色彩と心理

色彩と心理の関係性には、少なからず自然との関わりが含まれていることがいえると考えられる。よって、公園に関して考えてみれば、木や草花などの自然の色と人工的に造られたものである大型遊具の彩色は互いに関係し合っているのではないだろうか。

そして、その互いの彩色はより調和がとれているこ

とが望ましいのではないだろうかと考えられた。

#### （2）子どもの好む色

子ども、特に幼児期の子どもは黄色を好む傾向にあるといわれている。子どもたちは寒色より暖色を好む傾向があるという事が言える。また、暖色を好むというこの結果から、前文に疑問の一つとして挙げた、子どもたちがオレンジ色のペンを好んで使用していることについては納得ができる。

#### （3）室外大型遊具の観察

日本の室外大型遊具はどのような彩色がされているのかを調査するため、栃木県内にある二つの公共の公園を視察した。

##### ①みかも山公園（わんぱく広場）の場合

（所在地）栃木県栃木市岩舟町下津原 1747-1



#### 〈遊具の状態〉

- ・複合遊具である。
- ・白色を遊具の彩色に使用している。
- ・遊具の色褪せや汚れが見受けられる。

#### 〈考察〉

遊具に白色を使用している。白は明度が最も高い色である。また、汚れの影響を受けやすい色でもある為、室外の遊具に白色が使用されているのは珍しい。この遊具の他の使用色としては、黄色、赤、銀色、花浅葱色（セルリアンブルー）である。遊具の色合いという点で考えると、この遊具は全体的に、原色から明度を上げて彩度を下げた色であるパステル調の色合いであ

ることが言える。そのため、部分的に木材を使用することで、年月の経過や雨などの影響を受けて木材自体の劣化、変色があり、パステル調の色合いとは調和が取れていないようにも感じられた。

#### ②つがの里ファミリーパークの場合

(所在地)

栃木県下都賀郡都賀町大字臼久保 197



(遊具の状態)

- ・茶色を使用した遊具である。
- ・色の塗り直しがされている様子が見受けられる。ブランコでは色褪せによる退色、塗装の剥がれが目立つ。

(考察)

複合遊具の彩色は茶色を基調としており比較的やや落ち着いた印象ではあるが、その他の使用色の彩度が高いことが見受けられるため、存在感が感じられる。原色のように純度の高い彩色の遊具は、子どもの興味関心を高まらせる要素があるように思うが、自然との調和を考えると色合わせに考慮しなければならないと考えられる。

(まとめ)

- ・日本の室外大型遊具の彩色は、原色使いのものばかりでないことが分かった。
- ・彩色に関する問題点として、塗装の劣化による退色があることが判明した。
- ・室外で使用する遊具は、太陽光や雨などによって受ける影響が避けられないことが考えられる。
- ・遊具の彩色には統一性がなく、多彩色である印象を受けた。
- ・複数の遊具が一体となって出来ている複合遊具は、彩色面積が増える。そのため、遊具のパーツごとに色を変えた彩色をすることが定番化しているのではないかと考える。

・遊具の彩色は自然と調和のとれた彩色であることの重要性が重視されるべきであると考ええる。

#### (4) 諸外国の室外大型遊具の色

外国の室外大型遊具は、1つの遊具に対し多くの種類の色を使用して彩色されていない。赤、青、オレンジ、黄など使用色を限定しながらもその限られた色のコンビネーションで彩色がされているため日本の室外大型遊具よりも、遊具の色の統一感が出ているのではないかと考えられる。

#### (5) 遊具メーカーの見解

外国の室外大型遊具は、遊具自体の安全性の確保のみならず自然と融合する遊具の彩色に考慮していることが分かる。自然の色として、木(ブルーグリーン)、紅葉(ワインカラー)、土(ナチュラルブラウン)を挙げており、また、塗料の素材もより自然に近いものを使用し、遊具によって子どもの遊びを妨げることのないような配慮がされている。

#### (6) 衣食住と色

衣食住と色の密接な関係から、無駄なものは極限まで省き、色に関しても合成のものは使用しない自然そのものの色である「自然色」を大切に考える方があると言える。この「自然色」を大切に考えるのは、衣食住に関して共通して言えるものではないだろうか。

#### (7) 子どもの生活と自然色

子どもは一日の大半を遊ぶことで過ごしている。大人の生活の基礎が「衣食住」で構成されているとすれば、子どもの生活は「衣食住遊」であるといえるのではないだろうか。

#### 4. 研究の考察とまとめ

自然に近い彩色がされた室外大型遊具が子どもたちにとって良い遊び場であるということが提案できた。そのため、木材を使用した室外大型遊具が今よりさらに普及すること、木材の色を塗料で塗り消すことなく、自然な風合いで彩色が行われることが必要であると考えられた。藍染のように草花を染料として布が染色されるように、木材に関しても自然材料による染色を行い、その染色された木材を使用して室外大型遊具が製作されれば、それは自然と融合した室外大型遊具の彩色であると提案したい。

(『第29回 学生研究発表会発表要旨集』より許可を得て転載)



# 資 料

(子育て支援研究センター)



### I. 子育て支援研究センター活動報告

#### 1. 主催したイベント

##### (1) 子育て支援研究センター公開講座 「一人ひとりの個性を伸ばす保育・教育を考える」

第1回公開講座（7月11日（土））

研修会「子どもと音楽療法」

宇都宮短期大学音楽科教授 山本久美子

講演会「子どもが将来にわたって幸せに暮らすために ～関係性の発達をみつめて～」

国際医療福祉大学言語聴覚センター臨床心理士 小林順子 先生

第2回公開講座（10月3日（土））

研修会「障がいのある子どもの絵画指導」

宇都宮共和大学子ども生活学部教授 中畝治子

講演会「発達障がいのある子の『いいところ』応援計画」

星槎大学大学院教育学研究科准教授 阿部利彦 先生

第3回公開講座（11月7日（土））

研修会「障がいのある子どもたちも一緒に ～サイコドラマによる心理療法～」

宇都宮共和大学子ども生活学部准教授 杉本太平

講演会「『まず、知ってほしい』 障がいある我が子を語るお母さん達の出前授業  
～みんなちがってみんないっしょ～」

特定非営利活動法人 障がい者福祉推進ネットちえのわ

障がい理解啓発出前授業スタッフのみなさま

##### (2) T i n y（障がいのある子どもと家族の支援）

第19回（4月19日（日））「春の音あそび♪ゆったりあそび♪♪」

参加者 大人15名、子ども17名、計32名

第20回（5月31日（日））「音音おととと♪むずむずリズム！」

参加者 大人13名、子ども17名、計30名

第21回（7月12日（日））「絵の具でぴっちゃん・ぱったん・ペタペタポン！」

参加者 大人12名、子ども11名、計23名

第22回（8月9日（日））「音あそび♪リズムあそび♪♪」

参加者 大人11名、子ども12名、計23名

第23回（10月11日（日））「みんなで楽しくアートの時間！」

参加者 大人15名、子ども22名、計37名

第24回（12月6日（日））「T i n yのクリスマスだよ♪」

参加者 大人12名、子ども16名、計28名



第25回（2月7日（日））「子どもだ！まつりだ！ひなまつり」  
参加者 大人12名、子ども12名、計24名

**(3) 地域の幼稚園・保育所との交流を取り入れた保育者養成教育活動**

- 第1回交流保育（5月29日（金））「体操や伝承遊びで体を思いっきり動かして遊ぼう」  
参加者 園児46名、学生36名
- 第2回交流保育（11月27日（金））「『子どもの森』で遊ぼう」  
参加者 園児50名、学生87名
- 第3回交流保育（1月29日（金））「いろいろな遊びを楽しもう」  
参加者 園児62名、学生91名

**(4) 親子遊びの会**

- 第1回（5月16日（土））講義「食育」（保護者）、工作「野菜スタンプ・鯉のぼり作り」  
参加者 親子22組（60名）、学生ボランティア26名
- 第2回（7月4日（土））「シャボン玉で遊ぼう」  
参加者 親子20組（57名）、学生ボランティア12名
- 第3回（9月19日（土））「ミニ運動会」、工作「旗・応援グッズ」  
参加者 親子21組（57名）、学生ボランティア9名
- 第4回（12月5日（土））音楽劇「おかしなサンタクロース」、工作「クリスマスリース」  
参加者 親子17組（44名）、学生ボランティア12名
- 第5回（2月13日（土））「ミニ発表会&ひな祭り」、工作「お雛様」  
参加者 親子10組（28名）、学生ボランティア5名

**2. 地域での保育所・児童館・福祉施設等での学生ボランティア派遣**

**(1) 子どもの遊び場でのボランティア**

| 内 容                  | 人数  |
|----------------------|-----|
| 幼児及び小学生対象の工作教室ボランティア | 6名  |
| 夏祭り                  | 8名  |
| 青少年交流イベント            | 5名  |
| クリスマス会               | 10名 |
| ゆうあいフェスタ（※）          | 11名 |

※「ゆうあいひろば」スタッフによる指導の下、学生がイベントを企画・運営

(2) 発達センターでのボランティア

| 内 容  | 人数  |
|------|-----|
| 夕涼み会 | 8名  |
| 運動会  | 10名 |

(3) 児童館でのボランティア

| 内 容         | 人数  |
|-------------|-----|
| げんきっこまつり    | 10名 |
| 夏祭り（おばけやしき） | 9名  |
| 三児童館合同遠足    | 6名  |
| 工作教室        | 6名  |

(4) 幼稚園でのボランティア

| 内 容 | 人数 |
|-----|----|
| 誕生会 | 8名 |

(5) 乳児院・自立援助ホームでのボランティア

| 内 容 | 人数 |
|-----|----|
| 夏祭り | 2名 |
| バザー | 5名 |

(6) その他

| 内 容            | 人数 |
|----------------|----|
| 講演会の際の託児ボランティア | 3名 |

## Ⅱ. 専任教員の社会貢献活動

| 職位               | 教員氏名  | 委嘱の内容             |      |            |
|------------------|-------|-------------------|------|------------|
|                  |       | 名称                | 職位   | 設置者        |
| 学長               | 須賀 英之 | [各種審議会・委員会委員等]    |      |            |
|                  |       | 栃木県私立学校審議会        | 委員   | 栃木県        |
|                  |       | 栃木県公立高等学校協議会      | 委員   | 栃木県        |
|                  |       | 栃木県文化振興審議会        | 会長   | 栃木県        |
|                  |       | 栃木県次期プラン策定懇談会     | 会長   | 栃木県        |
|                  |       | 栃木県文化功労者選考委員会     | 委員   | 栃木県        |
|                  |       | 栃木県私立中学高等学校連合会    | 副会長  |            |
|                  |       | とちぎの元気な森づくり県民会議   | 会長   |            |
|                  |       | 栃木県信用保証協会外部評価委員会  | 委員長  |            |
|                  |       | うつのみや産業振興協議会      | 会長   | 宇都宮市       |
|                  |       | 宇都宮市文化振興基本計画策定懇談会 | 委員   | 宇都宮市教育委員会  |
|                  |       | 那須塩原市社会教育委員       | 委員   | 那須塩原市教育委員会 |
|                  |       | とちぎテレビ放送番組審議会     | 会長   | とちぎテレビ     |
|                  |       | [団体兼職]            |      |            |
|                  |       | 栃木県交響楽団           | 会長   |            |
|                  |       | 栃木県楽友協会           | 会長   |            |
|                  |       | 栃木県オペラ協会          | 理事   |            |
|                  |       | 栃木県文化協会           | 常任理事 |            |
|                  |       | うつのみや文化創造財団       | 理事   |            |
|                  |       | 宇都宮まちづくり推進機構      | 理事長  |            |
| 「よみかえれ！宇都宮城」市民の会 | 会長    |                   |      |            |

| 学科                            | 職位        | 教員氏名          | 委嘱の内容                       |              |                             |
|-------------------------------|-----------|---------------|-----------------------------|--------------|-----------------------------|
|                               |           |               | 名称                          | 職位           | 設置者                         |
| 子ども生活学科                       | 副学長<br>教授 | 牧野カツコ         | 栃木県教育振興基本計画懇談会              | 委員           | 栃木県教育委員会                    |
|                               |           |               | 栃木県家庭教育振興促進委員会              | 委員長          | 栃木県教育委員会                    |
|                               |           |               | とちぎの高校生「自分未来学」推進事業<br>企画委員会 | 委員長          | 栃木県教育委員会                    |
|                               |           |               | 栃木県家庭教育オピニオンリーダー研修会         | 講師           | 栃木県総合教育センター                 |
|                               |           |               | 栃木県社会福祉協議会育児相談担当保育<br>士研修会  | 講師           | 栃木県社会福祉協議会<br>福祉人材・研修センター   |
|                               |           |               | 第一生命財団                      | 理事           | (一般財団法人) 第一生<br>命財団         |
|                               |           |               | 『コミュニテイ』誌編集委員会              | 委員           | (一般財団法人) 地域社<br>会研究所        |
|                               |           |               | 中央教育研究所                     | 理事           | (一般財団法人) 中央教<br>育研究所        |
|                               |           |               | 全国少年警察ボランティア協会              | 理事           | (公益社団法人) 全国少<br>年警察ボランティア協会 |
|                               |           |               | にっぽん子育て応援団                  | 運営委員／<br>監事  | (NPO法人) にっぽん子<br>育て応援団      |
|                               |           |               | 高齢社会をよくする女性の会               | 運営委員         | (NPO法人) 高齢社会を<br>よくする女性の会   |
|                               |           |               | お茶の水女子大学附属学校評議員             | 評議員          | お茶の水女子大学附属<br>学校委員会         |
|                               |           |               | 秋田県高等学校家庭科教育研究会             | 講師           | (株)東京書籍東北支社                 |
|                               |           |               | 岡山県高等学校家庭科教育研究会             | 講師           | 岡山県高等学校研究会<br>家庭部会          |
| 広島県高等学校家庭科研究会                 | 講師        | (株)東京書籍中国四国支社 |                             |              |                             |
| 三重県教育委員会 家庭生活を考える環<br>境づくり講演会 | 講師        | 三重県教育委員会      |                             |              |                             |
| 子ども生活学科                       | 学部長<br>教授 | 日吉佳代子         | 埼玉県幼稚園連合会 北部ブロック研修<br>会     | 分科会指導<br>助言者 | 埼玉県私立幼稚園連合<br>会             |
|                               |           |               | 栃木県幼稚園教育研究大会                | 指導助言者        | 栃木県幼稚園連合会                   |
|                               |           |               | 栃木県真岡市幼稚園連合会 研修             | 研修講師         | 栃木県真岡市幼稚園連<br>合会            |
|                               |           |               | 教員免許状更新講習                   | 講師           | 文科省委託／宇都宮共<br>和大学           |
|                               |           |               | 埼玉県幼稚園連合会 西部ブロック研修<br>会     | 分科会指導<br>助言者 | 埼玉県私立幼稚園連合<br>会             |
|                               |           |               | 宇都宮市子育て支援員養成講座              | 講師           | 厚生労働省・宇都宮市                  |

|         |    |       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                          |
|---------|----|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 子ども生活学科 | 教授 | 中畝 治子 | <p>横浜市NPO法人グリーンママ<br/>横浜市NPO法人こども応援ネットワーク<br/>横浜市NPO法人「市民セクター横浜」</p> <p>社会福祉法人キャマラード<br/>重度心身障害者通所施設「みどりの家」<br/>障害者母親グループ「マザーズジャケット」で連続講座開催、自助ミーティング活動、子育て相談</p> <p>横浜市障害児地域訓練会「レインボー」造形教室</p> <p>とちぎ子ども未来創造大学<br/>よこはまチャイルドラインキャラクターギャラリーナナ「ココロはずむアート展」<br/>障害のある方たちの作品発表展</p> <p>栃木県高等学校家庭クラブリーダー養成講習会</p> <p>東日本大震災チャリティー展<br/>教員免許状更新講習</p> | <p>理事<br/>理事<br/>第三者評価<br/>評価委員<br/>評議員<br/>第三者委員</p> <p>講師</p> <p>講師</p> <p>制作<br/>企画</p> <p>講師</p> <p>作品出品<br/>講師</p> | <p>横浜市<br/>横浜市<br/>横浜市<br/>横浜市<br/>横浜市<br/>横浜市<br/>横浜市<br/>栃木県<br/>横浜市<br/>横浜市<br/>栃木県<br/>東京・福島<br/>文科省委託／宇都宮共和大学</p>                                                                                                   |
| 子ども生活学科 | 教授 | 高柳 恭子 | <p>宇都宮市社会福祉施設事業者選考専門委員会</p> <p>鹿沼市子ども・子育て会議<br/>全国健康保険協会栃木支部健康づくり推進協議会<br/>社団法人全国幼児教育研究協会<br/>教員免許状更新講習</p> <p>宇都宮市市民大学専門講座<br/>新・家庭応援講座</p> <p>東京都私立幼稚園教育研修会教員免許状更新講習</p> <p>栃木県立宇都宮中央女子高等学校大学出張講座</p> <p>那須町特別支援教育セミナー</p> <p>栃木県幼稚園連合会資質向上選抜養成講座<br/>関東地区 地域活性化研修会<br/>日本カウンセリング学会栃木県支部会講演会</p>                                              | <p>専門委員</p> <p>会長<br/>委員</p> <p>支部理事<br/>講師</p> <p>講師<br/>講師</p> <p>講師</p> <p>講師</p> <p>講師<br/>講師<br/>講師</p>            | <p>宇都宮市子ども部</p> <p>鹿沼市保健福祉部<br/>全国健康保険協会栃木支部<br/>(社)全国幼児教育研究協会<br/>文科省委託／宇都宮共和大学<br/>宇都宮市<br/>宇都宮市北生涯学習センター<br/>(社)東京都私立幼稚園教育研修会<br/>栃木県立中央女子高等学校<br/>那須町教育委員会<br/>(社)栃木県幼稚園連合会<br/>全国認定こども園協会<br/>日本カウンセリング学会栃木県支部会</p> |

|         |     |       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                        |                                                                                                                                                                      |
|---------|-----|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|         |     |       | 栃木地区幼稚園連合会講演会<br>埼玉県国公立幼稚園教育研究会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 講師<br>講師                                                                                                               | (社)栃木地区幼稚園連合会<br>埼玉県国公立幼稚園教育研究会                                                                                                                                      |
| 子ども生活学科 | 教授  | 河田 隆  | 栃木県子どもの体力向上推進検討委員会<br>栃木県レクリエーション協会<br>栃木県スポーツ推進審議会<br>栃木県民スポーツレクリエーションフェスティバル「とちまるフェスタ」<br>公益財団法人宇都宮市スポーツ振興財団<br>宇都宮市社会教育委員会<br>栃木県社会教育委員協議会<br>那須塩原市民大学運営委員会<br>「保育所新任保育士研修会」講演<br>「社会福祉施設新任職員研修会」講演<br>「第24回全国スポーツ・レクリエーション祭」<br>スクールカウンセラー活用事業<br>(足利市立西中学校・山前小学校・三重小学校)<br>下野市スポーツ少年団指導員研修会<br>第62回栃木県幼稚園教育研究大会<br>放課後活動指導者研修<br>幼少期の子どもを対象とした体力向上指導者研修会 | 委員<br>副理事長<br>委員<br>運営委員<br>評議員<br>(議長)<br>委員長<br>委員<br>委員<br>講師<br>講師<br>運営役員・パネリスト<br>カウンセラー<br>講師<br>講師<br>講師<br>講師 | 栃木県<br>栃木県レクリエーション協会<br>栃木県<br>栃木県<br>公益財団法人宇都宮市スポーツ振興財団<br>宇都宮市<br>栃木県<br>那須塩原市<br>栃木県社会福祉協議会<br>栃木県社会福祉協議会<br>栃木県<br>下野市教育委員会<br>栃木県幼稚園連合会<br>栃木県教育委員会<br>栃木県教育委員会 |
| 子ども生活学科 | 准教授 | 蟹江 教子 | 宇都宮市男女共同参画審議会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 委員                                                                                                                     | 宇都宮市                                                                                                                                                                 |
| 子ども生活学科 | 准教授 | 山口 晶子 | 第二回 先生のための『ダンスを楽しく教える方法』講座<br>千葉県船橋市保育者協議会『誰でもできるたのしいリトミック』<br>北生涯学習センター新・家族応援講座<br>第5回「親子でリトミック」<br>生活文化コース保育専攻第2学年高大連携授業 リトミック、子どもの歌、楽器演奏①②<br>教員免許状更新講習<br>リトミック体験授業<br>県立学校民間講師招へい事業<br>子どものリトミック                                                                                                                                                         | 講師<br>講師<br>講師<br>講師<br>講師<br>講師<br>講師                                                                                 | 石井みどり・折田克子<br>舞踊研究所<br>千葉県船橋市保育者協議会<br>北生涯学習センター<br>益子芳星高校<br>文科省委託／宇都宮共和大学<br>小山北桜高校<br>栃木県立鹿沼南高等学校<br>あゆみ北保育園                                                      |

|         |     |       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------|-----|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 子ども生活学科 | 准教授 | 土沢 薫  | 栃木県障害者施策推進審議会<br>栃木県障害者差別解消推進委員会<br>栃木県臨床心理士会産業委員会<br>栃木県臨床心理士会被災者支援委員会<br>福島県委託事業「被災した障がい児に対する相談・援助事業」<br>栃木県スクールカウンセラー活用事業<br>こころの電話相談事業<br>とちぎ性暴力被害者サポートセンター<br>学校教員コンサルテーション<br>学校メンタルヘルスサポート事業<br><br>職場のメンタルヘルス出前講座<br>養護教諭2～5年目研修<br>養護教諭10年目研修<br>教職20年目研修<br>体罰防止研修会<br>中学校保健研修会<br>小学校保健研修会<br>園長研修会<br>那須塩原市民大学講座<br>鹿沼南高校大学出前授業<br>教員免許状更新講習<br><br>財)女性労働協会認定保育サポーター養成研修会 | 委員<br>委員<br>委員<br>委員<br>派遣専門家<br>臨床心理士<br>S C<br>相談員<br>支援専門家<br>臨床心理士<br>派遣臨床心理士<br>講師<br>講師<br>講師<br>講師<br>講師<br>講師<br>講師<br>講師<br>講師<br>講師<br>講師<br>講師<br>講師<br>講師<br>講師 | 栃木県<br>栃木県<br>栃木県臨床心理士会<br>栃木県臨床心理士会<br>(社)日本発達障害ネットワーク<br>ワーク<br>栃木県教育委員会<br>栃木県臨床心理士会<br>栃木県<br>栃木県立盲学校<br>栃木県教育委員会<br>栃木県教育委員会<br>栃木県教育委員会<br>栃木県教育委員会<br>栃木市教育委員会<br>栃木市立東陽中学校<br>栃木市立国府北小学校<br>栃木県中央地区保育研究会<br>那須塩原市教育委員会<br>栃木県立鹿沼南高等学校<br>文科省委託／宇都宮共和大学<br>NPO法人仕事と子育て両立支援センター |
| 子ども生活学部 | 准教授 | 杉本 太平 | 日本人間関係学会<br>「人間関係士」資格委員会<br><br>日本人間関係学会「関東地区会」<br>日本関係学会<br>日本関係学会研修委員会<br>乳幼児発達・子育て支援研究会<br><br>入間市乳幼児健診<br>川越市乳幼児健診<br>東京都目黒区「育児講座」<br>埼玉県家庭教育アドバイザー養成研修<br>教員免許状更新講習                                                                                                                                                                                                               | 理事<br>委員長<br>講師<br>会長<br>運営委員<br>委員長<br>アドバイザー<br><br>心理相談員<br>心理相談員<br>講師<br>講師<br>講師                                                                                      | 日本人間関係学会<br>日本人間関係学会<br><br>日本人間関係学会<br>日本関係学会<br>日本関係学会<br>乳幼児発達・子育て支援研究会<br>入間市<br>川越市<br>東京都目黒区<br>埼玉県教育局<br>文科省委託／宇都宮共和大学                                                                                                                                                         |

|         |      |       |                                                                                          |                                    |                                                                                     |
|---------|------|-------|------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 子ども生活学科 | 准教授  | 月橋 春美 | 公益社団法人日本キャンプ協会<br>日本シャトルボール協会<br>栃木県キャンプ協会<br>栃木県レクリエーション協会<br>栃木県スポーツ推進審議会<br>教員免許状更新講習 | 運営委員<br>理事<br>理事<br>理事<br>委員<br>講師 | 公益社団法人日本キャンプ協会<br>日本シャトルボール協会<br>栃木県キャンプ協会<br>栃木県レクリエーション協会<br>栃木県<br>文科省委託／宇都宮共和大学 |
| 子ども生活学科 | 准教授  | 桂木 奈巳 | 教員免許状更新講習<br>関東甲信越静地区造形教育研究大会<br>栃木県幼稚園教育研究大会<br>むさしのネイチャーゲームの会                          | 講師<br>講師<br>講師<br>事務局長             | 文科省委託／宇都宮共和大学<br>関東甲信越静地区造形教育連合<br>栃木県幼稚園連合会<br>東京都シェアリングネイチャー協会                    |
| 子ども生活学科 | 専任講師 | 石本 真紀 | 月の家<br>「子育て支援員研修」(子ども家庭福祉・児童虐待と社会的養護)                                                    | 生活支援スタッフ<br>講師                     | NPO法人青少年の自立を支える会<br>宇都宮市                                                            |
| 子ども生活学科 | 専任講師 | 市川 舞  | 栃木県幼稚園教育研究大会<br>教員免許状更新講習<br>宇都宮市子育て支援員研修<br>宇都宮大学教育学部附属幼稚園公開研究会                         | 講師<br>講師<br>講師<br>講師               | (社)栃木県幼稚園連合会<br>文科省委託／宇都宮共和大学<br>宇都宮市保育課<br>宇都宮大学教育学部附属幼稚園                          |



### Ⅲ. 宇都宮共和大学子育て支援研究センター規定

#### (設置)

第1条 宇都宮共和大学内に宇都宮共和大学子育て支援研究センター（以下、研究センターという）を置く。

#### (目的)

第2条 研究センターは保育・幼児教育・子育て支援分野を中心にした学際的、実証的な調査・研究をおこなうとともに、地域福祉の向上に資する政策提言をおこなう。

2 上記調査・研究の推進によりわが国の保育・幼児教育・子育て支援分野を中心にした理論、政策の発展・向上に貢献するとともに、その成果を本学の教育内容に反映させることにより、本学の教育の充実、高度化を図る。

3 上記研究成果を地域社会に還元するにとどまらず、地域社会との積極的な交流を図ることにより、地域福祉の向上に貢献する。

#### (事業)

第3条 研究センターは第2条の目的を達成するため、次の事業をおこなう。

- 一 保育・幼児教育・子育て支援分野を中心にした自主研究，共同研究
- 二 保育・幼児教育・子育て支援等にかかわる受託調査・研究
- 三 保育・幼児教育・子育て支援関連資料，データの収集，整備
- 四 保育・幼児教育・子育て支援等にかかわる政策提言
- 五 保育・幼児教育・子育て支援の人材育成を目的としたセミナー，講座等の開講
- 六 講演会，シンポジウム，公開講座，研究会等の開催
- 七 経営等診断，研修，コンサルティング活動
- 八 大学，研究機関，企業，行政等との交流，連携活動
- 九 研究年報，研究レポート，ニューズレター，研究成果等の発刊
- 十 その他第2条の目的達成のために必要な事業

#### (事業推進)

第4条 自主研究は，客員研究員が研究員の半数未満のプロジェクトチームないし研究会により推進するものとする。ただし，研究員1人でも可とする。

2 共同研究は，研究費の全部または一部を当研究センター以外の諸組織，機関等の研究助成を受けて実施する研究を指すものとする。

3 受託調査・研究は，当研究センター以外の諸組織，機関からの依頼とその目的達成のために実施する調査・研究を指すものとする。

- 4 第3条の諸事業は毎年度の事業計画及び予算にもとづき、研究センター長に対し、文書にて起案し、成果を報告するものとする。

(組織)

第5条 研究センターは、センター長、副センター長、運営委員長、研究員、事務職員をもって構成する。

- 一 センター長、副センター長、運営委員長は本学専任教員のなかから本学学長が任命する。ただし、副センター長は必要に応じて置くことができる。
  - 二 研究員は第3条の事業を遂行する意志のある本学および学校法人須賀学園の専任教員とする。ただし、学長が必要と認める場合は、本学専任教員以外の者を研究員に任命することができる。研究員の任期は2年(年度基準)とし、再任は妨げない。
  - 三 学長、副学長および学部長は特別研究員として研究にたずさわるとともに、研究センター事業全般に関し、指導、助言を行うことができる。
  - 四 事務職員は本学学長が任命する。
- 2 自主研究、共同研究及び受託調査・研究の遂行にあたっては、本学教員以外の共同研究者を客員研究員として参加させることができる。客員研究員の任命は研究センター長がおこない、その任期は当該研究等の完了時を上限とする。
  - 3 研究センターの事業や活動を検討するため、全研究員参加の研究員会議を必要に応じて開催することができる。
  - 4 当研究センターの発展を支援し、貢献が可能な学外の研究者、経営者等に名誉顧問、研究顧問を委嘱することができる。名誉顧問、研究顧問の委嘱は学長がおこない、その任期は2年とする。顧問は研究センター長の求めに応じて、助言、指導等をおこなう。

(運営)

第6条 センター長は研究センターを統括し、副センター長はこれを補佐する。

- 2 研究センターを運営し、諸事業を遂行するため、運営委員会を置く。運営委員会は運営委員長が主宰し、運営委員長が指名する数名の研究員を運営委員とする。ただし、運営委員長は運営委員のなかから、必要に応じて副運営委員長を指名することができる。
- 3 研究員会議はセンター長が召集し、主宰する。
- 4 センター長、副センター長、運営委員長、副運営委員長、運営委員の任期は2年(年度基準)とする。ただし、再任を妨げない。

(運営委員会の業務)

第7条 運営委員会は次の業務を推進し、研究センターの円滑な運営を図る。

- 一 各年度の事業計画の策定及び予算原案の作成
- 二 研究員から提出される自主研究、共同研究及び受託調査・研究の企画書、予算案査定

- 三 保育・幼児教育・子育て支援等にかかわる政策提言の検討
- 四 第3条五, 六, 七の諸事業の企画, 運営, 実施
- 五 研究年報, 研究レポート, ニュースレター, 研究成果等の刊行, 発表
- 六 研究センターの施設・設備, 資料等の整備及び管理
- 七 その他研究センター運営に必要な業務  
(予算及び会計処理)

第8条 研究センターの予算は次の収入による。

- 一 各年度の本学予算に定められた研究センター経費
  - 二 第3条に定められた受託調査・研究等の諸事業による収入
  - 三 寄付金
  - 四 その他の収入
- 2 受託調査・研究等に関する予算配分・原稿料等の基準については別に定める細則によるものとする。
- 第9条 予算執行にかかわる会計処理は本学の同規程を準用する。ただし, 出張旅費等については, 名誉顧問, 研究顧問及び客員研究員にも適用されるものとする。

#### 附 則

この規程は平成22年11月3日から施行する。

# 地域福祉開発センターの 取り組み



# I. 人間福祉学科の地域社会に向けた公開講座、正規授業の開放等

## 1. 各種活動

### (1) 介護職の接遇・マナー

人間福祉学科准教授 山屋恵美子

日 時：平成27年8月19日（水） 10：00～15：00

場 所：宇都宮短期大学 3号館105教室

対象者：施設職員、福祉関係者

受講料：500円（資料代）

内 容：

【午前】 飲食店での接遇を例に自分たちが店の雰囲気、店員の姿勢、言葉遣いなどに求めている接遇・マナー等について、アイスブレイクで考える。その後、介護職に求められる接遇・マナーの基本的な知識の確認をした。

【午後】 利用者への適切な表現方法としての傾聴・受容・共感の演習を行い、利用者の見方を変えることで人間関係を円滑にし、信頼関係につながるリフレーミングをワークショップ中心に行った。

平成12年に介護保険制度がスタートして16年が経過した。介護保険制度は、利用者の「自立支援」と「尊厳の尊重」を基本とする契約制度で、利用者自身がサービスを選択する時代となり、社会に認識され定着した。団塊の世代が高齢者となった現在、個人としての暮らし方を尊重し、礼節をもって接することが「サービス」と介護者自身が認識する必要がある。



介護職は専門性をもって質の高いサービスを提供することが大切である。施設では利用者と接する時間が長いために、言葉遣いや態度等になれなれしい対応が多いようである。ビジネスマナーだけではなく、個別ケアを主体とする介護職の接遇・マナーとはどのように行うことが求められているのか、福祉職員を対象に支援方法の講座を開講した。

50人の参加があり、全員が高齢者施設職員で、そのうち2人が本学の卒業生であった。講座後のアンケート調査では48人が回答し、テーマの設定、講義内容、今後の活用度とも

に「よい」「よく理解できた」「高い」と9割以上を占めた。自由記述でも「高い志を持ち明日から頑張ろうと思う」「改めて自分の言葉遣いや利用者に対する思いやりを考えることができた」「初心を思い出すことができた」との感想をいただき、日々の業務に追われ利用者と向き合うことを改めて考えていただける講座となった。

## (2) 福祉施設におけるレクリエーション活動 ～手芸による生活支援～

人間福祉学科教授 百田 裕子

日 時：第1回：平成27年7月11日（土） マーブリング（墨流し）・板締め

第2回： 〃 8月8日（土） 絞り染め

第3回： 〃 9月19日（土） 編み物（かぎ針）

第4回： 〃 10月24日（土） ポンポンの製作

第5回： 〃 11月28日（土） 和紙細工（箸袋と箸置き製作）

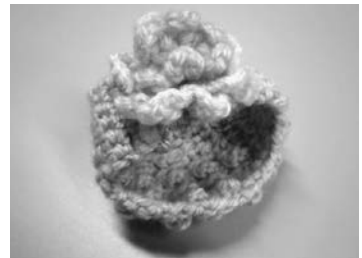
すべて 13：00～15：00

場 所：宇都宮短期大学 3号館 家政実習室

受講料：500円（資料・材料代込み）

今日の福祉施設における生活支援には、「楽しみ」の自立支援が求められている。屋内では、趣味を楽しむこと、とりわけ裁縫や編み物等を家事として行なってきた高齢者は、手芸を好まれる利用者が多く、作業療法にも取り入れられている。

平成27年度は、前年度に続く手芸による生活支援の公開講座を、デイサービスなどで活用できる多様な手芸の中から5つを取り上げ、5回シリーズで実施した。各講座とも手法の基本とその応用を紹介し、楽しみの支援が広がることを目的とした。



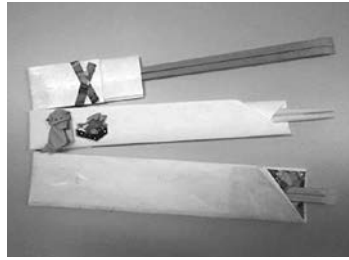
1 回目：マーブリングと板締め  
上…板締めの実践様子  
下…板締めを使ったティッシュケース

2 回目：絞り染め  
上…ステッチと輪ゴムによる模様  
下…(応用作品)ポーチ

3 回目：編み物（かぎ針）  
上…極太毛糸で編んだ洗面台タワシ  
下…(応用作品)かぎ針のポプリ人形



4回目：ポンポンの製作



5回目：和紙細工（箸袋と箸置き）



毎回、各手芸と使用する材料などの歴史を紹介し、基本技術の習得、そして応用作品を制作した。平成26年度は1回で23人の参加者があったが、平成27年度は参加者が少なく、第1回5人、2回4人、3回2人、4回3人、5回3人であった。

各講座とも、講義内容、今後の活用度、満足度、講義全体の満足度共に5段階評価で4.3以上の評価をいただいた。自由記述による感想では、どの回も楽しかった、施設で利用者と一緒にやってみたい、編み物は初めてなので難しかったが丁寧に教えていただき編み図の見方がわかるようになった、簡単にできる手芸用具が開発されていることを知った、活動に生かせる内容でとても勉強になった、季節や行事に合わせて活用したい、各手芸の応用が広がった等の感想をいただいた。また、手芸経験の少ない方から、介護度の高い利用者にできそうなものも教えて欲しいとの要望があった。



### (3) 社会福祉士国家試験対策講座

人間福祉学科准教授 平賀 紀章

社会福祉士国家試験は毎年1月に実施されるが、全国の合格率は27%前後で、合格への道は容易なものではない。本講座は在学生や卒業生のリカレント教育の場として、例年、本学社会福祉専攻専任教員のオムニバスで実施している。平成26年度から、地域の社会福祉士国家試験受験生（以下、一般受験生）にも門戸を開けて実施している。

対象者：平成28年1月24日（日）の社会福祉士国家試験の受験予定者

社会福祉士国家試験の受験を検討されている方

場 所：宇都宮短期大学 3号館 講義室

受講料：無料（社会福祉専攻の授業科目「社会福祉演習Ⅲ」の開放講座）

プログラム 3時限：13:05～14:35 4時限：14:45～16:15 5時限：16:25～17:55

| No | 月 日       | 時限 | 科目                    | 担当教員  | 人数 |
|----|-----------|----|-----------------------|-------|----|
| 1  | 9月4日（金）   | 3  | 高齢者に対する支援と介護保険制度      | 平賀 紀章 | 6  |
| 2  | 9月4日（金）   | 4  | 障害者に対する支援と障害者自立支援制度   | 平賀 紀章 | 6  |
| 3  | 9月7日（月）   | 5  | 保健医療サービス              | 平賀 紀章 | 6  |
| 4  | 9月14日（月）  | 5  | 低所得者に対する支援と生活保護制度     | 平賀 紀章 | 5  |
| 5  | 10月19日（月） | 4  | 就労支援サービス&更生保護制度       | 平賀 紀章 | 3  |
| 6  | 10月26日（月） | 5  | 心理学理論と心理的支援           | 勝浦美智恵 | 5  |
| 7  | 10月30日（金） | 3  | 相談援助の基盤と専門職           | 勝浦美智恵 | 5  |
| 8  | 10月30日（金） | 4  | 相談援助の理論と方法            | 勝浦美智恵 | 5  |
| 9  | 11月20日（金） | 3  | 現代社会と福祉               | 天野 マキ | 7  |
| 10 | 11月20日（金） | 4  | 社会保障                  | 天野 マキ | 7  |
| 11 | 11月27日（金） | 4  | 福祉行財政と福祉計画            | 天野 マキ | 6  |
| 12 | 11月27日（金） | 4  | 地域福祉の理論と方法            | 天野 マキ | 5  |
| 13 | 12月7日（月）  | 5  | 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 | 勝浦美智恵 | 8  |
| 14 | 12月11日（金） | 3  | 社会理論と社会システム           | 堀 圭三  | 6  |
| 15 | 12月11日（金） | 4  | 社会調査の基礎               | 堀 圭三  | 5  |

平成27年度は、毎回3～8人の一般受験生が参加し、受講生からはポイントをわかりやすく説明をしてくれ、理解しやすかった（5人）、関連事項の説明や重要事項について詳しく説明してくれ、参考になった（4人）、楽しい授業だった（2人）、今後の受験勉強に対して前向きに頑張る姿勢ができた等の感想が寄せられた。

平成27年度 of 社会福祉士国家試験の合格発表では、本講座の受講生から合格者がでた。

#### (4) 彩音祭における出展協賛事業

人間福祉学科准教授 平賀 紀章

- ①「農産物」直売コーナー（共催：JA宇都宮長坂地区組合）
- ②「福祉用具」展示コーナー（共催：ヤマシタコーポレーション）
- ③「福祉車両」展示コーナー（共催：栃木トヨペット）

日 時：平成27年11月14（土）・15日（日） 10：00～15：00（彩音祭開催日）

場 所：宇都宮短期大学 長坂キャンパス

①～③のイベントは、地域福祉貢献事業の一環として毎年、本学の大学祭（彩音祭）の中で実施しているもので、地域の農協、福祉用具販売会社、福祉車両販売会社による出展を企画、依頼している。当日は、大学祭に会場された地域住民に、農協による安価な地元の新鮮野菜の販売とともに、福祉用具販売会社や大手自動車販売会社による新しく開発された福祉用具や福祉車両の展示を行い、地域住民の福祉の向上を図っている。

#### (5) 長坂のサンマ祭り（チャリティー事業）

人間福祉学科教授 中川 英子

日 時：平成27年11月15日（日）

10：00～15：00

場 所：宇都宮短期大学 長坂キャンパス

さんま：1,000尾（須賀学園提供）

無料配布

共 催：宇都宮短期大学附属高校調理科



「長坂のサンマ祭り」を初めて開催したのは、平成23年3月11日の東日本大震災の年の彩音祭からである。同年5月15日、長坂キャンパスとしてバスを仕立てて、学長以下、学生、教職員で被災地（宮城県石巻市）の復興支援活動に参加したことが、きっかけとなっている。以来、毎年、彩音祭で実施しているもので、地域住民が楽しみにしているイベントでもある。

## 2. 課題

人間福祉学科教授 百田 裕子

人間福祉学科では、福祉現場のニーズをとらえ、また参加しやすい公開講座の開催方法を工夫し、教員の専門性を生かして社会貢献をしていくことが課題である。

また、両学科とも教育現場のニーズや社会的ニーズを的確に把握し、イベントを通じた

社会貢献を図るため、広報活動の充実につなげる。

さらに、人間福祉学科では、来年度は、教員の専門性を生かした講座やソーシャルワークに関するシンポジウムを開催し、社会福祉への関心を高める。また、卒業生へのリカレント教育を充実していくために、平成28年度は新たな卒業生リカレント教育プロジェクトを立ち上げて実施する。彩音祭における事業では、新たに地域の障がい者支援施設等の協力を得てグッズの販売等を行う計画である。

## Ⅱ. 地域社会の行政、商工業、教育機関及び文化団体等との交流活動

### 1. 各種活動

#### (1) 地域社会の行政との交流活動

##### ①平成27年度社会福祉施設新任職員研修会（後期）

人間福祉学科講師 小野 篤司

#### 1. はじめに

栃木県社会福祉協議会の福祉人材・研修センターには、福祉従事者を対象にした様々な研修体系がある。高齢・障害・社会的養護分野では、新任職員、中堅・指導監督職員、管理職員の階層別に、それぞれ研修プログラムが用意されている。新任職員研修は、1年間に前期と後期の2回設定されている。報告者は、後期の新任職員研修を担当する機会をいただいた。

後期の研修テーマは「元気に創造とちぎの福祉～今までの自分とこれからの自分～」である。研修目的は「人と接するプロとして、自己表現力を高め、より良い人間関係を築くためのコミュニケーションスキルを学ぶとともに、福祉専門職としての半年間を振り返り、今後めざすべき職員像について考え、自ら課題に取り組んでいく力を養うこと」であり、社会福祉に従事する新任職員を対象に講義・演習を行った。

#### 2. 開催日時・場所等

- ・日時：平成27年9月30日（水） 13：00～16：00  
平成27年10月7日（水） 13：00～16：00  
平成27年10月21日（水） 13：00～16：00
- ・場所：とちぎ福祉プラザ 3階 福祉研修室
- ・対象：社会福祉従事経験年数1年未満の職員で、原則として5月に開催した新任職員研修会（前期）を受講した人（保育園等保育施設は除く）。
- ・講師：人間福祉学科 専任講師 小野篤司
- ・主催：社会福祉法人栃木県社会福祉協議会 福祉人材・研修センター

#### 3. 研修内容

研修は、講義60分、演習120分とした。前半の講義では、新任職員に求められることや新任職員の強み、職場の人間関係とチームワーク、コミュニケーションの大切さ、同じ志を持つ仲間づくり、仕事の悩みと解決方法等について講義を行った。後半は、6～7名に分かれてグループワークを行った。前半の講義を踏まえて、業務等の現状分析や現在の悩み、半年後の目標設定等について、各グループ内で参加者一人ひとりが考えて発表することで、

お互いに共有・共感してもらった。研修終了後のアンケートでは、目標設定ができたこと、情報共有等ができたことという声が多数あった。同じ志を持つ仲間とつながることで目的意識が高まるきっかけとなったようである。

#### 4. おわりに

本研修を担当する機会をいただいたことで、私自身多くのことを学び、改めて職員同士の横のつながりの重要性を実感しているところである。公益財団法人介護労働安定センターによれば、介護の仕事を選んだ理由として最も多かったのは「働きがいのある仕事だと思ったから」52.6%であった（平成26年度「介護労働実態調査」の結果より）。新任職員が、やりがいや個々の役割の重要性を実感し、志と誇りを持って引き続き職務に就き、専門職として活躍されることを願いたい。

#### 参考文献

- ・公益財団法人介護労働安定センター（2015）「平成26年度「介護労働実態調査」の結果」
- ・津田耕一（2011）「福祉職員研修ハンドブック－職場の組織力・職員の実践力の向上を目指して－」ミネルヴァ書房
- ・「福祉職員生涯研修」推進委員会（2002）「改訂 福祉職員研修テキスト 基礎編－仕事の進め方・考え方を学ぶ－」全国社会福祉協議会

#### ②平成27年度子育て支援員研修「乳幼児の食事と栄養」

人間福祉学科教授 百田 裕子

日 時：平成27年10月24日（土） 9：20～10：20

場 所：宇都宮共和大学長坂キャンパス 5号館講義室

対 象：子育て支援員希望者

主 催：宇都宮市 保育課

平成27年4月から「子ども・子育て支援制度」がスタートし、地域において保育や子育て支援等の仕事に関心を持ち、保育や子育て支援分野の各事業等に従事するを希望する者に対し、多様な保育や子育て支援分野に関しての必要な知識や技能等を修得するための全国共通の研修制度を創設し、これらの支援の担い手となる子育て支援員の養成を図る「子育て支援研修」を実施することが義務づけられた。宇都宮市保育課でも実施され、宇都宮共和大学子ども生活学部の教員と本学人間福祉学科教授百田裕子が、本講座を担当した。

研修内容は、離乳の進め方に関する最近の動向、栄養バランスを考えた幼児期の食事作りのポイント、食物アレルギー、保育者が押さえる食育のポイントなどである。食べることの意義、乳幼児期の食事リズムや栄養バランス・内容・調理形態や方法・食べさせ方等

が食機能の発達に影響すること、また、乳幼児の食は成長期・成人期の心身の健康に大きな影響を与える大事なものであることを講義した。

### ③平成27年度短期スキルアップ講習 介護技術

～ボディメカニクスってこんなに凄い!!きちんと理解し、活用した介護技術を身につけましょう～

人間福祉学科准教授 山屋恵美子

日 時：平成28年2月25日（木） 10：00～16：10

場 所：宇都宮短期大学 3号館1階介護演習室・実習室

対 象：介護に従事している方

主 催：公益財団法人 介護労働安定センター栃木支所

介護福祉士の国家資格ができて28年が経過する。平成19年と平成26年に社会福祉士及び介護福祉士法の改正が行われ、定義が見直された。制定当時の食事・入浴・排泄介助の身体の三大介護から、平成19年改正では心身の状態に応じた日常生活の自立支援を中心とする介護へ、そして平成26年度は喀痰吸引等の医療行為の一部を含む介護へと業務内容が変化している。これらの内容に合わせて、資格取得のためのカリキュラムと学習内容も変更されている。しかし、高齢者介護などの福祉現場では、腰痛の労災が多発している。重労働との理由で離職率も高いことが社会問題になっている。この講習会は、介護労働安定センター栃木支所の依頼を受けて毎年実施している。

厚生労働省は、平成25年6月に「腰痛予防指針」を発表した。福祉・医療分野等における介護・看護作業の腰痛予防も含まれている。本講習会では、午前中は「腰痛を防ぐ介護技術実践」として、腰痛予防指針の紹介とボディメカニズムの8原則、福祉用具の使用法について一緒に学んだ。午後は、「生活支援技術の基本」として、食事・入浴・清潔・排泄などの身体介助について、高齢者の身体の機能の低下状態と利用者の心理、環境（住環境・福祉用具・人的環境）が与える影響などについて学び、実践を通してスキルの向上を図った。

平成27年度も男子12人、女子35人の参加者があり、施設職員、在宅の介護職員、障害者施設職員、看護師等職種はさまざまであった。また介護経験歴も22年から1年未満と幅広い年齢層であった。講座後のアンケートでは、講習への満足度は100%と高い評価をいただいた。テーマや内容については「実用的な内容でありがたかった」、「今までの考え方や対応方法が間違っていたことに気づかされ、勉強になった」、「移乗を今まで腰でやったり、無理な力が入っていたことが解った。腰に負担をかけない方法を知りとても勉強になった」、「明日から実践したい」、「出席できなかった職員にも伝えたい」等、数多くいただいた。講師への意見、希望には「施設での講義を希望したい」、「わかりやすく質問しやすく、興味深い話ばかりで事例を挙げてもらう度に共感した」等の感想をいただき、日々の業務で介護者自身の身体を酷使していたことを自覚し、専門性を改めて考えていただく講座となった。



## 2. 課題

人間福祉学科教授 百田 裕子

人間福祉学科では、平成28年度から社会福祉専攻に医療事務履修モデルを設置し、福祉の基本を学んだ医療事務職を養成する。その広報活動の意味もこめて、関連講座を効果的に実践していく。

本学全体としては、入学者を増やすためにも、小・中学生も対象としたイベントを多くし、音楽や福祉への興味・関心を高めていく。地域に根ざした短期大学にするために、栃木県や宇都宮市等の行政機関と連携した講座を開催し、交流活動を促進していく。また、附属高校との高大連携授業では、中学・高校の教育の現状と附属高校の先生方の本学に対する関心やイメージを把握し、効果ある授業のあり方について検討していく。

また、人間福祉学科では、各種の高大連携授業では、中高校生及び中学・高校教員の要望と大学ならではの専門的な体験授業の両方の条件を満たすような授業内容を検討し、継続して実施していく。そのために、中学・高校とはを常にフィードバックと情報交換をしていく。

平成28年2月に、両学科ともに平成28年度の地域貢献活動の企画について検討した。これまで地域貢献活動は、音楽科では創立以来音楽科独自で、人間福祉学科では人間福祉学科地域福祉開発センターを設置し、それぞれ別々に実施してきた。音楽と福祉は地域文化・地域福祉の向上には両輪であることから、平成28年度から「宇都宮短期大学人間福祉学科地域福祉開発センター」を「宇都宮短期大学地域福祉開発センター」と改称し、共同で活動を進めて行くことにする。

## (2) 教育機関等との交流活動

人間福祉学科教授 百田 裕子

高大連携授業は、中学生や高校生に、「社会福祉を知って身近に感じてもらう、もっと学んでみたいと感じてもらう」「これからの時代を担う世代の若者として、少子高齢化、人口減少という課題を自らの問題として認識してもらう」など、福祉への興味関心を抱き、日頃の福祉活動の実践と福祉分野への進学を希望する生徒の拡大を目的とし、本学の福祉機器・設備と人的資源を利用した高大連携授業を実施している。平成27年度は以下の9件の授業を開催した。

### ①宇都宮短期大学附属高校生活教養科3年「特別授業」

美容師 川津 孝代・人間福祉学科教授 中川 英子

日 時：平成27年5月2日（土） 10：45～12：25

場 所：宇都宮短期大学附属高校 記念講堂小ホール

対 象：宇都宮短期大学附属高校生活教養科3年生

タイトル：福祉のための美容～講座とワーク～

内 容：近年、高齢者や障がいをもつ方がいきいきと生活するために、美容（化粧やネイルケア）によるケアが注目されている。本学では、「美容福祉学講座」を平成23年度から課外授業として開講し、メイクアップ技術検定やネイルケアの資格取得を推奨してきた。この講座が平成28年度より正規授業に取り入れられる。美容師をゲストティーチャーに招いて、その広報も兼ねて、高校生へのお化粧の意義と高齢者・障がい者のための美容について説明した。



## ②「福祉・介護の礎としての対人援助スキル（コミュニケーション）」講座

人間福祉学科専任講師 益川 順子

### 1. はじめに

本学の人間福祉学科では、建学の精神「全人教育」を重要視し、学生一人ひとりの能力、個性、特性を伸ばす人間形成の教育及び介護福祉士養成を担っている。人間には、福祉を享受する権利「“生存権”や“幸福を追求する権利”」<sup>1)</sup>があり、福祉の権利を尊重する対人援助職（社会福祉士や介護福祉士）を目指すにあたり、福祉の対象を理解することが重要である。

近年、介護の対象は、年齢、属性、社会的背景等、利用者が生きてきた時代背景や社会構造の変化において幅が広く、多様化している。福祉専門職として多様なニーズに応えるためには、対象者の「尊厳」「自立支援」について思考し、創造性に満ちた介護を提供するための基本的な姿勢が求められている。

そこで、本講座では、対人援助職の基本である、対象理解及び利用者との信頼関係の形成構築、協働や連携で求められる「言語的・非言語的コミュニケーション」について体験をして頂くことを目的に講義・演習を行った。

### 2. 開催日等

開催日：平成27年5月27日（水） 60分

場 所：宇都宮短期大学長坂キャンパス3号館演習室

対象者：小山北桜高校文化科1～3年

テーマ：福祉・介護に関わる人のコミュニケーションの大切さを学ぶ

主 催：宇都宮短期大学 人間福祉学科

### 3. 研究内容

講義・演習60分とした。講義の内容は、「福祉の概念」「福祉の対象」「福祉はどのようなことを学ぶのか」「言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション」についての概説を行った。具体的には、コミュニケーションがもたらす「信頼関係の形成構築」や「お互いが相手のことを考えたコミュニケーションの実現」と「チームで働く喜びとしての協働・協調・連携」についての講義を行い、言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーションについての演習を実施した。2名ペアで実施し、「自己表現、伝達、傾聴、受容、聞くと聴く、共感的理解」等について体験をして頂いた。

### 4. おわりに

福祉職を志す高校生が対象であり、多くのことを学ばせて頂いた。講義での参加者の発言によると「いつも一緒にいるのに知らないことがあった」「意外な一面が知れた」「緊張

したけれど、相手が一生懸命に話を聴いてくれて嬉しかった」「共通点があってびっくりした」「とても楽しかった」という意見が見られた。コミュニケーションの本来の楽しさを実感し、福祉に関心を抱いて頂けるような講座を今後も開催をしていきたい。

#### [引用文献]

- 1) 宇都宮短期大学人間福祉学科HP：<http://www.ujc.ac.jp/> (2015.5.3.am7:00)

#### [参考文献]

- 2) 阿部潔著：日常のなかのコミュニケーション—現代を生きる「わたし」のゆくえ、北樹出版 (2000)
- 3) 春日キスヨ著：介護問題の社会学，岩波書店 (2001)
- 4) 田村紀雄著：コミュニケーション—理論・教育・社会計画，柏書房 (1999)
- 5) 滝沢正樹著：コミュニケーションの社会理論，新評論 (1976)
- 6) 橋元良明・船津衛編：シリーズ情報環境と社会心理3 子ども・青少年とコミュニケーション，北樹出版 (1999)
- 7) 宮原哲著：入門コミュニケーション論，松柏社 (2006)
- 8) 山田宗陸著：コミュニケーションの文明，田端書店 (1972)

### ③宇都宮共和大学 (子ども生活学部)・宇都宮短期大学 (人間福祉学科)

#### 「特別授業」

日 時：平成27年6月6日 (土) 8:00～13:10

場 所：宇都宮短期大学・宇都宮共和大学 長坂キャンパス

対 象：宇都宮短期大学附属高校調理科3年生

タイトルと担当教員：

宇都宮共和大学子ども生活学部体験授業

「子どもを知ろう」 宇都宮共和大学教授 牧野カツコ

宇都宮短期大学人間福祉学科体験授業

「行事食と食材—食材に込められた意味を知っておいしく食べていただく支援」

人間福祉学科教授 百田 裕子

宇都宮共和大学子ども生活学部レクリエーション体験

「遊びで仲間とつながろう」 宇都宮共和大学教授 河田 隆

本学附属高等学校調理科の生徒は、全員が調理師の国家資格を取得し、食の専門家として活躍をする者が多い。なお、食を基本に子どもや社会福祉の分野にも関心を向け、これからの時代を担う世代の若者として、少子高齢、人口減少という課題を自らの問題として認識できる体験授業を行った。

#### ④宇都宮短期大学附属高校生活教養科1年「福祉体験学習」

日 時：平成27年7月17日（金） 13：20～16：10

場 所：宇都宮短期大学 5号館501教室、3号館1階演習室

対 象：宇都宮短期大学附属高校生活教養科1年生

担当教員：「全体講話」人間福祉学科教授 天野 マキ

「体験実習」中川 英子・百田 裕子・堀 圭三・山屋恵美子・平賀 紀章・  
小野 篤司・勝浦美智恵

内 容：全体講話では、福祉の基本的考え方であるノーマライゼーション、生活環境整備の「バリアフリー」と「ユニバーサルデザイン」の考え方の違いなどを学んだ。それを基に、体験実習では「高齢者の疑似体験」「ユニバーサルデザインすごろく・福祉かるた」「美容福祉とコミュニケーション」の3つに分かれて、ローテーションでそれぞれ体験し、福祉への興味と関心を促した。



#### ⑤高大連携授業 「子どもの発達と離乳食」

人間福祉学科教授 百田 裕子

日 時：平成27年8月4日（火） 12：50～13：50

場 所：宇都宮短期大学 3号館1階家政実習室

対 象：益子芳星高校生活文化コース2年生

（宇都宮短期大学附属高校2年生希望者も参加）

内 容：益子芳星高校とは、系列校の宇都宮共和大学子ども生活学部とともに、数年にわたり高大連携授業を実施している。平成27年度は本学人間福祉学科教授百田裕子が担当した。食べることの意義、ライフサイクルに合わせた食機能（口内・咽頭の変化、そしゃく能力・消化器系の発達、手の運動発達等）について、離乳食の調理形態と食事自助具、食べることに興味を持たせる保育者のあり方等について、実習室の備品等を用いながら学んだ。

⑥宇都宮短期大学附属高校普通科応用文理コース 2年「福祉授業」

日 時：1) 平成27年9月7日(月) 13:20～14:10

2) 〃 10月26日(月) 13:20～14:10

3) 〃 11月16日(月) 13:20～14:10

場 所：宇都宮短期大学附属高校 記念講堂小ホール

対 象：宇都宮短期大学附属高校普通科応用文理コース2年生

タイトルと担当教員：

1)「美容福祉とコミュニケーション」 美容師 川津 孝代

人間福祉学科教授 中川 英子

2)「高校生のためのスクール・ソーシャルワーク入門

～スクール・ソーシャルワーカーの仕事～」

人間福祉学科兼任講師 土屋 佳子

3)「病院で働く専門職～医療事務とMSW～」

人間福祉学科准教授 平賀 紀章

内 容：宇都宮短期大学附属高校普通科応用文理コース2年の「家庭看護・福祉」、「発達と保育」の授業において、生徒が日常学んでいる教科の裏づけと、福祉分野における課題に取り組んでいく意欲を高め、少子高齢化社会への心構えをもてるよう、人間福祉学科の教員が出張授業を行った。授業は、平成28年度から正規授業科目化を予定している美容福祉学や医療事務の仕事、そして社会福祉士の仕事等の理解を深め、スクール・ソーシャルワーカーについて学んだ。

⑦宇都宮短期大学附属中学校1年「福祉特別授業」

日 時：平成28年1月29日(金) 13:00～16:00

場 所：宇都宮短期大学 5号館501教室、3号館1階演習室

対 象：宇都宮短期大学附属中学校1年生

担当教員：「福祉講話」人間福祉学科教授 天野 マキ

「体験実習」中川 英子・百田 裕子・堀 圭三・山屋恵美子・平賀 紀章・

小野 篤司・勝浦美智恵

内 容：「福祉講話」において、ユニバーサルデザインの考え方や具体例などを学び、これを踏まえて、学内にあるユニバーサルデザインの自販機・福祉用具、調理器具の体験、車いすによる段差・エレベーターの体験、ユニバーサルデザインのすごろく・福祉かるた等を4グループのローテーションで体験し、福祉への興味・関心と理解を深めた。



## ⑧宇都宮短期大学附属高校調理科2年「福祉特別授業」

日 時：平成28年3月5日（土）

場 所：宇都宮短期大学 5号館501教室 3号館家政実習室 アリーナ

対 象：宇都宮短期大学附属高校 調理科2年生

タイトルと担当教員：

|              |                       |       |
|--------------|-----------------------|-------|
| 「福祉調理実習」     | 人間福祉学科教授              | 百田 裕子 |
| 「福祉レクリエーション」 | 宇都宮共和大学准教授・人間福祉学科兼任講師 | 月橋 春美 |

内 容：本授業は、宇都宮短期大学附属高等学校の調理科の生徒を対象に、毎年実施している。調理科の生徒は調理師の資格を取得し、食の専門家として活躍をする者が多い。福祉調理実習では、障がい者用調理器具を用いた調理体験を通して、片手（利き手）だけで調理することの大変さと、両手不自由なく使用できるしあわせを感じてもらい、福祉の分野への関心を高めた。また、福祉レクリエーション実習では、コミュニケーション・ワークの体験授業を行なった。2つの福祉授業体験を通して、本学人間福祉学科への関心を喚起している。



## ⑨わくわく春の大学体験講座

実施日：平成28年3月25日（金）

時 間：9：30～12：30

場 所：宇都宮短期大学 宇都宮共和大学 長坂キャンパス

人間福祉学科では、一般高校生を対象に介護福祉・社会福祉分野として、「車イスでダンスに挑戦」「福祉の仕事って何？」「楽しく作っておいしく食べよう」の3つの講座と、平成28年度から開講される医療事務・美容福祉分野として「おもしろ医療事務講座」「美容と福祉－ネイルケア体験－」の2つの講座を実施した。

参加者からは、福祉の仕事について卒業生から福祉現場の話を聞くことができよかった、高齢者や障がいのある方への支援としていろいろな方法があることを知り、福祉への関心が高まったとの感想が寄せられた。



### Ⅲ. 教職員及び学生のボランティア等による地域貢献活動

#### [人間福祉学科]

##### 1. 各種活動

##### ①出前ファッションショー

###### 【第1回】

日 時：平成27年12月1日（火） 9：00～12：00

場 所：宇都宮市内の特別養護老人ホーム

講 師：美容師 川津 孝代・ネイリスト 信夫扶美子

###### 【第2回】

日 時：平成28年1月21日（木） 9：00～12：00

場 所：宇都宮市内の特別養護老人ホーム

講 師：美容師 川津 孝代・ネイリスト 信夫扶美子・人間福祉学科教授 中川 英子



ファッションショー終了後、モデルになった入居者のアンケートでは、「髪型やお化粧品に満足している」、「美容スタッフの対応がよかった」、「また、ファッションショーをしたい」「明日から化粧したい」等の意見が寄せられた。

一方、施設職員のアンケートでは、企画について、初めは入居者の反応を見ていて不安であったが、服装選びの段階で色々組み合わせてみたり、服についての思い出話をしたりと徐々に前向きに、生き生きとした表情になっていったこと、また実施してみて、衣装に着替えて化粧をしているうちに、次第に表情が変化していき、改めて入所者の美容へのニーズが高いことが分かったとの回答があった。

## ②出前美容福祉ボランティア

日 時：平成28年2月28日（日） 10：00～13：00

場 所：宇都宮市内の老人ホーム（ケアハウス）

担当教員：美容師 川津 孝代・ネイリスト 信夫扶美子

人間福祉学科教授 中川 英子

参加学生：「美容福祉講座」受講者4人（介護福祉専攻・子ども生活学部）

内 容：ケアハウスでの出前美容福祉の実践

メイク・ハンドマッサージ・ネイルケアの実習

（「美容福祉講座」27回～30回（実習・事後指導を含む））



ケアハウスで、「美容福祉講座」の受講を修了した学生が、講師の先生2人と一緒に、ボランティアで利用者の美容福祉（お化粧品とネイルケア）を実践した。

利用者は80歳から103歳までの高齢者が中心で、施術中は、終始学生と語らいながら楽しそうにひとときを過ごしていた。また、きれいにお化粧品した顔や、マニキュアした手を眺めながら、嬉しそうであった。

参加した学生は、講義で学んできた美容の知識や技術が、高齢者の生き生きした生活支援になることを実感し、卒業後も施設等で実践していきたいと話していた。

### ③学生のボランティア活動

人間福祉学科准教授 堀 圭三

人間福祉学科における学生の福祉施設等を対象とする一般的なボランティア活動については、学生生活委員会の教員が対外的な窓口となり、学生が積極的に参加できるように支援している。施設等からのボランティア募集については、学内に掲示して参加者を募っている。学生が参加するボランティア活動は、学生生活委員会において把握している。

平成27年度学生単独のボランティア活動は、下表の通りである。

| 依頼施設       | 内容       | 日時     | 参加人数 |
|------------|----------|--------|------|
| はりがや       | イベント手伝い  | 8月12日  | 3    |
| 桜花         | イベント手伝い  | 8月20日  | 1    |
| 宇都宮シルバーホーム | イベント手伝い  | 8月22日  | 2    |
| いずみ苑       | イベント手伝い  | 8月23日  | 1    |
| 宮の里ふじおか    | イベント手伝い  | 8月24日  | 2    |
| 共生の丘       | 納涼祭      | 9月6日   | 8    |
| 桜花         | イベント手伝い  | 9月18日  | 2    |
| マイホーム きよはら | クリスマス会   | 10月20日 | 2    |
| 桜花         | 中高生の学習支援 | 2月27日  | 1    |
| 桜花         | 中高生の学習支援 | 3月5日   | 1    |

合計 23人

平成26年度は6施設、延べ25人であったが、平成27年度は10施設、延べ23人が参加した。定期的な参加ではないが、各福祉施設からのイベント（夏祭り、盆踊り大会など）の手伝いが主である。両学科ともに平成26年度より、このように積極的にボランティアに参加した学生に対する表彰制度を設けて評価している。

また、長坂キャンパスで学生生活を送っている宇都宮共和大学子ども生活学部と宇都宮短期大学の学生組織である学友会では、毎年、宇都宮中央警察署が主催する「飲酒運転根



絶強化の日」広報のボランティア活動を実施している。この広報の目的は、飲酒運転による交通事故の悲惨さを広報し、ハンドルキーパー運動の周知を行い、飲酒運転の根絶を図ることである。指定された地区の酒類提供飲食店を訪問し、チラシや啓発品を配布して、広報活動に協力した。平成27年度は、9月25日（金）に行われ、学友会メンバー13人が参加した。なお、平成25年度に引き続き、27年度もこのボランティア活動に対して、宇都宮中央警察署より感謝状を授与された。

ボランティア活動に参加した学生は、どの活動においても、地域の人々と関わることでコミュニケーション能力や思いやりの心を培っていることが確認された。教員にとっても、地域のニーズの発掘と学生の教育指導方法や研究の幅を広げることにつながり、シナジー効果が高いことがわかった。

## 2. 課題

人間福祉学科教授 百田 裕子

人間福祉学科では、出前ファッションショーとネイルケアを多くの地域で開催できるよう、広報の仕方など検討する。一般のボランティア活動は、施設等からの依頼に対して学生生活委員会を通して実施し記録している。すべての依頼に対応することが難しく、学生への周知と選択の仕方について検討していく。

本学全体としては、活動先と活動側相互の改善が効果的にできるように、学生生活委員会や教職員相互で連携を高めて継続できるようにさらに検討する。

## [音楽科]

### 1. 各種活動

#### 音楽療法士専攻コースによるボランティア活動報告

音楽科非常勤講師 大島美知恵

音楽療法士専攻コースでは、年間を通して学内や病院、施設等で音楽によるボランティア活動を実施し、学生たちは音楽療法士になるために必要なスキルや人間性を育てている。ボランティア活動は2年間継続して行われることから、対象者理解、プログラムの構成方法、音楽の使い方、記録と評価といった音楽療法の体系を実践的に体験できる重要な機会となっている。

ボランティア活動を支えてくださっている学内の協力者、病院、施設の方々に感謝申し上げますと共に、今後とも学生と共に研鑽を重ね、活動を継続していきたい。

以下に、各ボランティアの内容について報告する。

#### ①Tiny（障害幼児と親子のつどい）

音楽科教授 山本久美子・非常勤講師 大島美知恵

日時：平成27年4月19日（日）、5月3日（日）、5月31日（日）、7月12日（日）、8月9日（日）、9月20日（日）、10月11日（日）、11月15日（日）、12月6日（日）、平成28年2月7日（日）  
10：00～11：45

場所：共和大学保育実習室

対象：障がい幼児とご家族

内容：各回において音楽、美術、お話し会のテーマで、工夫を凝らした遊びを提供している。音楽療法士専攻コースでは毎回の開始時と終了時に音楽を使った挨拶と遊びを担当してきた。その他、音楽がテーマの回では歌唱、楽器活動、鑑賞の他、視覚教材、身体活動、創作活動の中にも音楽を駆使し、様々な観点から音楽を感じることができるよう工夫を行ってきた。今後も障がい幼児とその家族、学生たちが音楽を介して自然に関われる活動を提案していきたい。

#### ②栃木県済生会宇都宮病院緩和ケア病院でのミニコンサート

音楽科教授 山本久美子・非常勤講師 大島美知恵

日時：平成27年5月15日（金）、6月19日（金）、7月17日（金）、9月4日（金）、10月2日（金）、11月20日（金）、12月11日（金）、平成28年2月5日（金）、3月18日（金） 計9回  
午後2：00～3：00

場所：栃木県済生会宇都宮病院 緩和ケア病棟 9階フロア

対 象：緩和ケア病棟入院患者

内 容：緩和ケア病棟のフロアにて入院患者さんや、そのご家族の方に対して参加型のコンサートを行った。季節ならではの果物や草木等を持参して、患者さんに触れて頂き、会話を深めながら一緒に歌うなど、対象者からの表現を引き出し、共有できる活動を心がけてきた。最近では医師がハーモニカで参加されるなど、医療スタッフが関与してくださる機会が多くなっている。

コンサート終了後の医師や看護師との会話から、フロアには来れなくても病室で楽しみに聞いている方が多くいらっしゃるとのことである。今後は病室で音楽を聴いている方々からリクエストを頂く方法や、病室へ出向いての音楽提供も考えていきたい。



### ③日本赤十字社足利赤十字病院

音楽科教授 山本久美子・非常勤講師 大島美知恵

日 時：平成27年7月24日（金）14：30～15：30

場 所：リハビリテーション病棟フロア

対 象：回復期リハビリテーション病棟に、入院されている方々及びその関係の方々

内 容：回復期リハビリテーション病棟に、入院されている方々に対しての音楽療法を行った。回復に向けての意欲促進や心身の発散の支援を目的に歌唱、身体活動、楽器活動、鑑賞等を行った。



回復期病棟には様々な症状の方、年齢の方が入院されているため、多くの方々に満足頂くには選曲のバランス、進行の工夫、楽器や小物類の呈示方法などに配慮が必要であった。様々な年代の音楽を知り、それらをバランスよくプログラムに組み込むことや、年代に左右されない即興演奏による楽器活動等の技法を学ぶ良い機会となった。

### ④社会福祉法人 正栄会 南の里クリスマス会

音楽科教授 山本久美子・非常勤講師 大島美知恵

・南の里デイサービスセンター あい・あらはり

日 時：平成27年12月10日（木）14：00～15：00

場 所：デイサービスセンターあい・あらはり ロビー

対 象：通所高齢者

・南の里ケアハウス

日 時：平成27年12月17日（木）14：00～15：00

場 所：南の里ケアハウス 食堂

対 象：入所高齢者

・南の里デイサービス

日 時：平成27年12月18日（金）14：00～15：00

場 所：南の里デイサービス 食堂

対 象：通所高齢者

内容：秋に実習を行った施設と、その関連施設など3か所の高齢者施設でクリスマス会を行った。学生達は実習時に親しくなった利用者さんとの再会に会話もはずみ、和やかな表情で活動できていた。

クリスマスは高齢者自身が子どもの頃から親しんできた行事ではないため、クリスマスの曲はメドレーで演奏し、クリスマスにはこだわらず、高齢者に馴染みのある曲を用意して、歌唱や楽器活動を楽しんで頂いた。また、ことわざや慣用句のクイズ等、対象者同志の会話が促される活動を行った。終了後「また来てください」と言って下さる利用者さんも多く見られた。

### ⑤シェームズ クリスマス会

音楽科教授 山本久美子・非常勤講師 大島美知恵

日 時：平成27年12月20日（日）13：00～14：00

場 所：宇都宮大学UUプラザ

対 象：障害のある兄弟をもつ小学生から高校生までの児童・生徒16名

内 容：アニメの曲やクリスマスの曲を使って、歌や鑑賞、楽器活動を行ったが、鑑賞では卒業生の協力を得て、トランペットやチェロなど様々な音色に触れられる機会となった。



この他、ボディーパーカッション、クイズ、クリスマスリースの創作など子ども達が自主的に参加し、交流が深まるような活動を行った。

## ⑥認定NPO法人 うりずんクリスマス会

音楽科教授 山本久美子・非常勤講師 大島美知恵

日 時：平成27年12月23日（水・祝）11：30～15：00

場 所：富谷地区市民センター

対 象：うりずんの利用者（医療的ケアを必要とする重症障がい児者）とその家族

内 容：多くのボランティアが様々な企画で参加したクリスマス会で、音楽療法士専攻コースの学生と卒業生は、ピアノ、トランペット、チェロ等の楽器を使用して、入場の際のBGMを担当した。その後は、利用者の方々と共に会の企画に参加し、交流を深めた。



## 2. 課題

音楽療法のボランティア活動の対象者は、幼児から高齢者まで幅広い年代にわたり、更に障害や病気によって状況は様々である。主催者側と連携し、それぞれの対象者の状況や抱えている問題を把握しながら、活動を提供していくことが課題となる。そのためにはボランティア実施の前後において、主催者側と意見交換できる機会を得るようにすること、各々の対象者に適した関わり方や音楽の使い方について、深く学ぶことが必須である。これに関連する授業内容を充実させることは勿論のこと、卒業生や県内の音楽療法士から体験談を聞いたり、現場の見学をさせてもらうなど、より実践に近い学びができる機会を増やしていきたい。

**資 料**  
**(地域福祉開発センター)**



# I. 地域貢献活動一覧表

| I. 人間福祉学科の地域社会に向けた公開講座、正規授業の開放等 |                                                                                               |                         |                                                       |                       |
|---------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|-------------------------------------------------------|-----------------------|
|                                 | 実施月日（曜日）<br>催事名<br>内容                                                                         | 会場                      | 主催者名                                                  | 対象者                   |
|                                 | （主担当者）                                                                                        |                         |                                                       |                       |
| (1)                             | 平成27年8月19日（水）<br>公開講座「介護職の接遇・マナー」                                                             | 宇都宮短期大学<br>3号館105教室     | 宇都宮短期大学人間福祉学科<br>地域福祉開発センター                           | 施設職員<br>福祉関係者         |
|                                 | 個別ケアを主体とする介護職の接遇・マナーについて福祉職員と一緒に確認した。（山屋恵美子）                                                  |                         |                                                       |                       |
| (2)                             | 平成27年7月11日（土）・8月8日（土）<br>9月19日（土）・10月24日（土）<br>11月28日（土）<br>福祉施設におけるレクリエーション活動<br>～手芸による生活支援～ | 宇都宮短期大学<br>3号館<br>家政実習室 | 宇都宮短期大学人間福祉学科<br>地域福祉開発センター                           | 施設職員<br>福祉関係者         |
|                                 | 福祉現場で活用できる手工芸の基礎と応用を、体験を通して学んだ。（百田裕子）                                                         |                         |                                                       |                       |
| (3)                             | 平成27年9月4日（金）～12月11日（金）<br>計15回<br>社会福祉士国家試験対策講座                                               | 宇都宮短期大学<br>3号館講義室       | 宇都宮短期大学人間福祉学科<br>地域福祉開発センター                           | 卒業生<br>社会福祉士国家試験受験希望者 |
|                                 | 平成27年度の社会福祉士国家試験受験希望者に本学の試験対策講座を開放して一緒に学んだ。（社会福祉専攻教員）                                         |                         |                                                       |                       |
| (4)<br>①                        | 平成27年11月14日（土）・15日（日）<br>彩音祭「農産物」直売コーナー<br>（J A宇都宮長坂地区組合）                                     | 宇都宮短期大学<br>長坂キャンパス      | 宇都宮短期大学人間福祉学科<br>地域福祉開発センター                           | 一般市民                  |
|                                 | 長坂キャンパス地域のJ A組合に協力して、彩音祭来場者に農産物を販売した。（人間福祉学科教員）                                               |                         |                                                       |                       |
| (4)<br>②                        | 平成27年11月14日（土）・15日（日）<br>彩音祭「福祉用具」展示コーナー<br>（ヤマシタコーポレーション）                                    | 宇都宮短期大学<br>長坂キャンパス      | 宇都宮短期大学人間福祉学科<br>地域福祉開発センター                           | 一般市民                  |
|                                 | 企業の協力を得て、福祉用具の展示・説明による地域福祉の向上を図った。（人間福祉学科教員）                                                  |                         |                                                       |                       |
| (4)<br>③                        | 平成27年11月14日（土）・15日（日）<br>彩音祭「福祉車両」展示コーナー<br>（栃木トヨペット）                                         | 宇都宮短期大学<br>長坂キャンパス      | 宇都宮短期大学人間福祉学科<br>地域福祉開発センター                           | 一般市民                  |
|                                 | 企業の協力を得て、福祉車両の展示・説明による地域福祉の向上を図った。（人間福祉学科教員）                                                  |                         |                                                       |                       |
| (4)<br>④                        | 平成27年11月15日（日）<br>彩音祭「長坂のサンマ祭り」<br>（チャリティー事業）                                                 | 宇都宮短期大学<br>長坂キャンパス      | 宇都宮短期大学人間福祉学科<br>地域福祉開発センター<br>（共催）<br>宇都宮短期大学附属高校調理科 | 一般市民                  |
|                                 | 本学園がサンマを買い上げ、附属高校調理科の生徒の協力を得て焼き、無料配布をした。（人間福祉学科教員）                                            |                         |                                                       |                       |



| II. 人間福祉学科の地域社会の行政、商工業、教育機関及び文化団体等との交流活動 |                                                                                                                       |                               |                               |                          |
|------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|--------------------------|
|                                          | 実施月日（曜日）<br>催事名<br>内容                                                                                                 | 会場                            | 主催者名                          | 対象者                      |
|                                          | （主担当者）                                                                                                                |                               |                               |                          |
| ①                                        | 平成27年9月30日（水）・10月7日（水）<br>10月21日（水）<br>平成27年度社会福祉施設新任職員研修会                                                            | とちぎ福祉ブラ<br>ザ 福祉研修室            | 栃木県社会福祉協議<br>会<br>福祉人材・研修センター | 社会福祉従事経<br>験年数1年未満<br>職員 |
|                                          | 「元気に創造とちぎの福祉～今までの自分とこれからの自分～」のテーマで、社会福祉に従事する新任職員を対象に研修を行った。<br><span style="float: right;">（小野篤司）</span>              |                               |                               |                          |
| ②                                        | 平成27年10月24日（土）<br>子育て支援員研修「乳幼児の食事と栄養」                                                                                 | 宇都宮共和大学<br>長坂キャンパス<br>5号館講義室  | 宇都宮市                          | 子育て支援員希<br>望者            |
|                                          | 離乳の進め方に関する最近の動向、栄養バランスを考えた幼児期の食事作りのポイント、食物アレルギー、保育者が押さえる食育のポイントについて理解する。<br><span style="float: right;">（百田裕子）</span> |                               |                               |                          |
| ③                                        | 平成28年2月25日（木）<br>平成27年度短期スキルアップ講習 介護技術<br>～ボディメカニクスってこんなに凄い!!きちんと<br>理解し、活用した介護技術を身につけましょう～                           | 宇都宮短期大学<br>3号館演習室・<br>介護実習室   | （公財）介護労働安定<br>センター栃木支所        | 介護従事者                    |
|                                          | ボディメカニクスに基づいた介護技術や声掛けの仕方など、利用者と介護者双方の身体や気配りを考慮した介護の在り方を再確認した。<br><span style="float: right;">（山屋恵美子）</span>           |                               |                               |                          |
| ④                                        | 平成27年5月2日（土）<br>宇都宮短期大学附属高校生活教養科3年<br>「特別授業」<br>福祉のための美容～講座とワーク～                                                      | 附属高校<br>記念講堂小ホー<br>ル          | 人間福祉学科<br>附属高校                | 附属高校<br>生活教養科3年          |
|                                          | 高齢者や障がいをもつ方の美容の意義と福祉のためのお化粧品や手の手入れ法について、体験を通して学ぶ。<br><span style="float: right;">（中川英子、川津孝代）</span>                   |                               |                               |                          |
| ⑤                                        | 平成27年5月27日（水）<br>小山北桜高校見学会授業～福祉・介護の礎とし<br>ての対人援助スキル（コミュニケーション）～                                                       | 宇都宮短期大学<br>3号館演習室             | 人間福祉学科                        | 小山北桜高校生<br>活文化科1～3<br>年  |
|                                          | 福祉・介護に関わる人のコミュニケーションの大切さを学ぶ。<br><span style="float: right;">（益川順子）</span>                                             |                               |                               |                          |
| ⑥                                        | 平成27年6月6日（土）<br>宇都宮共和大学（子ども生活学部）・宇都宮短<br>期大学（人間福祉学科）「特別授業」                                                            | 宇都宮共和大学<br>宇都宮短期大学<br>長坂キャンパス | 子ども生活学部<br>人間福祉学科<br>附属高校     | 附属高校<br>調理科3年            |
|                                          | 子ども生活学部と人間福祉学科との特長を知り、対象者の年齢に合わせた保育・福祉の在り方について一緒に考える授業を展開した。<br><span style="float: right;">（牧野カツコ、百田裕子、河田隆）</span>   |                               |                               |                          |
| ⑦                                        | 平成27年7月17日（金）<br>宇都宮短期大学附属高校生活教養科1年<br>「福祉体験学習」                                                                       | 宇都宮短期大学<br>3号館                | 人間福祉学科<br>附属高校                | 附属高校生活教<br>養科1年          |
|                                          | 福祉の基本概念を学び、それに基づいたユニバーサルデザインやコミュニケーションの図り方をいくつかのジャンルに分かれて体験する。<br><span style="float: right;">（人間福祉学科専任教員）</span>     |                               |                               |                          |

|   |                                                                                                                                                       |                               |                              |                          |
|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|------------------------------|--------------------------|
| ⑧ | 平成27年8月4日(火)<br>益子芳星高校高大連携授業<br>「子どもの発達と離乳食」                                                                                                          | 宇都宮短期大学<br>3号館<br>家政実習室       | 宇都宮共和大学子ども<br>生活学部<br>益子芳星高校 | 益子芳星高校2<br>年<br>附属高校希望者  |
|   | 子どもの食べることの意義と、乳幼児の身体側の発達と育児側の働きかけの相互作用による食事行為の大切さを生徒と一緒に考える。(百田裕子)                                                                                    |                               |                              |                          |
| ⑨ | 宇都宮短期大学附属高校普通科応用文理コース2年「福祉授業」<br>・平成27年9月7日(月)<br>美容福祉とコミュニケーション<br>・平成27年10月26日(月)<br>高校生のためのスクールソーシャルワーク入門<br>・平成27年11月16日(月)<br>病院で働く専門職～医療事務とMSW～ | 附属高校<br>記念講堂小ホール              | 人間福祉学科<br>附属高校               | 附属高校普通科<br>応用文理コース<br>2年 |
|   | 本学科で平成28年度から開講される福祉の新しい分野の紹介と興味を促す授業を展開した。(川津孝代、土屋佳子、平賀紀章)                                                                                            |                               |                              |                          |
| ⑩ | 平成28年1月29日(金)<br>宇都宮短期大学附属中学1年「福祉特別授業」                                                                                                                | 宇都宮短期大学<br>3・5号館              | 人間福祉学科<br>附属中学校              | 附属中学1年                   |
|   | ユニバーサルデザインを通して、心身がどのような状態でもその方らしい、その方が望む生活ができる福祉の基本的概念を、体験を通して学ぶ。(人間福祉学科専任教員)                                                                         |                               |                              |                          |
| ⑪ | 平成28年3月5日(土)<br>宇都宮短期大学附属高校調理科2年<br>「福祉特別授業」                                                                                                          | 宇都宮短期大学<br>宇都宮共和大学<br>長坂キャンパス | 人間福祉学科<br>子ども生活学部<br>附属高校    | 附属高校調理科<br>2年            |
|   | 福祉調理・福祉レクリエーションの実践を通して福祉への関心を高める。(百田裕子、月橋春美)                                                                                                          |                               |                              |                          |
| ⑫ | 平成28年3月25日(金)<br>わくわく春の大学体験講座                                                                                                                         | 宇都宮共和大学<br>宇都宮短期大学<br>長坂キャンパス | 宇都宮共和大学・宇都宮短期大学              | 県内外の高校生                  |
|   | 高校生に興味・関心のある分野について31講座を準備し、大学はどのようなことを学ぶのかを知り、進路選択に役立つ大学体験講座を実施した。(本学教員全員)                                                                            |                               |                              |                          |

| Ⅲ-1 人間福祉学科の教職員及び学生による地域貢献ボランティア活動 |                                                           |                        |                   |     |
|-----------------------------------|-----------------------------------------------------------|------------------------|-------------------|-----|
|                                   | 実施月日(曜日)<br>催事名<br>内容                                     | 会場                     | 主催者名              | 対象者 |
| ①                                 | 平成27年12月1日(火)<br>平成28年1月21日(木)<br>出前ファッションショー             | 宇都宮市内<br>特別養護老人<br>ホーム | 宇都宮短期大学地域福祉開発センター | 入所者 |
|                                   | 入所者の要望を聞き、お化粧品と服装を着替えてファッションショーを開催した。(川津孝代・信夫扶美子・中川英子)    |                        |                   |     |
| ②                                 | 平成28年2月28日(日)<br>出前美容福祉ボランティア                             | 宇都宮市内ケア<br>ハウス         | 宇都宮短期大学地域福祉開発センター | 入所者 |
|                                   | 学生と一緒に入所者の方にお化粧品やネイルケアを施術し、楽しいひとときを過ごした。(川津孝代・信夫扶美子・中川英子) |                        |                   |     |

|   |                                  |      |               |           |
|---|----------------------------------|------|---------------|-----------|
| ③ | 平成27年度の学生の福祉施設ボランティア活動 10件 23名参加 | 福祉施設 | 宇都宮短期大学人間福祉学科 | 入所者       |
|   | 福祉施設において、イベント時の手伝いを主に行った。        |      |               | (学生生活委員会) |

| Ⅲ-2 音楽科の教職員及び学生による地域貢献ボランティア活動 |                                                                                              |                               |                                            |                      |
|--------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|--------------------------------------------|----------------------|
|                                | 実施月日(曜日)<br>催事名<br>内容                                                                        | 会場                            | 主催者名                                       | 対象者                  |
| ①                              | 平成27年4月19日(日)～2月7日(日)<br>T i n y (障がい幼児と親子のつどい)                                              | 宇都宮短期大学<br>2号館・5号館<br>各所      | 宇都宮共和大学子育て<br>支援研究センターT i<br>n y           | 障がい幼児とその<br>家族       |
|                                | 月1回程度の割合で、障がい幼児とその家族に対し、宇都宮共和大学子ども学部と本学音楽科の教員と学生が共同して音楽、美術、お話し会のテーマで様々な遊びを提供した。(山本久美子・大島美知恵) |                               |                                            |                      |
| ②                              | 平成27年5月15日(金)～2月5日(金)<br>済生会 宇都宮<br>済生会病院緩和ケア病棟ミニコンサート                                       | 済生会 宇都宮<br>病院9階フロア            | 社会福祉法人<br>恩賜財団済生会支部栃<br>木県済生会宇都宮病院         | 緩和ケア病棟入<br>院患者       |
|                                | 月1回程度の割合で、緩和ケア病棟において、音楽療法士専攻コースの学生及び卒業生によるミニコンサートを行った。(山本久美子・大島美知恵)                          |                               |                                            |                      |
| ③                              | 平成27年7月24日(金)<br>足利赤十字病院<br>リハビリテーション病棟コンサート                                                 | 足利赤十字病院<br>リハビリテーション<br>病棟フロア | 日本赤十字社<br>足利赤十字病院                          | リハビリテーション<br>病棟の入院患者 |
|                                | 回復期リハビリテーション病棟において、参加型のミニコンサートを行った。(山本久美子・大島美知恵)                                             |                               |                                            |                      |
| ④                              | 平成27年12月10日(木)<br>南の里デイサービスセンター<br>あい・あらはり クリスマスコンサート                                        | デイサービスセ<br>ンター<br>あい・あらはり     | 社会福祉法人<br>正栄会南の里デイサー<br>ビスセンター あい・<br>あらはり | 通所者                  |
|                                | デイサービスセンターに通所している高齢者の方々に対して、クリスマスコンサートを行った。(山本久美子・大島美知恵)                                     |                               |                                            |                      |
| ⑤                              | 平成27年12月17日(木)<br>南の里ケアハウス クリスマスコンサート                                                        | 南の里ケアハウ<br>ス                  | 社会福祉法人<br>正栄会 南の里ケアハ<br>ウス                 | 入所者                  |
|                                | ケアハウスに入所している高齢者の方々に向けて、クリスマスコンサートを行った。(山本久美子・大島美知恵)                                          |                               |                                            |                      |

## Ⅱ. 専任教員の社会貢献活動

| 学科     | 職位             | 教員氏名  | 委嘱の内容                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                            |                                                                                                                                                     |
|--------|----------------|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        |                |       | 名称                                                                                                                                                                                                                                                                                | 職位                                                                         | 設置者                                                                                                                                                 |
| 人間福祉学科 | 学科長<br>教授      | 中川 英子 | 栃木県立さくら清修高校スクールカウンセラー<br>栃木県立さくら清修高校 学校評議員<br>宇都宮短期大学附属高校・中学校スクール・カウンセラー<br>介護福祉士養成大学連絡協議会(全国)<br>宇都宮短期大学公開講座                                                                                                                                                                     | スクールカウンセラー<br>学校評議員<br>スクールカウンセラー<br>理事<br>講師                              | 栃木県立さくら清修高校<br>栃木県立さくら清修高校<br>学校法人須賀学園<br>介護福祉士養成大学連絡協議会<br>宇都宮短期大学地域福祉開発センター                                                                       |
| 人間福祉学科 | 介護福祉専攻主任<br>教授 | 百田 裕子 | フードバレーとちぎ推進協議会上都賀地域高付加価値化推進委員会<br>うつのみや次世代産業イノベーション推進委員会<br>子育て支援員専門研修<br>宇都宮短期大学公開講座<br>宇都宮市民大学公開講座                                                                                                                                                                              | 委員<br>委員<br>講師<br>講師<br>講師                                                 | 上都賀農業振興事務所<br>宇都宮商工会議所<br>宇都宮市<br>宇都宮短期大学地域福祉開発センター<br>宇都宮市                                                                                         |
| 人間福祉学科 | 社会福祉専攻主任<br>教授 | 天野 マキ | 社会福祉法人「青少年と共に歩む会」児童自立支援施設<br>社会福祉法人 ばる特別養護老人ホームいきいきタウンとだ<br>特別非営利活動法人りすシステム 任意後見・生前契約受託機関<br>東洋大学社会福祉学会<br>文京区介護保険市民オンブズマン<br>Boston University, School of Social Work Dean's Advisory Board<br>公益法人 私立大学情報教育協会社会福祉学教育FD/ICT活用研究委員会<br>「家族介護者のつどい」<br>社会井福祉法人「芳香会」<br>宇都宮短期大学公開講座 | 理事・評議員<br>理事・評議員<br>理事<br>顧問<br>代表<br>A Member<br>アドバイザー<br>代表<br>監事<br>講師 | 社会福祉法人「青少年と共に歩む会」<br>社会福祉法人「ばる」<br>特別非営利法人りすシステム<br>東洋大学<br>文京区民<br>Boston University<br>公益法人私立情報教育協会<br>文京区民有志<br>社会福祉法人「芳香会」<br>宇都宮短期大学地域福祉開発センター |

|            |     |       |                                                                                                                                                        |                                                            |                                                                                                                     |
|------------|-----|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 人間福祉<br>学科 | 准教授 | 山屋恵美子 | 介護保険認定審査会<br>宇都宮短期大学公開講座<br><br>家族向け介護教室<br>施設への出前授業<br>介護福祉士国家試験実技試験                                                                                  | 委員<br>講師<br><br>講師<br>講師<br>実地試験員                          | 東京都板橋区<br>宇都宮短期大学地域福祉開発センター<br>東京都小金井市<br>東京都社会福祉協議会<br>(公財)社会福祉振興・試験センター                                           |
| 人間福祉<br>学科 | 准教授 | 平賀 紀章 | 栃木県運営適正化委員会(苦情解決委員会)<br>日本社会福祉士養成校協会 栃木県支部<br><br>社会福祉士国家試験対策講座<br>千葉市管弦楽団運営委員<br><br>全国アマチュアオーケストラフェスティバル千葉県大会<br>宇都宮短期大学公開講座<br><br>栃木こども未来創造大学 公開講座 | 副委員長<br>運営委員<br><br>講師<br>副団長兼事務局長<br>実行委員<br><br>講師<br>講師 | (社福)栃木県社会福祉協議会<br>(一社)日本社会福祉士養成校協会<br>(公財)横浜YMCA<br>千葉市管弦楽団<br>(公社)日本アマチュアオーケストラ連盟<br>宇都宮短期大学地域福祉開発センター<br>栃木県教育委員会 |
| 人間福祉<br>学科 | 講師  | 小野 篤司 | 宇都宮市地域密着型サービス運営委員会<br>宇都宮市地域包括支援センター運営協議会<br>社会福祉施設新任職員研修                                                                                              | 委員<br>委員<br><br>講師                                         | 宇都宮市<br>宇都宮市<br>栃木県社会福祉協議会                                                                                          |
| 人間福祉<br>学科 | 講師  | 益川 順子 | わかばケアセンター研修(東京都委託)<br>介護福祉教育実践研究会                                                                                                                      | 講師<br>会員                                                   |                                                                                                                     |

### Ⅲ. 宇都宮短期大学地域福祉開発センター規定

#### (趣 旨)

第1条 宇都宮短期大学人間福祉学科地域福祉開発センターは、学内はもとより、学外と連携した調査・研究を推進するとともに、その成果を地域住民や福祉施設の職員等を対象としたセミナーや講演会等の活動に反映させることによって、地域福祉の開発に貢献することを目的とする。

#### (組 織)

第2条 地域福祉開発センターの構成は、宇都宮短期大学教員および学外からの研究員とする。

- 2 センター長は人間福祉学科専任教授とし、センター業務を統括する。その下に運営を担当する委員会を置く。
- 3 必要に応じて客員研究員を含めた研究会を置き、他大学や研究機関とも連携する。
- 4 情報確保および交流のために学外の関連機関や行政等と連携する。

#### (任 期)

第3条 センター長は学長が委嘱し、任期は2年とする。再任は妨げない。

#### (活 動)

第4条 センターの活動は、次の各号とする。

- 一 学外の研究機関や地域の企業を含めた新分野、テーマによる学際的調査、研究(自主・共同)の実施。
- 二 地域社会や企業からの受託研究、共同調査の実施
- 三 シンポジウム、講演会、公開講座、出前授業等の開催
- 四 地域の要請に応えた人材育成(セミナー等)の活動
- 五 機関誌の発行による情報提供
- 六 地域社会に役立つ統計のデータベース整備による公開
- 七 その他

#### (予 算)

第5条 センター活動に関わる予算は、独立採算の運営を目指す。

#### (事 務)

第6条 地域福祉開発センターは、宇都宮短期大学人間福祉学科施設内に置き、事務担当は委員会が行う。

#### 附 則

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

子育て支援研究センター運営委員 (◎センター長 ○運営委員長)

◎牧野カツコ ○石本真紀 中畝治子 高柳恭子 河田隆 蟹江教子 土沢薫  
桂木奈巳 石本真紀

地域福祉開発センター運営委員

◎中川英子 ○平賀紀章

表紙デザイン 中畝治子

第6号編集担当 蟹江教子

研究センター年報 第6号

|       |                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 発行日   | 平成28年8月31日                                                                                                                                                                                                                        |
| 編集・発行 | 宇都宮共和大学子育て支援研究センター<br>宇都宮短期大学地域福祉開発センター<br>〒321-0346<br>宇都宮市下荒針町長坂3829<br>TEL 028-649-0511(代)<br>FAX 028-649-0660<br>e-mail : kosodate@kyowa-u.ac.jp<br>Website : <a href="http://www.kyowa-u.ac.jp">http://www.kyowa-u.ac.jp</a> |
| 印刷    | 株式会社 松井ピ・テ・オ・印刷                                                                                                                                                                                                                   |
| 定価    | 1,000円 (消費税込み)                                                                                                                                                                                                                    |

# 宇都宮共和大学子ども生活学部

## 子育て支援研究センター公開講座の記録が 装いを新たに、金子書房から出版されました。

### 目 次

#### I部 子どもの育つ社会・環境を 考える

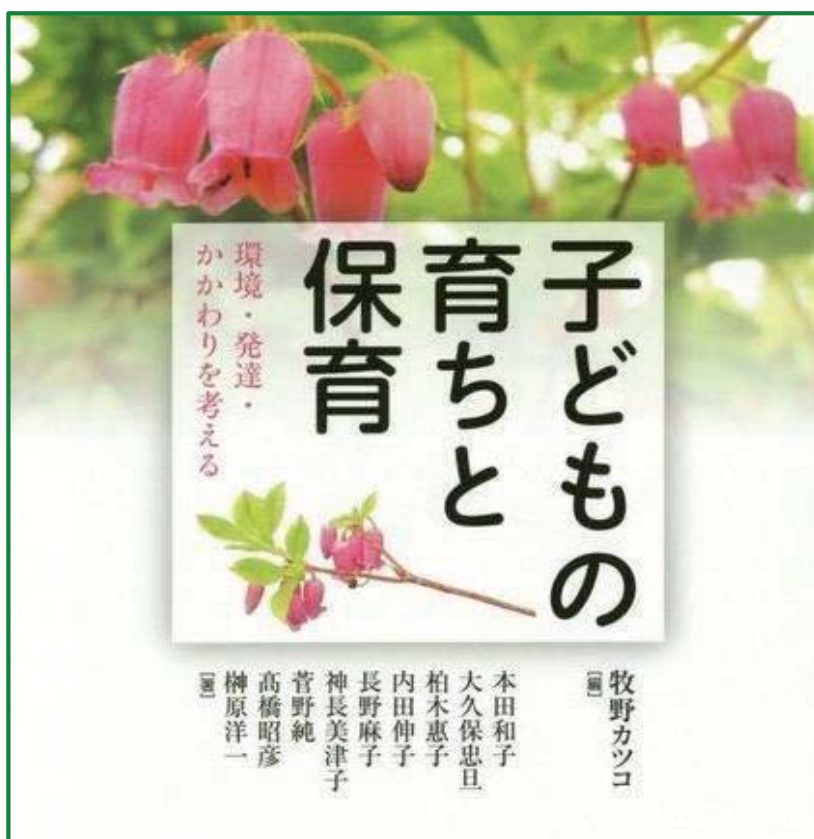
1. 子どもへのまなざし
2. 子どもの成長と自然
3. 子どもが育つ条件

#### II部 子どもを育むかかわり方 を考える

4. 子どもの創造的想像力を育む親の役割
5. ことばと呼吸と音楽
6. 幼児期から児童期への教育

#### III部 気になる子どものケアを 考える

7. 生涯発達心の基礎づくり
8. 医療的ケアが必要な子どものレスパイトケア
9. 気になる子どもと脳科学



### 人とのかかわりや自然から学ぶことの大切さ

子どもが安心して育つために必要なことを子育て支援の専門家らが提言。  
お母さんにまかせきりにしない子育て、幼児期から児童期へのなめらかな接続、発達障害について知っておきたいことなど、いま、保育に求められる子どもの見方・かかわり方がわかる。

金子書房

定価 本体 2300 円 + 税

表紙の写真は、栃木県那須高原で絶滅が危惧されているウラジロヨウラクというつつじの仲間です。本学名誉教授・元副学長 大久保忠旦先生が花の開花時期を見計らって那須高原に4回も足を運んで撮影されたものです。(本文 35 頁参照)



